

【専門教育科目】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育者論 (E101)	2	必修	1年 前期	講義	田中 育子(※)
【キーワード】 保育士、幼稚園教諭、職業倫理、守秘義務、アクティブラーニング					
【授業内容・授業の目的】 保育を学ぶ者のスタートラインとして、これから各々が目指していく保育の現場の実際と、そこで働く保育者の専門性について学ぶ。専門職への意欲を高めるとともに、適性の判断と進路選択についても理解を深める。 ・グループワークやシミュレーション等のアクティブラーニングを取り入れる。 ・保育の記録などで必要とされる基礎的な国語力などを身に付けられるよう、実践形式で学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：保育者に求められる倫理観を養い、子どもの発達段階に応じた保育について理解する。 保育の対象への理解：保育の動向を踏まえ、保育者として必要な専門性や資質を理解する。 実践力と協働性：保育者の社会的役割と専門性・協働性について理解する。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育者とは	テキスト第1章を読む。(2時間)			
2週	保育者と保育の本質	テキスト第2章を読む。(2時間)			
3週	保育者の役割と倫理	テキスト第3章を読む。(2時間)			
4週	保育者の歴史	テキスト第4章を読む。(2時間)			
5週	保育者の資質	テキスト第5章を読む。(2時間)			
6週	保育者の専門性	テキスト第6章を読む。(2時間)			
7週	保育者の養成	テキスト第7章を読む。(2時間)			
8週	保育者の業務	テキスト第8章を読む。(2時間)			
9週	保育者のマナー	テキスト第9章を読む。(2時間) 保育者に必要なマナーをまとめておく。			
10週	望ましい保育者像	テキスト第10章を読む。(2時間)			
11週	保育者の研修・服務	テキスト第11章を読む。(2時間)			
12週	保育者の環境づくり	テキスト第12章を読む。(2時間)			
13週	保育者の協働	テキスト第13章を読む。(2時間)			
14週	保育者と専門機関の連携	テキスト第14章を読む。(2時間) 地域にある専門機関をまとめておく。			
15週	保育者と法令	テキスト第15章を読む。(2時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）50%、提出物30%、受講態度20% 保育の本質：家庭環境や子ども一人ひとりの発達や特性に共感的理解を持ち、保育者に求められる倫理観を修得しているか、定期試験（レポート）によって評価する。 保育の対象への理解：保育の現状に理解と正しい知識を持ち、保育者として求められる資質と高い視座を有しているか、定期試験（レポート）及び提出物によって評価する。 実践力と協働性：社会人としての基礎力を鍛え、協働性をもって社会貢献しようとする意欲や態度を有しているか、定期試験（レポート）及び受講態度によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 谷田貝公昭・石橋哲成 『保育者論』 一藝社 ISBN 978-4-86359-145-5					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 必要に応じて資料を配付します。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育者としての基礎力向上を目指します。様々な保育者像について学び、保育者としての使命感と資質を高めましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育原理 (E102)	2	必修	1年 前期	講義	塩崎 正
【キーワード】 教育の歴史、学校教育制度、子ども観、教育問題					
【授業内容・授業の目的】 授業は講義とワークの二つの形式で進めていきます。講義形式で授業内容のポイントを伝えるとともに、皆さんがこれまでの経験を振り返られるようワークを取り入れます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：学校を取り巻く社会的・政治的・経済的状况について理解している。 論理的思考力：現代の教育の諸課題について自分の言葉で説明することができる。 保育の対象への理解：教育の歴史・教育の思想に関する歴史の変遷について理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	教育の目的（公教育と私教育の分類）	谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.9-28までを読んでおく。(2時間)			
2週	欧米における学校教育制度の成立とその意義	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.87-98までを読んでおく。(2時間)			
3週	日本における学校教育制度の成立とその意義	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.78-86までを読んでおく。(2時間)			
4週	学校教育制度の現在	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.116-124までを読んでおく。(2時間)			
5週	西洋における教育思想(古代～前近代)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.106-111までを読んでおく。(2時間)			
6週	西洋における教育思想(近代以後)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.112-115までを読んでおく。(2時間)			
7週	日本における教育思想(明治～昭和初期)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.97-102までを読んでおく。(2時間)			
8週	日本における教育思想(昭和中期以後)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.102-105までを読んでおく。(2時間)			
9週	第2回～第8回のまとめ	これまでに学習したことを教科書や配布物を読み、復習しておく(4時間)			
10週	子ども観の変遷(子どもの発見)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.39-47までを読んでおく。(2時間)			
11週	子ども観の変遷(子どもの権利条約)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.29-38までを読んでおく。(2時間)			
12週	現代日本における教育の課題(学歴社会)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.145-151までを読んでおく。(2時間)			
13週	現代日本における教育の課題(幼保小連携)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.131-134までを読んでおく。(2時間)			
14週	現代日本における教育の課題(家庭・地域との連携)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』pp.125-130までを読んでおく。(2時間)			
15週	まとめ	これまでに学習したことを教科書や配布物を読み、復習しておく。(2時間) 定期試験に向けて学習をする(4時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験(筆記)50%、提出物40%、受講態度10% 保育の本質：学校を取り巻く社会的・政治的・経済的状况について理解しているか、提出物および受講態度によって評価する。 論理的思考力：現代の教育の諸課題について自分の言葉で説明することができるか、定期試験および提出物によって評価する。 保育の対象への理解：教育の歴史・教育の方法・教育の思想に関する歴史の変遷について理解しているか、定期試験(筆記)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 谷田貝公昭・石橋哲成『教育原理』一藝社 ISBN 978-4-863-59109-7 文部科学省『幼稚園教育要領解説書』ISBN 978-4-577-81447-5 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 ISBN 978-4-577-81449-9					
【参考書等】 山田弘昌『少子社会日本—もうひとつの格差のゆくえ』岩波書店 ISBN 978-4-004-31070					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は、講義形式を基調としつつレポート発表やディスカッションも取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。日頃から教育活動に関心を持ち、授業での発言など積極的に参加するよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育原理 (E103)	2	必修	1年 前期	講義	田中 育子(※)
【キーワード】 保育、保育所保育指針、幼稚園教育要領、養護と教育の一体性、発達、アクティブラーニング					
【授業内容・授業の目的】 保育とは、子どものかわいらしい姿に接するという表層的な関わりではなく、子どもの命や日々の生活に関与するという重い責任を伴う。子どもを慈しみ、育てようとする力を養うために、保育の基本的概念と保育の営みについて学ぶ。 ・ブレインストーミングや調べ学習等のアクティブラーニングを取り入れる。 ・手遊びやふれあい遊びなどの保育に必要な基礎的な技術についても扱う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：保育の思想並びに歴史の変遷を理解する。 保育の対象への理解：保育の意義と保育所保育指針における保育の基本について理解する。 実践力と協働性：保育を取り巻く現代的課題について理解し、考察を深めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育とは何か【ブレインストーミング】	テキスト（手遊び歌）から、曲を探して練習する。（2時間）			
2週	保育の思想と役割	自分の生い立ちを家族にインタビューしてまとめる。（3時間）			
3週	自分の子ども時代を知る	自分の幼少期を振り返ってまとめる。（3時間）			
4週	保育の歴史の変遷	自分の出身園の所在地や名称、運営母体等を調べてまとめる。（3時間）			
5週	保育の記録と評価	手遊びの練習をする。ボランティア経験等を振り返ってまとめる。（4時間）			
6週	子どもの大切な権利	子どもの権利条約について、調べて内容を理解する。（3時間）			
7週	子どもの最善の利益と社会	授業で扱ったすべての曲を復習し、発表の練習をする。（4時間）			
8週	保育の制度と施設	テキスト保育所保育指針第1章を読み保育所保育の基本原則をまとめる。（4時間）			
9週	ワークライフバランスと保育ニーズ	働き方改革について調べるとともに、保育所保育指針第4章を読んで子育て支援の在り方について理解する。（4時間）			
10週	多文化共生社会とは【シミュレーション】	多文化共生社会について、調べて資料を用意する。（4時間）			
11週	3歳未満児の発達と保育	テキスト保育所保育指針第2章1・2を読んでまとめる。（4時間）			
12週	3歳以上児の発達と保育	授業の視聴覚教材を振り返り、子どもの発達と保育についてまとめる。（5時間）			
13週	養護と教育の一体性	これまで学んだ全ての手遊びを練習する。（5時間）			
14週	子どものための保育環境	これまで全てのプリントを振り返る。調べ学習の必要資料を用意する。（6時間）			
15週	現代社会における保育の課題	授業を振り返り、疑問点や課題を見出す。（6時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）60%、提出物30%、受講態度10% 保育の本質：保育の思想や歴史的背景、法制度についての理解と知識があるか、定期試験（筆記）によって評価する。 保育の対象への理解：保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づいた保育の原則について理解し、子どもの発達と保育の関連性についての知識を有しているか、定期試験（筆記）及び提出物によって評価する。 実践力と協働性：子どもを取り巻く環境や保育の課題を発見し、協働性を持って解決策を探索することができるか、提出物及び受講態度によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 植田光子 『手あそび百科—「いつ」「どのように」使えるかがわかる!!』 ひかりのくに ISBN 978-4-564-60383-9					
【参考書等】 関口はつ江 『保育原理』 萌文書林 ISBN 978-4-89347-227-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育の基礎基本を学ぶ科目です。自主的・主体的に学ぶ姿勢をもって積極的に授業に臨んでください。手遊びの発表・評価は学生にフィードバックしますので、実践力の向上に活かしてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育社会学 (E401)	2	選択 (幼免必修)	2年 後期	講義	塩崎 正
【キーワード】 社会変容、教育格差、学校教育、教育改革、学校と家族・地域の連携					
【授業内容・授業の目的】 授業では身近な事例や、メディア等から教育事象を取り上げ、その問題性を捉える視点を養う。具体的には教育と選抜、社会階層と教育、メディアと教育、また教師の社会学などのテーマについて基礎的な概念や理論とともに、授業で紹介される最近の研究成果をもとに、受講生は議論を交えながら理解を深める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：子どもの主体性の尊重や、家庭や地域との連携の重要性が理解でき、保育者・支援者としての適切な使命感や倫理観、共感的な態度を身につけている。 教育の対象への理解：子どもの心身の成長や発達について理解し、発達に即した児童文化財の活用や養護と教育が一体となって展開される保育について理解することができる。 論理的思考力：書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析し、獲得した知識・理解を基に、論理的に思考し説明することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション（授業の方針や評価）		新聞等で教育に関する話題を把握しておく（4時間）		
2週	教育と選抜① 学校教育の社会的機能とメリトクラシー		教育や学校がなぜ必要であるかを考えておく（4時間）		
3週	教育と選抜② 社会化と選抜・配分		前時に配布した教育に関する資料を読んでおく（4時間）		
4週	教育と選抜③ 選抜過程		学校教育のあり方について考えをまとめておく（4時間）		
5週	学力の社会学① 学力格差		前時に配布した近代教育史の資料を読んでおく（4時間）		
6週	学力の社会学② 教育施策、学校での取り組みと学力格差		前時に配布した戦後史の資料を読んでおく（4時間）		
7週	近年における教育法制度改革 (教育基本法を中心に)		前時に配布した教育法制度の資料を読んでおく（4時間）		
8週	子どもを巡る教育問題①（少子化・高齢化やグローバル化の進展、雇用環境の変容）		新聞等で現代社会の変容とその課題について把握しておく（4時間）		
9週	子どもを巡る教育問題②（地域社会・家族の変容、格差の再生産・固定化）		新聞等で子どもを巡る教育問題について把握しておく（4時間）		
10週	教育改革の意義と課題（諸外国の教育政策）		新聞等で外国の教育動向や課題を把握しておく（4時間）		
11週	学校教育の危機管理① (学校や子どもを取り巻く危険性と対応)		小中学校の学校生活のなかで不安や危険を感じた経験についてまとめておく（4時間）		
12週	学校教育の危機管理② (学校安全の推進に関する今後の計画)		学校生活に潜む危険を事前に除去するための方策について考えておく（4時間）		
13週	学校と地域との連携① (地域教育の歴史と意義及び課題)		小中学校で経験した地域と連携した学習活動を振り返り、その内容をまとめておく（4時間）		
14週	学校と地域との連携② (コミュニティスクールと地域学校協議会)		地域に根ざした学校となるために、地域との連携はどのようであるべきかを考えておく（4時間）		
15週	まとめ（日本における第三の学制改革）		これからの学校や教育のあり方について自分の考えをまとめておく（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）60%、提出物 30%、受講態度 10% 保育の本質：子どもの主体性の尊重や、家庭や地域との連携の重要性が理解でき、保育者・支援者としての適切な使命感や倫理観、共感的な態度を身につけたか、定期試験と提出物で評価する。 教育の対象への理解：子どもの心身の成長や発達について理解し、発達に即した児童文化財の活用や養護と教育が一体となって展開される保育について理解することができたか、定期試験と提出物で評価する。 論理的思考力：書籍や新聞、インターネット等を用いて、様々な社会問題について情報を収集・分析し、獲得した知識・理解を基に、論理的に思考し説明することができるようになったか、定期試験と受講態度で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 授業時に適宜プリントを配布する。					
【参考書等】 荻谷剛彦『学校って何だろう—教育の社会学入門』筑摩書房 ISBN 978-4-4804-2157-9 内閣府、文部科学省、厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は、講義形式を基調としつつ、レポート発表やディスカッションも取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。日頃から、社会や教育の動向に関心を持ち、授業での発言など積極的に参加できるよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育・保育の心理学 (U105)	2	必修	1年 前期	講義	西川 晶子
【キーワード】教育、保育、心理学、赤ちゃん、自我、認知、学習					
【授業内容の目的】教育・保育にかかわる心理学の知識を習得する。子どもの心身の発達のプロセスを理解し、子ども理解のための体系的な知識を身に着ける。心理学の諸理論を理解し、子どもの発達における現象を理解し、保育者として相応しい実践を考えることが出来るようになる。					
【授業の目標・到達目標】 保育対象への理解：乳幼児の心身の発達のプロセスを知り、理解する。 論理的思考力：様々な理論を体系的に理解して活用する。 保育の本質：人間存在を尊重し共感的な視点を持つ。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 子どもの心と大人の心のワーク		テキスト目次の通読 配布ワークシートへの記入（4時間）		
2週	赤ちゃんとは①ヒトの赤ちゃん 有能な赤ちゃん像 発達の原理		テキストP6～19通読 キーワードをまとめる（4時間）		
3週	赤ちゃんとは②反射 運動発達 言葉の発達		テキストP20～28、P48～55通読 キーワードをまとめる（4時間）		
4週	赤ちゃんとは③ 愛着の発達 愛着の質		テキストP40～47通読 キーワードをまとめる配布資料記入（4時間）		
5週	赤ちゃんとは④初期経験の重要性		テキストP101～104通読 キーワードをまとめる 配布資料通読（4時間）		
6週	幼児の心①自我の発達 社会性の発達		テキストP58～69通読 キーワードをまとめる（4時間）		
7週	幼児の心②遊びの発達 心の理論		テキストP76～86通読 キーワードをまとめる（4時間）		
8週	幼児の心③認知発達 脳神経細胞発達		テキストP29～38通読 キーワードをまとめる（4時間）		
9週	信頼関係づくりの基本（コミュニケーション・ストローク）		子どもとのコミュニケーションについて考える。 配布プリント通読（4時間）		
10週	保育に必要な心理学①防衛機制他		配布プリント通読キーワードをまとめる（4時間）		
11週	保育に必要な心理学？対人認知 集団他		配布プリント通読キーワードをまとめる（4時間）		
12週	愛着の質 保育士の役割事例検討		テキスト配布資料を読んでレポートにまとめて提出（4時間）		
13週	青年期の心 アイデンティティ		配布プリント（青年期の心理）通読 キーワードをまとめる（4時間）		
14週	保育士の発達 親の発達 生涯発達		配布プリント（諸理論）通読 キーワードをまとめる（4時間）		
15週	プレテスト期末試験対策		定期試験にむけてまとめキーワード確認（4時間）		
【成績評価の方法・基準】定期試験（筆記）70%、小テスト15% 提出物15% 保育対象への理解：発達心理学諸理論と子どもの発達の理解を定期試験（筆記）および小テストで評価する 論理的思考力：知識を論理的に運用し考えられるかを定期試験（筆記）および提出物で評価する 保育の本質：人間尊重の視点を定期試験（筆記）および小テスト、提出物で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 授業内で解説する。					
【テキスト】沼山博 三浦主博編著『子どもとかかわる人の心理学』 萌文書林 ISBN 978-4-89347-340-0 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】河原紀子編著『幼稚園指導要領』『保育所保育指針』『子どもの発達と保育の本』学研 ISBN978-4-05-800867-6					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 新しい理論、知識の多い内容です。毎回授業後の新しいキーワードの復習をしてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
特別支援教育 (U106)	2	必修	1年 後期	講義	赤間 公子
【キーワード】 特別支援教育、障害の概念、連携					
【授業内容・授業の目的】 特別な支援を必要とする幼児に対する保育についての理念や歴史的変遷、様々な障害について理解することを目的とする。また、その援助方法や保育の計画等、個別支援について理解する。様々な障害や教育的ニーズについて理解し、行動特性の理解や援助方法について学ぶ。障害ではないが、特別な保育的教育的ニーズのある幼児の生活上の困難とその対応を理解する。子どもたちが関りの中で育ち合う保育実践について理解を深める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：特別支援教育の意義について理解する。障害の概念を正しく理解する。 保育の本質：障害児の行動特性やその背景となる生活を知り、家庭や関連機関と連携を取りながら保育支援のあり方の基本的な事柄を理解することができる。 保育の方法と技能：障害児の心理や人権を尊重した保育のあり方、支援の方法を考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	障害の捉え方 ノーマライゼーションとICF	障害の捉え方について調べ、まとめる（4時間）			
2週	インクルーシブ教育について	障害児保育・教育の歴史に該当する部分をまとめる（4時間）			
3週	障害児の発達とアセスメント	健常発達について確認する（4時間）			
4週	障害の理解と発達援助（視覚障害）	視覚障害の種類と日常生活における困難及び必要とされる支援についてまとめる（4時間）			
5週	障害の理解と発達援助（聴覚障害）	聴覚障害の程度と日常生活における困難及び必要な支援についてまとめる（4時間）			
6週	障害の理解と発達援助（肢体不自由）	肢体不自由の原因と日常生活における必要な支援についてまとめる（4時間）			
7週	障害の理解と発達援助（知的障害）	知的障害のある子どもの行動特性と具体的な支援について考えまとめる（4時間）			
8週	発達障害の理解と援助(PDD/ADHD/LD)	各発達障害の特徴と具体的な支援についてまとめる（4時間）			
9週	就学前の障害児保育の形態と実践	障害児保育の現状について調べる（4時間）			
10週	小中学校における特別支援教育の展開について	自分が住んでいる地域の特別支援学校について調べる（4時間）			
11週	特別支援学校について	特別支援学校の種類とその特徴について調べる（4時間）			
12週	個別教育支援計画について	配布資料を読み、教育計画を作成してみる（4時間）			
13週	個別教育支援計画の作成	講義の後、計画を見直し、修正する（4時間）			
14週	関連機関との連携	関連機関を調べ、どのような連携が必要か調べる（4時間）			
15週	家庭への支援 まとめ	授業を振り返り、課題をまとめる（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験 60%、レポート等提出物 20% 受講態度 20% 保育の対象への理解：特別支援教育の意義について理解し、障害の概念を正しく理解するという点については定期試験において評価する。 保育の本質：障害児の行動特性やその背景となる生活を知り家庭や関連機関と連携を図りながら進める保育支援のあり方を学ぶという点については定期試験および演習課題の発表などの受講態度において評価する。 保育の方法と技能：障害児の心理や人権を尊重した保育のあり方、支援の方法を考えるという点については定期試験によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 小林徹 栗山宜夫 編『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』株式会社みらい ISBN 978-4-86015-389-2					
【参考書等】 安藤隆男『改訂新版 特別支援教育基礎論』NHK出版 ISBN 978-4-595-31533-6 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 配慮を必要とする子どもたちへの理解を深め、その支援について考えてください。また、特別支援教育に関連するニュースなど関心をもってください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育・保育課程論 (U203)	2	必修	1年 前期	講義	塩崎 正
【キーワード】幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、カリキュラム・マネジメント					
【授業内容・授業の目的】教育課程・保育計画の内容と意義について理解することにより、指導計画作成に関する基本的理解を獲得する。自ら指導計画（長期・短期）を作成しながら、カリキュラム・マネジメントの手法を体験的に身に付ける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：教育・保育課程編成の意義や必要性を認識し、その編成の仕方について理解している。 保育の方法と技能：学習指導要領や幼稚園教育要領及び保育所保育指針に関する理解をもとに、カリキュラム・マネジメント力を身につけている。 保育の本質：指導要領の内容を踏まえて教育・保育課程を構想することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	教育・保育課程の目的・目標・内容	『保育の計画と評価を学ぶ』pp.12～33を読んでおく。(2時間)			
2週	指導要領の目的と役割(教育・保育内容の五領域)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『幼稚園教育要領』等の「五領域」に関する項目を読んでおく。(2時間)			
3週	指導要領の変遷とそれぞれの改訂の主旨	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.34～51を読んでおく。(2時間)			
4週	カリキュラム・マネジメント(開かれた学校づくり)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.54～71を読んでおく。(2時間)			
5週	カリキュラム・マネジメント(幼保小の連携・接続)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 各地方自治体のアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて調べておく。(2時間)			
6週	具体的な保育実践の構造分析(物語論)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 子どもにおける物語の意義を調べる。年齢に合った物語を調べる。(2時間)			
7週	幼稚園・保育園における評価(評価手法の分析)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.149～165を読んでおく。(2時間)			
8週	幼稚園・保育園における評価(指導要録の記載)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.166～169を読んでおく。(2時間)			
9週	長期の指導計画(長期の指導計画の分類)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.123～125および配布資料を読んでおく。(2時間)			
10週	長期の指導計画(教育・保育目標の分析)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 複数の幼稚園のホームページを閲覧し、どのような長期計画を立てているかを調べる。(2時間)			
11週	長期の指導計画(年間指導計画の作成)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 長期計画の草案を作成する。(2時間)			
12週	短期の指導計画(短期の指導計画の分類)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.126～148を読んでおく。(2時間)			
13週	短期の指導計画(指導計画作成における留意事項)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 『保育の計画と評価を学ぶ』pp.170～189を読んでおく。(2時間)			
14週	短期の指導計画(短期の指導計画の作成)	配布物を参考に前回の授業を復習する。(2時間) 長期計画の草案を作成する。(2時間)			
15週	まとめ	これまでに学習したことを教科書や配布物を読み、復習しておく。(2時間) 定期試験に向けて学習をする(4時間)			
【成績評価の方法・基準】提出物40%、定期試験(レポート)30%、小テスト20%、受講態度10% 保育の対象への理解：教育・保育課程編成の意義や必要性を認識し、編成の仕方について理解できているか、提出物および小テストによって評価する。 保育の方法と技能：学習指導要領や幼稚園教育要領及び保育所保育指針に関する理解をもとに、カリキュラム・マネジメント力を身につけているか、提出物、技能および受講態度によって評価する。 保育の本質：指導要領の内容を踏まえて教育・保育課程を構想できるか、定期試験および提出物によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】加藤敏子・岡田耕一編 『保育の計画と評価を学ぶ：保育の基盤の理解と実習への活用』 萌文書林 ISBN 978-4-8934 7-329-5					
【参考書等】倉橋惣三 『幼稚園真諦』 フレーベル館 ISBN 978-4-577-80315-8 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は講義形式を基調としつつレポート発表やディスカッションも取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。日頃、教育・保育の動向に関心を持ち、授業での発言など積極的に参加するよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と健康 (U206)	1	必修	1年 後期	演習	高井 和男
【キーワード】領域「健康」、運動あそび、健康、発育発達、安全教育					
【授業内容・授業の目的】 子どもの身体的特徴を把握し、その健康管理、安全のために何が必要かについて学ぶ。また、幼児体育の指導者として、数多くの運動あそびを体験し、自らが運動あそびの達人となつて、楽しく指導することができる能力を養うことを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 領域「健康」の基礎的な知識をもとに、子どもの健全な発達を総合的にとらえることができる。また、子どもの発達に応じた、運動あそびのスキルと指導法を身につけている。 論理的思考法：子どもの心と体の健康を理解し、適切な支援をすることができる。 保育の方法と技能：多様な保育環境に応じて、実践的に運動あそびを指導することができる。 実践力と協働性：個々のテーマを見つけ、協力しながら、問題解決することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション（授業の進め方と授業内容）		シラバスを参照し、必要な準備をする。（1時間）		
2週	子どもの健康の概念と領域「健康」		領域「健康」を参照し、最近の子どもの健康問題について調べておく。（1時間）		
3週	子どもの運動あそび① ボールゲーム（1）		ボールの特性について調べておく。（1時間）		
4週	子どもの運動あそび② ボールゲーム（2）		ボールあそびについて調べておく。（1時間）		
5週	子どもの運動あそび③ なわとび、なわあそび		短なわ、長なわの特性について調べておく。（1時間）		
6週	子どもの運動あそび④ フラフープ（1）		フラフープの特性について調べておく。（1時間）		
7週	子どもの運動あそび⑤ フラフープ（2）		フラフープあそびについて調べておく。（1時間）		
8週	子どもの運動あそび⑥ おにごっこ（1）		おにごっこの種類について調べておく。（1時間）		
9週	子どもの運動あそび⑦ おにごっこ（2）		おにごっこの応用について検討する。（1時間）		
10週	子どもの生活習慣		子どもの年齢ごとの発育発達について調べておく。（1時間）		
11週	子どもの発育発達		子どもの年齢ごとの生活習慣について調べておく。（1時間）		
12週	子どもの安全教育と防災		子どもの安全教育と地域の防災について調べておく。（1時間）		
13週	保育士のストレス対策		保育士としてのコミュニケーションの向上とストレスについて調べておく。（1時間）		
14週	保育士の健康と体力		保育士としての健康と体力について調べておく。（1時間）		
15週	まとめとふり返り		これまでの学習と実践をふり返る。（1時間）		
【成績評価の方法・基準】技能 40%、定期試験（レポート）30%、受講態度 30% 理論的思考力：子どもの健康、発達に関する諸問題について理解できているか、レポートで評価する。 実践力と協働性：運動あそびの実技に積極的に参加する受講態度を評価する。 保育の方法と技能：子どもの運動あそびのスキルと指導法が習得できているか、技能で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日 2月16日（金）					
【テキスト】授業中に適宜資料を配付する。					
【参考書等】日本レクリエーション協会 『みんなのレクリエーションゲーム』 池田書店 ISBN4-262-14382-1					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】実技をとまなう授業では、運動に適したウェア、シューズを準備する。健康に留意し、授業に積極的に参加する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と人間関係 (U207)	1	必修	1年 後期	演習	西川 晶子
【キーワード】 幼児、人間関係、親子、仲間、自我の発達、自分づくり、遊び、自己主張と自己抑制					
【授業内容・授業の目的】 幼児期の人間関係の発達について多方向から論ずる。 事例検討等、体験的な学びを多く経験する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能： 発達にあわせた活動、環境、人間関係について具体的に計画できる。 保育対象への理解： 幼児の人間関係の発達を理解する。 実践力と協働性： 人間関係の発達を促す活動を協働しながら実践できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 幼児期の私と家族のワーク		ワークシートへの記入（1時間）		
2週	諸理論の確認（ヴィゴツキー、ゲゼルほか）		配布資料通読（諸理論）（1時間）		
3週	乳幼児期の人間関係 愛着の発達		配布資料通読（愛着の発達）（1時間）		
4週	3歳児の発達		テキスト P45~56 通読（1時間）		
5週	4歳児の発達		テキスト P57~66 通読（1時間）		
6週	5歳児の発達		テキスト P67~P76 通読（1時間）		
7週	6歳児の発達		テキスト P77~86 通読（1時間）		
8週	発達過程ミニテスト 映像視聴（アトム保育所）		配布資料通読（発達過程）（1時間）		
9週	学習理論の基礎		配布資料通読（学習理論）（1時間）		
10週	学習理論の応用		配布資料通読（学習理論応用）（1時間）		
11週	保育にいかす学習理論ミニテスト		配布資料の見直しと学習（1時間）		
12週	地域・社会との関わり 事例（あかいぼーるをさがしています）		配布資料（社会とのかかわり）通読 （1時間）		
13週	認知バイアス 防衛機制 集団の心理		配布資料（集団の心理）通読（1時間）		
14週	脳の発達と保育 自己主張と自己抑制		配布資料通読（自己主張と自己抑制） （1時間）		
15週	気になる子 強いストレスにあった子		配布資料通読（災害やトラウマケア） 整理（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）60%、小テスト20%、受講態度20% 保育の方法と技能： 定期試験（筆記）および小テストで評価する。 保育対象への理解： 定期試験（筆記）で評価する。 実践力と協働性： 定期試験（筆記）および受講態度で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 授業内で解説する。					
【テキスト】 河原紀子著『0歳～6歳子どもの発達と保育の本』 学研 ISBN 978-4-05-800867					
【参考書等】 加藤繁美著『0歳～6歳心の育ちと対話する保育の本』 学研 ISBN 978-4-05-405388 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 佐川寛子・成瀬美恵子著『保育者のためのカウンセリングマインド入門』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0106-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と環境 (M305)	1	必修	2年 後期	演習	稲生 弘志
【キーワード】 環境教育、領域、アクティブラーニング、ESD(持続可能な開発のための教育)、SDGs					
【授業内容・授業の目的】 領域「環境」を学ぶ上で基礎となるESDや子どもを取り巻く環境について扱う。発達段階を踏まえた子どもの主体的な活動を引き出す環境構成や、領域「環境」に関わる具体的な遊びについて体験を通して学ぶ。 相互評価レポートやシミュレーション等のアクティブラーニングを取り入れる。 屋外で自然と関わる体験的活動を取り入れ、保育の場で活用できるように実践的に学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：体験的な活動を通じて、子どもと自然への関わり意義について理解している。 保育の対象への理解：現代の子どもを取り巻く社会環境の基本や課題について理解している。 論理的思考力：思考力や科学的概念の発達や、身の回りの事象への興味関心に関する知識を身に付けている。					
授業計画			準備学習等		
1週	幼児の生活とESD(持続可能な開発のための教育)	持続可能な開発のための取り組みを調べる。(1時間)			
2週	つくる遊びからの環境の視点	保育所保育指針第2章の環境に関する部分を読む(1時間)			
3週	環境と造形活動への発展	保育所保育指針第2章の表現に関する部分を読む(1時間)			
4週	幼児の身の回りのもので遊ぶ	制作に使用できそうな廃材を集める(0.5時間)			
5週	遊びを通して育む興味関心	廃材を工夫して作品として完成させる(1時間)			
6週	生命の営みに触れる	植物の成長に必要なものを調べる(1時間)			
7週	物質の変化への興味関心	五感の働きについて調べる(0.5時間)			
8週	探究心の芽生えを育む	子どもたちの身の回りの事象について調べる(1時間)			
9週	子どもの生活と情報や施設	地域の公共施設について調べる(1時間)			
10週	子どもと自然環境との関わり【フィールドワーク】	季節の植物を観察する(1時間)			
11週	自然を活かした活動の展開	自然を活かした遊びを調べる(1時間)			
12週	数や文字、図形、標識への興味関心【相互評価レポート】	数や文字、図形、標識等に関する絵本を調べる(1時間)			
13週	自然現象に関わる保育【フィールドワーク】	季節や自然を取り入れた遊びを調べる(1時間)			
14週	環境に主体的に関わるとは【シミュレーション】	SDGsについて調べる(2時間)			
15週	保育における環境教育	自分の生活と環境とのかかわりについてまとめる(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)60%、提出物30%、受講態度10% 保育の方法と技能：体験的な活動を通じて、子どもと自然への関わり意義について理解しているか、定期試験(レポート)及び受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：現代の子どもを取り巻く社会環境の基本や課題について理解しているか、定期試験(レポート)及び提出物によって評価する。 論理的思考力：思考力や科学的概念の発達や、身の回りの事象への興味関心に関する知識を身に付けているか、提出物によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】 和田 浩志『NEO POCKET 植物』小学館 ISBN 978-4-09-217282-1					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 様々な活動を保育に取り入れ保育の内容を充実させるために、保育者自身の自然体験を豊かにすることが大切です。授業を通じて多くの体験を積み重ね、実践力を身に付けて下さい。*保育者として望ましい心や資質は一朝一夕に養われるものではありません。保育者を目指す学生としてふさわしい態度や服装での出席を求めます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と言葉 (M306)	1	必修	2年 前期	演習	赤間 公子
【キーワード】 言語発達、コミュニケーション、ことば遊び、児童文化財					
【授業内容・授業の目的】 幼児が豊かな言語表現を身に付けること、想像することの楽しさを広げるために、必要な専門事項に関する知識や技能を身に付けることを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：保育に関する基本的な技能とそれを活用するための豊かな教養を身に付け、保育実践に活かすことができる。 保育の本質：保育者及び支援者として適切な使命感や倫理観を持ち、他者と共感的に関わりコミュニケーションとは何かについて考えることができる。 保育の対象への理解：子どもの言語発達、成長及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を身に付ける。					
授業計画			準備学習等		
1週	幼児の言発達過程について		幼児の言語発達について調べてくる（1時間）		
2週	コミュニケーションの手段としての言葉について		コミュニケーションとは何か考える（1時間）		
3週	幼児の文字獲得の過程について		幼児の文字発達について調べまとめる（1時間）		
4週	言語発達とことば遊びについて		ことば遊びについて調べる（1時間）		
5週	ことば遊びの種類について		発達に合ったことば遊びについて調べる（1時間）		
6週	児童文化財の役割（絵本・紙芝居）について		絵本や紙芝居を図書館で探す（1時間）		
7週	児童文化財の役割（ペープサート・パネルシアター）について		ペープサート・パネルシアターを動画で観る（1時間）		
8週	絵本のビブリオバトル（子どもの発達に合った絵本を選ぶ）		ビブリオバトルのための絵本を選ぶ（1時間）		
9週	絵本のビブリオバトル（発表）		ビブリオバトルの原稿を書く（1時間）		
10週	模擬保育（言葉を主活動にして）指導案の作成		模擬保育の指導案を書く（1時間）		
11週	指導案をもとにした模擬保育の発表		模擬保育の発表の練習をする（1時間）		
12週	模擬保育の反省と総括（グループ学習）		模擬保育の発表のふりかえりをする（1時間）		
13週	ICTを使った幼児教材について		ICTを使った幼児教材を探す（1時間）		
14週	言語の相談と家庭支援		ことばに遅れのある幼児への支援についてまとめる（1時間）		
15週	まとめ		レポート課題をする（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）50%、受講態度50% 保育の本質：保育者および支援者として適切な使命感・倫理観を持ち、他者と共感的に関わることができるという点は、受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：子どもの言語発達、成長及び子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を身に付けるという点については、定期試験（レポート）によって評価する。 保育の方法と技能：保育に関する基本的な技能とそれを活用するための教養を身に付け実践に活かすという点については、受講態度及び定期試験（レポート）によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 適宜、授業時に資料を配布する					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 幼児の言語発達を確かめながら発表の経験を積むことで、実践に臨む準備をしましょう					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と表現(音楽) (M403)	1	必修	2年 後期	演習	唐沢 流美子
【キーワード】 幼児音楽と基礎音楽技能の大切さ ・即興表現 ・アクティブ・ラーニング					
【授業内容・授業の目的】 音楽主要4要素や音楽活動5要素を理解し、総合的に活用しながら、歌唱表現や即興伴奏表現をととして、保育における音楽の力の大切さを体感、体得していく。 ・自発力を発揮し、協働して活動を進めることで、積極性、主体性、協調性を養っていく。 ・具現しやすい活動の設定や、グループワークを工夫・実践し、歌唱表現や即興伴奏表現の修得に結びつける。					
【授業の到達目標(学習成果)】 ・音楽の基礎力…リズム(拍や刻み)、メロディ(音高やリズム)を正しくとらえ、歌ったり弾いたりすることができる。 ・歌唱表現と即興伴奏表現…保育音楽表現に必要な知識と技術を体得することができる。 ・アクティブ・ラーニング…自ら課題に取り組み考えを持ち、他と協力して自発的に学習することができる。					
授業計画				準備学習等	
1週	オリエンテーション(「幼児と表現」のねらい、内容に関する説明、音楽表現について、幼児の音楽表現の発達(聴く力、反応する力))			テキスト「音楽の諸要素」部分を読む。(1時間)	
2週	幼児への歌唱教材の選択と実際(音楽の発達と選曲、保育士自身の表現力:即興力、歌唱力について) ※以下、幼児の歌を歌と表記			テキスト「表現力育ち52P」を読む。(1時間)	
3週	歌と即興伴奏の習熟①「とんぼのめがね」「まつぼっくり」(声量の確保、基本コードの読み取り)			「とんぼのめがね」「まつぼっくり」の譜読み(1時間)	
4週	歌と即興伴奏の習熟②「どんぐりころころ」(息の使い方や声量の確保、メジャーとマイナコードの読み取り)			「どんぐりころころ」の譜読み、テキスト186P「即興演奏への導入:1」読み(1時間)	
5週	歌と即興伴奏の習熟③「大きな栗の木の下で」「アイアイ」(言葉の発音と発声、やや複雑なコードの読み取り①)			「大きな栗の木の下で」「アイアイ」の譜読み、テキスト186P「即興演奏への導入:2」読み(1時間)	
6週	歌と即興伴奏の習熟④「子どもの世界」(言葉の発音と発声、やや複雑なコードの読み取り②)			「子どもの世界」の譜読み、「即興演奏への導入:2」読み(1時間)	
7週	歌と即興伴奏の習熟⑤「森のクマさん」(言葉の発音と共鳴を利用した発声、やや複雑なコードの読み取り③)			「森のクマさん」の譜読み、「即興演奏への導入:3,4」読み(1時間)	
8週	歌と即興伴奏の習熟⑥「あわてんぼうのサンタクロース」(言葉の発音と共鳴を利用した発声、やや複雑なコードの読み取り③)			「あわてんぼうのサンタクロース」の譜読み、「即興演奏への導入:3,4」読み(1時間)	
9週	歌唱表現と即興の応用①「にじ」「七つの子」(リズム表現)			「にじ」「七つの子」の譜読み(1時間)	
10週	歌唱表現と即興の応用②「世界に一つだけの花」(リズム表現の工夫:様々なリズムパターン)			「世界に一つだけの花」の譜読み、「即興演奏への導入:8」読み(1時間)	
11週	歌唱表現と即興の応用③「ジングルベル」(リズム表現の工夫:様々なリズムパターン、曲への応用)			「ジングルベル」の譜読み、「即興演奏への導入:8」読み(1時間)	
12週	歌唱表現と即興の応用④「スイカの名産地」「サザエさん」(リズム表現の工夫:様々なリズムパターン、曲への応用、7thコードの読み方)			「スイカの名産地」「サザエさん」の譜読み(1時間)	
13週	曲全体の表現と弾き歌い①「さんぽ」「幸せなら手をたたこう」			「さんぽ」「幸せなら手をたたこう」の譜読み(1時間)	
14週	曲全体の表現と弾き歌い②「あめふりくまの子」「南の島のハメハメハ大王」(曲の頂点構成や特徴ととらえ、複雑なコードの読み取り方)			「あめふりくまの子」「南の島のハメハメハ大王」の譜読み、コードの捉え(1時間)	
15週	曲全体の表現と弾き歌い③「山の音楽家」(曲の頂点構成や特徴ととらえ、複雑なコードの読み取り方、任意曲での弾き歌い発表)			授業の振り返りと、音楽表現への展望	
【成績評価の方法・基準】 方法 ①個人やグループ発表での表現活動(30%) ③リズム・歌唱技能(30%) ④提出物20% ④受講態度20% 保育の方法と技能:幼児の表現を支えるための基礎的な知識や技能を身につけ、豊かな表現活動を展開できているか、技能や受講態度によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 提出されたレポート等は点検後、また遅くとも後期の最後の授業には返還する。					
【テキスト】・唐沢史比古著『音楽育への総合的アプローチ』～豊かな音楽教育のための実践書～ ・長野県音楽教育学会編『たのしいうた』ケイ・エム・ピー J ASRAC 1814388-801					
【参考書等】『こどものうた』田中常雄監修 圭文社 ISBN978-4-87446-076-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・授業では実践(活動体験、技術習得、体得)を大切にします。務めて出席するように努力してください。 ・授業や活動についての提出物(感想文等)と、個々の実技演習をすることがあります。評価の参考にします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幼児と表現(造形) (M108)	1	必修	1年 前期	演習	稲生 弘志
【キーワード】 幼児造形の理解、表現構想力、材料の特質の理解					
【授業内容及び方法】 子どもの表現活動を支援する保育者として、表現構想力と基礎描写力を養うとともに、様々な材料の性質に関する基礎的知識を獲得する。実際に、壁面装飾や木材パズルの制作を行うことで、道具の使用技術を体得し、子どもの表現造形に関する実践的な指導力の獲得を目指す。					
【授業の到達目標(学習成果)】 保育の方法と技能：立体作品や平面作品を制作するための材料の性質や道具の使用方法を理解している。 保育の本質：「幼児と表現」のねらいと内容、及び他の領域との関係について理解している。 実践力と協働性：自然の素材(紙、木材)に親しみ、造形作品を制作するための構想力や描写力を身に付ける。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション(領域「幼児と表現」のねらい及び内容に関する説明・理解)			テキスト全般を読んでおく(1時間)	
2週	表現構想力の獲得① (壁面装飾制作：園の環境づくりの構想(合エスキース作り))			壁面装飾制作の構図と図案を考えておく(1時間)	
3週	表現構想力の獲得②(壁面装飾制作：構想に基づくエスキースの拡大・色画用紙への描写)			壁面装飾制作の全体的色彩のコーディネートを考えておく(1時間)	
4週	表現構想力の獲得③ (壁面装飾制作：型を描いた色画用紙の裁断)			壁面装飾制作における材料の特質を考察する(1時間)	
5週	表現構想力の獲得④ (壁面装飾制作：色画用紙で制作した型の貼り付け)			壁面装飾の意味とその効果を考察する(1時間)	
6週	様々な遊び道具の理解 (紙・木・粘土を使用した遊び道具に関する理解と制作)			様々な遊び道具について調べておく(1時間)	
7週	材料の性質理解①(身の回りにある様々な材料理解にもとづく木材パズル制作の構想) 身近な道具使用技術の習得 (糸ノコ、ヤスリ、ニスの使用目的・使用方法に関する理解)			パズル制作に必要な材料と性質、使用方法について考察する(1時間)	
8週	材料の性質理解②・基礎描写力の獲得 (構想したデザインの描写)			パズル制作の意味と遊びについて考察する(1時間)	
9週	材料の性質理解③・基礎描写力の獲得 (描写したデザインの木材への転写)			パズル制作のデザインを考えておく(1時間)	
10週	材料の性質理解④(絵を描いた木材の裁断)			電動糸ノコの使用目的について理解する(1時間)	
11週	材料の性質理解⑤(絵を描いた木材の裁断の続き)			板と糸ノコの使用目的、木の性質を考察する(1時間)	
12週	材料の性質理解⑥(切り離れた木片へのヤスリがけ・着色)			木目とヤスリがけについての方法を考察する(1時間)	
13週	材料の性質理解⑦(切り離れた木片へのニス塗り) 身近な道具使用技術の習得① (カッターやはさみを使用した切り絵の制作)			ニス等の塗料の性質と使用方法を調べておく(1時間)	
14週	材料の性質理解⑧(切り離れた木片への二回目のニス塗り) 身近な道具使用技術の習得②(切り絵の制作の続き)			カッターやはさみについての方法を考察し、技能を身に付けておく(1時間)	
15週	本授業の総括(遊びにおける制作物活用の探究・作品の合評会)			本授業の意義と成果について考察する(1時間)	
【成績評価の方法・基準】 定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 保育の方法と技能：立体作品や平面作品を制作するための材料の性質や道具の使用方法を理解しているか、技能によって評価する。 保育の本質：「幼児と表現」のねらいと内容、及び他の領域との関係について理解しているか、受講態度によって評価する。 実践力と協働性：自然の素材(紙、木材)に親しみ、造形作品を制作するための構想力や描写力を身に付けているか、定期試験(実技)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 槇英子 『保育をひらく造形表現』 萌林書林 ISBN 978-4893472953					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 楽しんで作品を制作する心は子どもに通じるもの。意欲的に制作に挑んで欲しい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容総論 (M208)	1	必修	1年 後期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、保育内容、養護と教育の一体性、アクティブラーニング					
【授業内容・授業の目的】 各領域のねらいと内容を踏まえて、遊びを中心として総合的に育まれる環境を通じた多様な保育内容の展開についての理解と知識を深める。子どもたちの日々の興味関心と関連付けながら、保育を計画・実践するための知識や技術を身に付けることを目指す。 ・ケースメソッドやロールプレイ等のアクティブラーニングを取り入れる。 ・模擬保育の計画・実践・改善を通して、主体的で対話的な学びを深める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：子どもの主体性に基づいた保育活動の計画を立て、活動を展開することができる。 保育の本質：幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の領域や構造について理解する。 保育の対象への理解：子どもの発達の特長や発達過程に応じて、養護と教育が一体的に展開する保育を理解する。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育内容とは何か	テキスト第1・10章を読む。(0.5時間)			
2週	保育内容の変遷	テキスト第3・4章を読む。(0.5時間)			
3週	養護と教育の一体性	テキスト第2・5章を読む。(0.5時間)			
4週	遊びを通じた学び【グループワーク】	テキスト第6章を読む。授業で行った遊びをまとめる。(1時間)			
5週	個と集団の育ち【ケースメソッド】	テキスト第7章を読む。(0.5時間)			
6週	保育における記録の種類と方法	テキスト第8・9章を読む。(0.5時間)			
7週	視聴覚教材を活用した保育の観察	視聴覚教材の保育の一日を記録する。(2時間)			
8週	環境を通して行う保育	「保育所保育指針」第1章を読む。(0.5時間)			
9週	保育の計画と評価【グループワーク】	テキスト第11・12・13章を読む。(1時間)			
10週	身近な素材で遊ぶ【模擬保育】	指導案に取り入れたい活動を調べる。(1時間)			
11週	体を動かして遊ぶ【模擬保育】	模擬保育の計画を立てる。(1時間)			
12週	友達と協力して遊ぶ【模擬保育】	指導案を仕上げる(2時間)			
13週	小学校との連携・協力【ケースメソッド】	模擬保育の確認と準備をする。(1時間)			
14週	保育の現場から知る子どもの気持ち	テキスト第15章を読む。(1時間)			
15週	地域社会で育つ子どもたち【ロールプレイ】	テキスト第14章を読む。レポート課題の資料を探す。(2時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、提出物30%、技能20%、受講態度10% 保育の方法と技能：子どもの発達と保育内容の関連性を理解し、保育を計画・展開することができるか、定期試験（レポート）及び技能によって評価する。 保育の本質：保育所保育指針、各種法令等に基づいた保育観及び倫理観を有しているか、定期試験（レポート）、受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：養護と教育が一体となって展開される保育の在り方と保育内容に関する理解を有しているか、提出物及び技能によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 谷田貝公昭 『コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論』』 一藝社 ISBN 978-4-86359-148-6					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 倉橋惣三 『育ての心（上/下）』 フレーベル館 ISBN 978-4-577-80317-2 / ISBN 978-4-577-80318-9					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 5つの領域に分かれている保育内容ですが、実際の保育では総合的に展開されています。この授業を通して保育内容について理解を深めましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (健康) (M307)	1	必修	2年 前期	演習	高井 和男
【キーワード】領域「健康」、基本的な生活習慣、運動あそび、レクリエーション、指導法					
【授業内容・授業の目的】領域「健康」の位置づけ、ねらいと内容、「健康」の意義について理解し、保育者としての役割を考える。その内容として、基本的な生活習慣の確立、日常の安全管理と事故防止などが含まれ、乳幼児期の発育発達の特徴を踏まえ、健康教育と運動あそびの指導法を実践的に理解する。					
【授業の到達目標 (学習成果)】子どもの心と体の健康を培っていくための保育環境や具体的な援助内容について学び、理解を深める。また、子どもの健康と安全に関わる基礎的知識を習得し、それらの実践的指導ができるようになる。 保育の方法と技能：子どもの健康と安全に関わる知識を習得し、基本的な指導ができる。 保育の対象への理解：子どもの心身の発達に関する知識を理解し、年齢に応じた運動あそびの指導ができる。 実践力と協働性：子どもの発達に応じた実践的な指導とその振り返りができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	領域「健康」のねらいと内容の理解	領域「健康」について確認しておく。(1時間)			
2週	生活リズムや基本的な生活習慣の獲得	基本的な生活習慣とは何かを調べておく。(1時間)			
3週	子どものあそびと生活文化	子どものあそびの変化について調べておく。(1時間)			
4週	運動あそびの指導法 (グループワーク) ① ボールあそび	ボールあそびの指導法について調べておく。(1時間)			
5週	運動あそびの指導法 (グループワーク) ② おにごっこ	おにごっこの指導法について調べておく。(1時間)			
6週	運動あそびの指導法 (グループワーク) ③ フラフープ	フラフープの指導法について調べておく。(1時間)			
7週	運動あそびの指導法 (グループワーク) ④ なわとび	なわとびの指導法について調べておく。(1時間)			
8週	運動あそびの指導法 (グループワーク) ⑤ サーキットあそび	サーキットあそびの指導法について調べておく。(1時間)			
9週	子どもの体力とトレーニング	こどもの体力低下の原因について調べておく。(1時間)			
10週	子どものウォーミングアップと傷害防止	こどもの運動とケガについて調べておく。(1時間)			
11週	子どもの発育発達	こどもの発育発達について調べておく。(1時間)			
12週	子どもの「いのち」と生命倫理	「いのち」の倫理観について考えておく。(1時間)			
13週	少人数のレクリエーションゲームの教材研究と指導法	少人数のレクリエーションを本で調べておく。(1時間)			
14週	多人数のレクリエーションゲームの教材研究と指導法	多人数のレクリエーションを本で調べておく。(1時間)			
15週	ふり返りとまとめ	これまでの学習と実践をふり返る。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】受講態度 40%、技能 30%、定期試験 (レポート) 30% 保育の方法と技能：模擬保育を通して、子どもの健康と安全に関わる知識を習得し基本的な指導が身についているか、技能で評価する。 保育の対象への理解：子どもの心身の発達に関する知識を有し理解しているか、指導案を主とした提出物や小テストで評価する。 実践力と協働性：子どもの発達に応じた指導から、そのふり返りや問題点を改善できる能力が身についているか、定期試験 (レポート) にて評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】井狩芳子 『演習保育内容「健康」』 萌文書林 ISBN 9784893472755					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】実技をとまなう授業では、運動に適したウェア、シューズを準備する。健康に留意し、授業に積極的に参加する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (人間関係) (M308)	1	必修	2年 前期	演習	西川 晶子
【キーワード】 人間関係、親子、仲間、自我の発達、自分づくり					
【授業内容・授業の目的】 幼児を取り巻く人間関係の現代的課題を理解し、人と関わる力を育てることの重要性と方法を習得する。 幼児の人間関係の発達に合わせた適切な保育を計画出来るように、クラスでの意見交換によって体験的な学びを多く経験する。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 保育の方法と技能：遊びを通した人間関係の発達を理解しかかわりに活かすことができる。 実践力と協働性：保育の現場において乳幼児の人間関係の発達を促進する保育者としての行動が想定できる。 保育対象への理解：乳幼児の人間関係の発達について理解を深めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1 週	自分の人間関係をふりかえる 自分を知るビッグファイブ		ワークシートへの記入をしておく。(1 時間) 心理テストを実施し振り返りシートを作成する		
2 週	幼稚園教育要領における「人間関係」精読 保育の基本と人とのかかわり ビッグファイブ解説		幼稚園教育要領通読テキスト P3～17 通読。 (1 時間) ビッグファイブ結果の考察		
3 週	乳幼児期における人間関係の発達 スクリブル法 かかわりの難しい子の事例		テキスト P21～36 通読。(1 時間)		
4 週	嘘をつく子遊びをささえるファンタジー		ワークシート記入しておく。(1 時間)		
5 週	遊びのなかで育つ人とのかかわり つながりを求める姿		ワークシート記入しておく。テキスト P39～53 通読 (1 時間)		
6 週	遊びのなかで育つ人とのかかわり 個と集団		テキスト P53～63 通読。(1 時間)		
7 週	かかわりのむずかしい子ども 保護者対応のロールプレイ		テキスト P67～80 通読。(1 時間)		
8 週	協働的プロジェクトの展開 5 歳児クラスプロジェクト型保育		ワークシート記入 テキスト P135～152 通読。 (1 時間)		
9 週	ジェノグラム 虐待が疑われる事例		配布資料 (事例検討) 精読 (1 時間)		
10 週	アートセラピー体験 集団の発達		配布資料精読 (集団の発達) (1 時間)		
11 週	かかわりを育てる保育者の役割		テキスト P91～105 通読 (1 時間)		
12 週	かかわりが難しい子を支える		テキスト P109～132 通読、ワークシート記入 (1 時間)		
13 週	領域「人間関係」をめぐる諸問題		テキスト P159～172 通読 (1 時間)		
14 週	保育士としての自分を知る 地域や関係機関とのかかわり		ワークシート記入テキスト P135～156 通読 (1 時間)		
15 週	3 歳児の遊び、仲間づくり いざこざについてまとめ 保育士としての自分をとらえる。		ワークシート記入配布資料整理 (1 時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験 (レポート) 60%、提出物 20%、受講態度 20% 保育の方法と技能：遊びを通した人間関係の発達を理解しかかわりに活かせるかを定期試験 (筆記) で評価する。 実践力と協働性：保育の現場において乳幼児の人間関係の発達を促進する保育者としての行動が想定できたか、受講態度で評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 森上史郎ほか 『保育内容「人間関係」』 ミネルヴァ書房 ISBN 987-4623-05498-5					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 加藤繁美著 『0 歳から 6 歳子どもの育ちと対話する保育の本』 学研 ISBN978-4-05-800867-6					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもの姿から学び対話する保育について考え、行動し、省察する態度を身につけてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (環境)(M309)	1	必修	2年 前期	演習	高井 和男
【キーワード】領域「環境」、自然環境、社会環境、運動あそび、指導法					
【授業内容・授業の目的】 領域「環境」のねらいと内容を理解した上で、子どもをめぐる自然環境と社会環境を的確にとらえ、様々な保育環境に対応する意識と能力を身につける。また、様々な環境に適した運動あそび、室内あそび、野外あそびが展開できる指導法を学ぶことを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：環境を通じた保育の意味を理解し、あそびを通じた子どもの豊かな経験を支援するための知識を修得している。 実践力と協働性：伝統行事や季節に興味を持ち、子どもの発達に応じた実践的な指導とそのふり返りができる。 保育の対象への理解：現代社会における環境と私たちの生活に関連する事柄を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	領域「環境」のねらいと内容の理解	領域「環境」のねらいと内容について調べておく。(1時間)			
2週	子どもと社会環境	子どもを巡る社会環境について情報収集しておく。(1時間)			
3週	子どもと自然環境	身近な自然環境について調べておく。(1時間)			
4週	散歩と自然観察(植物と動物を中心として)	身近な動植物に関心を持ち調べておく。(1時間)			
5週	ストレス社会と環境	子どものストレスについて調べておく。(1時間)			
6週	ニュージーランドの保育と環境教育	ニュージーランドの環境政策について調べておく。(1時間)			
7週	子どもと自然観察	秋の植物について調べておく。(1時間)			
8週	地域の自然災害と防災教育	最近の南信の自然災害について調べておく。(1時間)			
9週	保育現場における教室での環境	実習園での室内でのあそびをふり返る。(1時間)			
10週	保育現場における園庭での環境	実習園での野外でのあそびをふり返る。(1時間)			
11週	地球環境と地域の環境	地球環境の問題点を調べておく。(1時間)			
12週	運動あそびの設定と実践① 野外でのあそび	野外あそびの教材研究をしておく。(1時間)			
13週	運動あそびの設定と実践② 伝承あそび	信州の伝承遊びを調べておく。(1時間)			
14週	運動あそびの設定と実践③ 雪あそび	雪遊びへの準備をしておく。(1時間)			
15週	ふり返りとまとめ	これまでの学習と実践をふり返る(1時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)40%、技能30%、受講態度30% 保育の方法と技能：模擬保育を通して、子どもの環境に関わる基本的な指導が身についているか、技能、受講態度で評価する。 実践力と協働性：子どもの発達に応じた指導から、そのふり返りや問題点を改善できる能力が身についているか、定期試験(レポート)で評価する。 保育の対象への理解：現代社会における環境と私たちの生活に関連する事柄を理解しているかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ISBN 9784577814239					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業の内容により体育館や野外で活動する。活動に適したウェアやシューズを準備する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (言葉)(M209)	1	必修	1年 後期	演習	赤間 公子
【キーワード】 言語発達、やりとり、ことば遊び、保育者のかかわり					
【授業内容・授業の目的】 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する。 またその方法を身に付けることを目標とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：保育に関する基本的な技能とそれを活用する豊かな教養を有し、実践に活かすことができる。 保育の対象への理解：子どもの成長・発達および子どもを取り巻く環境に関する知識を習得し、幼児への関りに活かすことができる。 保育の本質：保育者及び支援者として適切な使命感および倫理観を持つ。					
授業計画			準備学習等		
1週	幼児の言葉の発達過程について	幼児の言語発達について教科書の該当部分をまとめる (1時間)			
2週	幼児の言葉の発達過程の基盤(信頼関係の形成、非言語コミュニケーションの重要性)について	言語発達の基盤となる事柄についてまとめる (1時間)			
3週	幼児の言語理解について	言語発達の基盤となる他者との関係性についてまとめる (1時間)			
4週	幼児の言語発達における保育者の関りについて	幼児と保育者との関わりについてのエピソードからどのような関りが必要か考える (1時間)			
5週	幼児の文字学習の発達過程について	幼児の文字学習の発達過程について調べておく (1時間)			
6週	ごっこ遊びと保育者の援助や環境構成について	ごっこ遊びとはどのようなものか、それが言語発達においてどのような意味を持つか調べてまとめておく (1時間)			
7週	ことば遊びについて	ごっこ遊びと保育者の関わり方について考える (1時間)			
8週	ことば遊びを主活動とする指導案の作成	子どもの発達に合った主活動を考える (1時間)			
9週	模擬保育の実施	指導案をもとに模擬保育の練習をする (1時間)			
10週	模擬保育のふりかえりと総括	模擬保育を振り返り修正をする (1時間)			
11週	児童文化財の役割	絵本・紙芝居・パネルシアターなどにふれる (1時間)			
12週	就学後の言語発達へのつながり	就学後の言語発達と学習について調べる (1時間)			
13週	言語の遅れや障害のある幼児、外国籍の幼児への対応	配慮を必要とする子どもたちについてどのような支援が必要か考える (1時間)			
14週	ICT教材と言語学習について	ICT教材の活用の具体的な方法について調べてみる (1時間)			
15週	授業のふりかえりとまとめ	授業を振り返り実習などの実践に備える (1時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、技能30%、受講態度30% 保育の方法と技能：保育に関する基本的な技能とそれを活用する豊かな教養を有し、実践に活かす点について、技能（模擬授業）、レポートによって評価する。 保育の対象への理解：子どもの成長・発達および子どもを取り巻く環境に関する知識を習得することを、定期試験によって評価する。 保育の本質：保育者及び支援者として適切な使命感および倫理観を持つことを提出物、受講態度によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 赤羽根有里子・鈴木穂波編『保育内容 ことば』第3版 株式会社 みらい ISBN 978-4-86015-426-4					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 幼児の言語発達を理解し、指導方法や児童文化財などの保育技術を身に付けましょう。人前に立つ経験を積み実践に役立てることができるように、真剣に取り組みましょう					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (表現・音楽)(M310)	2	必修	2年 通年	演習	唐沢 流美子
【キーワード】自ら「きく・うたう・ひく・うごく・つくる」ことで、音楽表現力を身につけ、感性を高めよう！					
【授業内容・授業の目的】 ①音楽の、基本4要素（サイレンス・リズム・メロディ・ハーモニー）を軸にし、5つの表現要素（きく・うたう・ひく・うごく・つくる）を具体的に体感・体得していききたい。…全体活動、グループ活動、個人活動をとおして ②自分がかんだ力を他と関わり合いながら総合的に表出し、共に創造・表現していききたい。 …総合的表現活動（音楽劇づくり・創作等）を通して					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：保育実践のための、音楽を活用した具体的な表現力と、その活かし方を培うことができる。 実践力と協働性：自ら課題を追求し、他と協力して音楽作品を創造することをとおして、協働することの大切さを体得することができる。 保育の対象への理解：保育における音楽の持つ特徴の重要性と具体化する方法を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	歌遊び ガイダンス、音楽と保育（教育）、主要4要素の理解	なし			
2週	音楽表現活動 歌遊び からだ遊び①（グループ活動）	なし			
3週	歌遊び からだ遊び②（グループ活動をし、アイデアを持つ）	なし			
4週	歌遊び からだ遊び③（工夫のあるグループ発表ができる）	グループで発表の計画を立てる（1時間）			
5週	合唱を通じた歌唱①・即興伴奏法①（コード構造を復習する）	和音について復習する（1時間）			
6週	合唱を通じた歌唱②・即興伴奏法②（キーボードで演奏する）	コードの理解と鍵盤奏練習をする（1時間）			
7週	合唱を通じた歌唱③・即興伴奏法③（展開形を理解する）	展開形の鍵盤奏練習をする（1時間）			
8週	合唱を通じた歌唱④・即興伴奏法④（まとめとして1曲は弾く）	曲を使った鍵盤奏練習をする（1時間）			
9週	諸行事と音楽①（グループ活動による模擬保育授業）①計画	保育と音楽行事について調べる（1時間）			
10週	諸行事と音楽②（グループ活動による模擬保育授業）②工夫	グループ活動の打ち合わせ（1時間）			
11週	諸行事と音楽③（グループ活動による模擬保育授業）③発表	グループ発表への打ち合わせ（1時間）			
12週	創作音楽劇づくり①ガイダンス、音楽劇ストーリーアイデアづくり	音楽劇の仕組みについて調べる（1時間）			
13週	創作音楽劇づくり② 音楽劇アイデアの発表、工夫をする	創作音楽劇アイデアを立てる（1時間）			
14週	後期準備ガイダンス、創作音楽劇づくり③（実行組織を決める）	音楽劇づくりに向けた見直しを持つ（1時間）			
15週	前期のまとめ、授業の感想文作成 創作音楽劇づくり④（ストーリーを確認し、キャストを確認する）	なし			
16週	総合音楽表現①（脚本の内容をつかみ、全貌を知る）	脚本と楽譜の点検をする（1時間）			
17週	総合音楽表現②（脚本・キャスト・スタッフについて理解する）	楽曲の譜読みと脚本読みをする（1時間）			
18週	総合音楽表現③（脚本読み、係、配役決め、音取り開始）	楽曲の練習とシナリオ読みをする（1時間）			
19週	総合音楽表現④（脚本読み合わせ、音取り、係決め）	配役、係を確認し、内容を理解する（1時間）			
20週	総合音楽表現⑤（脚本読み合わせ、音取り、合唱づくり）	自分の台詞暗記や仕事を進める（1時間）			
21週	総合音楽表現⑥（表現の実際①、部分稽古、合唱づくり 脚本変え：演技や演出の工夫による脚本の修正）	自分の音楽や身体表現を工夫する（1時間）			
22週	総合音楽表現⑦（表現の実際②、部分稽古、脚本変え）	小道具、大道具、衣装計画を立てる（1時間）			
23週	総合音楽表現⑧（表現の実際③通し稽古1、脚本変え）	小道具、大道具、衣装を作成する（1時間）			
24週	総合音楽表現⑨（表現の実際④通し稽古2） 合同練習を開始し、場所と時間の確保していく	音楽の工夫や大道具等の制作、照明の実習をする（1時間）			
25週	総合音楽表現⑩ ※第1回目発表（可能な場合）「たつのオペレッタフェスティバル実行委員会」の打ち合わせをする	音楽づくりや照明、音響について打ち合わせをする。ホール実習をし、場をつかむ（1時間）			
26週	総合音楽表現⑪（BGM音響工夫、演出や構成について） 演出や演技、照明や音響の工夫をさらすめる	其々のキャスト演技やスタッフの仕事徹底し、グループで点検、検討をする（2時間）			
27週	総合音楽表現⑫（音楽劇総合練習：ステージ練習①） 演出や演技、照明や音響の工夫をさらにすすめる	キャスト、スタッフそれぞれが自主練習を進める（1時間）			
28週	総合音楽表現⑬（音楽劇総合練習：ステージ練習②） 演出や演技、照明や音響の工夫をさらにすすめる	キャスト、スタッフそれぞれが自主練習を進め、また表現場面での工夫を話し合う（2時間）			
29週	総合音楽表現⑭（音楽劇総合練習：ステージ練習③） リハーサルをし、本番公演に向けた最終的な打ち合わせをする	発表に向けよりよい表現について工夫する。また舞台設定について話し合う（2時間）			
30週	総合音楽表現⑮（総合練習：ステージ発表）、反省	創作音楽劇発表活動の反省をし、学習のまとめをする（2時間） 片付けを完了する			
■2024年2月4日（日） たつのオペレッタ・フェスティバル（23.1h）にて鑑賞と公演予定					
【成績評価の方法・基準】授業の中で学びの姿勢・態度、演習・発表表現力、実技試験の結果により評価する。（基準）授業での 発表・表現力50%、音楽総合力30%、受講態度20% 保育の方法と技能：保育実践のための、音楽を活用した具体的な表現力と、その活かし方を培うことができるか、受講の活動内容により評価する。 実践力と協働性：自ら課題を追求し、他と協力して音楽作品を創造することをとおして、協働することの大切さを体得することができるか、実際の表現の様子や実技演習内容、発表、受講態度により評価する。 保育の対象への理解：保育における音楽の持つ特徴の重要性と具体化する方法を理解しているか、筆記による提出物により評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】提出されたレポート等は点検後、また遅くとも前期、後期の最後の授業には返還する。					
【テキスト】唐沢史比古『音楽育への総合的アプローチ』～豊かな音楽教育のための実践書～ 『こどもの歌』（田中常夫監修・ISBN978-4-87446-076-4） ※創作音楽劇シナリオ・楽譜（16週頃配布）					
【参考書等】『たのしいうた』（信教出版） J ASRAC 1814388-801 他、授業中に適宜資料を配布する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】自ら音楽を楽しみ、音楽の持つ力を感じながら、現場で指導できる曲や音楽遊び、器楽奏等の技術力を高めたい。また、子どものためになる楽しく適切な指導ができるようにしたい。そのため、授業での演習・活動そのものでの体感、体得を大切にしたい。 留意点 ・歌う、弾く、動く活動が多い授業です。身体活動しやすい服装、履物を着用すること、また授業中の飲食は必要時以外禁止とします。 ・音楽表現の総まとめとして2024・2・4（日）には授業で仕上げた音楽劇を発表する予定です。各自年間予定に入れておいてください。（発表に向けた準備学習、自主練習、学外音楽劇練習・が授業時間外に入る場合があります）。また、準備学習時間には記してあるとおり、音楽劇発表のための道具作り、ミーティング等も入ります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育内容の指導法 (表現・造形)(M210)	1	必修	1年 後期	演習	稲生 弘志
【キーワード】造形の基礎知識、幼児造形の理解、造形指導の実践力					
【授業内容及び方法】保育内容「表現」に関して、子どもの発達段階や他の領域及び小学校教育（図画工作）との関係を踏まえながら、基礎的知識と実践技術を獲得する。さまざまな表現技法の獲得、玩具制作に関する指導案作成・模擬保育実演を通して、保育の構想力・実践力・評価力を身に付ける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：子どもの描画の発達過程に即した多様な造形表現の方法を身に付けている。 保育の本質：「幼児と表現」のねらいと内容、及び他領域・小学校教育との関連について理解している。 実践力と協働性：使用する材料の特性や使用方法を習得し、理解を深め、実際の指導に生かせるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション（幼稚園教育要領「幼児と表現」のねらいに関する理解）		テキスト全般を読む（1時間）		
2週	子どもの描画の発達過程①（情報機器の活用にもとづく作品例の確認）		テキスト（描画の発達過程）を調べる（1時間）		
3週	子どもの描画の発達過程②（発達段階に応じた子どもの表現の類型・指導法に関する理解）		テキスト（描画の発達過程）を理解する（1時間）		
4週	造形表現に関する評価の観点（幼稚園教育における評価の仕方に関する理解）		造形表現の評価に関するレポート200字（1時間）		
5週	様々な表現技法の習得①（情報機器の活用を通じた色彩学全般に関する知識の獲得）		色彩の基本的な意味と性質を理解する（1時間）		
6週	様々な表現技法の習得②（デカルコマニー等に関する指導上の留意点）		デカルコマニー等について事前に調べる（1時間）		
7週	様々な表現技法の習得③（スパッタリング等に関する指導上の留意点）		スパッタリング等について事前に調べる（1時間）		
8週	様々な表現技法の習得④（どんぐりや落ち葉など自然の素材を活用した保育の指導上の留意点）		自然の素材について事前に調べる（1時間）		
9週	様々な表現技法の習得⑤（スクラッチ、スタンピングに関する指導上の留意点）		スクラッチ、スタンピングについて事前に調べる（1時間）		
10週	様々な表現技法の習得⑥（フィンガーペインティング、ステンシルに関する指導上の留意点）		フィンガーペインティング、ステンシルについて事前に調べる（1時間）		
11週	様々な表現技法の習得⑦（コラーージュ、ドリッピングに関する指導上の留意点）		コラーージュ、ドリッピングについて事前に調べる（1時間）		
12週	子どものための玩具制作①（身近な素材を用いた幼児の表現活動を踏まえた指導案の作成）		玩具制作について考え試作する（1時間）		
13週	子どものための玩具制作②（指導案に基づく作品の制作）		玩具制作における材料の特質と目的を考え制作してみる（1時間）		
14週	子どものための玩具制作③（制作した作品に関する模擬保育の実施）		玩具を使用し、子どもの遊びについて考察する（1時間）		
15週	本授業の総括（五領域における「表現」の位置づけ及び図画工作との関連に関する理解）		本授業の意味と成果、考察し、まとめておく（1時間）		
【成績評価の方法・基準】定期試験（実技）50%、技能30%、受講態度20% 保育の方法と技能：子どもの描画の発達過程に即した多様な造形表現の方法を身に付けているか、技能によって評価する。 保育の本質：「幼児と表現」のねらいと内容、及び他領域・小学校教育との関連について理解しているか、技能と受講態度によって評価する。 実践力と協働性：使用する材料の特性や使用方法を習得し、理解を深め、実際の指導に生かしているか、定期試験（実技）によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】子どもの造形表現研究会『楽しい造形表現』 圭文社 ISBN 978-4-87446-086-3					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 『無名の芸術家たち』（映像資料）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 楽しんで作品を制作する心は子どもに通じるもの。意欲的に制作に挑んで欲しい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
乳児保育Ⅰ (M211)	2	選択 (保育士必修)	1年 後期	講義	西川 晶子
【キーワード】 乳児、保育、反射、哺乳、月齢、発達、排泄、障がい					
【授業内容・授業の目的】 人間の発達にとって非常に重要な意味を持つ乳児期の保育に求められる専門性を理解し、発達の道筋と諸理論を理解する。保育実践のための基礎知識、抱っこや人工乳などの演習もふくまれる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：乳児の発達と保育園での生活について知識と技能の習得をする。 保育対象への理解：周産期からの親子の発達、乳児の心身の発達について知る。 実践力と協働性：保護者や他の保育者との協働を身につける。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション わたしの赤ちゃん時代		ワークシート記入	自分の出生時について調査(4時間)	
2週	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷		配布プリント通読	(4時間)	
3週	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題		配布プリント通読	(4時間)	
4週	乳児期の発達 0か月から6か月未満 睡眠 表象		テキスト P4～14 通読	(4時間)	
5週	乳児期の発達 6か月から1歳3か月未満		テキスト P15～24 通読	(4時間)	
6週	乳児期の発達 1歳3か月 から2歳未満 探索活動		テキスト P25～34 通読	(4時間)	
7週	乳児期の発達 2歳 言葉の発達		テキスト P35～44 通読	(4時間)	
8週	0歳児保育の実際 抱っこの演習 人見知りへの対処		配布プリント (0歳児) 通読	(4時間)	
9週	1歳児の保育の実際 自我の発達 表象の発達		配布プリント (1歳児) 通読	(4時間)	
10週	2歳児の保育の実際 イヤイヤ強情の意味		配布プリント (2歳児) 通読	(4時間)	
11週	乳児保育における環境構成		テキスト P87～90 通読	(2時間)	
12週	乳児の遊び		配布プリント通読	テキスト P10, 11, 20, 21 (4時間)	
13週	運動発達 遊びの発達 排泄の自立		配布プリント通読	(4時間)	
14週	非認知能力を育む乳児保育		非認知能力について調べワークシートに記入する。	(4時間)	
15週	産後クライシス 3歳児神話 虐待を防ぐ子育て支援		配布プリント通読ワークシート記入 関連する新聞記事検索	(4時間)	
【成績評価の方法・基準】 定期試験(筆記) 50%、小テスト 30%、受講態度 20% 保育の方法と技能：定期試験(筆記)における当該問題、授業内で行う抱っこ等の演習を評価する。 保育の対象への理解：定期試験(筆記)における当該問題、乳児の発達に関する小テストで評価する。 実践力と協働性：授業内でおこなうグループディスカッション乳児保育演習によって評価する					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】 河原紀子著 『0歳から6歳子どもの発達と保育の本』 学研 ISBN 978-4-05-800867-6 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】 児童育成協会監修 寺田清美 大方美香 塩谷香 編集『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 ISBN 978-4-8058-5795-3					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 乳児保育にふさわしい身なり、態度に留意して受講してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
乳児保育Ⅱ (M311)	1	選択 (保育士必修)	2年 前期	演習	田中 育子
【キーワード】 乳児、保育、基本、月齢、発達、排泄、ふれあい、遊び、環境					
【授業内容・授業の目的】 「人間の発達にとって非常に重要な意味を持つ乳児期の保育に求められる専門性を理解し、発達の道筋と諸理論を理解する。保育実践のための基礎知識、抱っこや着替え、ふれあい遊びなどの演習もふくまれる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：乳児の発達と保育所での生活について知識と技能の習得をする。 保育対象への理解：周産期からの親子の発達、乳児の心身の発達について知る。 実践力と協働性：保護者や他の保育者との協働を身につける。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション ていねいな保育とは		テキスト P8 までを熟読し、まとめる。(2時間)		
2週	乳児保育の「基本」保育者の専門性		テキスト P13～39 をまとめる。(2時間)		
3週	乳児保育の「生活1～5」月齢に応じた乳児の生活リズム 小テスト		テキスト P41～55 をまとめる。(2時間)		
4週	乳児保育の「生活6～7」発達別活動のつながり		テキスト P46～61 をまとめる。(2時間)		
5週	乳児保育の「遊び1～4」乳児の遊びの環境構成 小テスト		テキスト P62～81 をまとめる。(2時間)		
6週	乳児保育の「遊び5～8」自然との関わり		テキスト P82～101 をまとめる。(2時間)		
7週	乳児保育の「遊び9～12」ふれあい遊びの実際		テキスト P102～121 をまとめる。(2時間)		
8週	乳児保育の「遊び13～14」感覚遊び 小テスト		テキスト P122～134 をまとめる(2時間)		
9週	乳児保育を支える活動「計画とふりかえり」		テキスト P135～143 をまとめる(2時間)		
10週	乳児保育を支える活動「保育計画」作成		保育計画を作成する。(2時間)		
11週	乳児保育を支える活動「保育計画」模擬研修会		保育計画の見直し、作成する。(2時間)		
12週	乳児保育を支える活動「保護者への関わり」		テキスト P144～149 をまとめる。(2時間)		
13週	乳児保育を支える活動「防災」「避難訓練計画」作成		テキスト P150～最後をまとめる。(2時間)		
14週	乳児保育を支える活動「避難訓練計画」模擬研修会		避難訓練計画の見直し、作成する。(2時間)		
15週	ていねいな保育を検証		ていねいな保育をしている園の資料を集める。(2時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、小テスト10%、提出物10% 受講態度30% 保育の方法と技能：定期試験（筆記）における当該問題、模擬研修会等の演習を評価する。 保育の対象への理解：定期試験（筆記）における当該問題、小テストで評価する。 実践力と協働性：授業内でおこなうグループディスカッション乳児保育演習によって評価する					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 大豆生田啓友・おおえだけいこ（著）『日本が誇る！ていねいな保育』 ISBN 978-4-0910-5083-0 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】河原紀子著『0歳から6歳子どもの発達と保育の本』学研 ISBN 978-4-05-800867-6					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 乳児保育担当者にふさわしい身なり、態度に留意して積極的に受講してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育方法論 (U302)	2	選択 (幼免必修)	2年 前期	講義	塩崎 正
【キーワード】 学力観、能力観、教育評価、集団論、ICT教育					
【授業内容・授業の目的】 学力観・能力観、教育方法、教育評価の変遷及び特質を取り上げることで、現代の教育・保育機関の現状と課題について学習する。実際の教育・保育場面を想定しながら、子どもたちへの対応について理論と実践に関する知見の獲得を目指す。自ら情報機器を活用しながら教育・保育の一場面を担当できる力を養う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：教育・保育目的を達成するための教育方法の歴史・現代の実践に関する基礎的な知識を習得している。 保育の方法と技能：幼児・児童・生徒が自律性をもって学ぶのに役立つ望ましい集団づくりの在り方について理解している。 論理的思考力：時代の変遷を見据えながら情報機器の使用及び情報活用能力の活用について知識と実践力を身につけている。					
授業計画			準備学習等		
1週	新しい資質・能力の内実（指導要領のねらい・内容）	小・中・高の新学習指導要領の要諦を調べておく。（2時間）			
2週	幼児理解にもとづく教育方法（幼稚園の環境構成）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 事前配布資料を読み、実際の園ではどのように環境構成がされているのかを調べる。（2時間）			
3週	幼児理解にもとづく教育評価（学力観・能力観の変遷）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 過去の学習指導要領の中で「学力」がいかに定義されていたか調べる。（2時間）			
4週	幼児理解にもとづく教育評価（さまざまな評価手法）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 事前配布資料を読み、今まで学校教育でどのような評価方法が採用されているかを調べる。（2時間）			
5週	教育の技術（子どもに対する声かけの実際）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 子どもの発達段階を考慮した声かけについて調べる。（2時間）			
6週	教育の技術（子どもの表現活動支援の実際）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 国内外の子どもの表現活動支援に関する事例を調べる。（2時間）			
7週	教育方法の変遷（近代）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） コメニウス、バスターロッチの教育方法について調べる。（2時間）			
8週	教育方法の変遷（現代）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） プルーナー、スキナーの教育方法について調べる。（2時間）			
9週	集団論（「集団」の特質）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 「集団」の長所・短所について調べる。（2時間）			
10週	集団論（教師の役割）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 学級における教師の役割について考える。（2時間）			
11週	第1回～第10回のまとめ	これまでに学習したことを教科書や配布物を読み、復習しておく。（4時間）			
12週	時代の変遷を見据えた情報活用能力の育成	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） ビッグデータと教育の関係性を調べる。（2時間）			
13週	幼稚園における情報機器活用（情報機器の分類）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 幼稚園や保育所では情報機器がどのように活用されているか、小学校でのプログラミング教育について調べる。（2時間）			
14週	幼稚園における情報機器活用（課題制作）	配布物を参考に前回の授業を復習する。（2時間） 情報機器の使用を取り入れた指導案を作成する。（2時間）			
15週	まとめ	これまでに学習したことを教科書や配布物を読み、復習しておく。（2時間） 定期試験に向けて学習をする。（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、提出物20%、小テスト20%、受講態度10% 保育の対象への理解：教育・保育目的を達成するための教育方法の歴史・現代の実践に関する基礎的な知識を習得しているか、定期試験および提出物によって評価する。 保育の方法と技能：幼児・児童・生徒が自律性をもって学ぶのに役立つ望ましい集団づくりの在り方について理解しているか、提出物、小テストおよび受講態度によって評価する。 論理的思考力：時代の変遷を見据えながら情報機器の使用及び情報活用能力の活用について知識と実践力を身につけているか、提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 授業時に適宜プリントを配布する。					
【参考書等】 細谷俊夫 『教育方法』 岩波書店 ISBN 978-4-000-20124-7					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は、講義形式を基調としつつレポート発表やディスカッションも取り入れ、学生と一緒に学ぶ授業をめざします。日頃から教育の動向に関心を持ち、授業での発言など積極的に参加するよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子どもの理解と援助 (U204)	1	選択 (幼児・保育士必修)	1年 後期	演習	西川 晶子
【キーワード】 保育、共感的理解、カウンセリングマインド、多文化共生社会、子育て支援					
【授業内容・授業の目的】 子どもの一人ひとりの思いや置かれた状況を受け止める必要性を理解し、個と集団の関係性に配慮しながら、適切な支援の方法を学び、保育に関わる現代的なテーマについて多面的な視点から学び、家庭や保護者との連携のあり方を身に付ける。グループワークを多く行い、相互コミュニケーションから学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：子どもの発達に対する適切な知識を持つ。 保育の方法と技能：様々な家庭環境や、保護者への対応を含め、正しい知識をもって共感的に支援にあたることができる。 実践力と協働性：多文化共生社会における保育の現代的な課題について理解し、保育者としての適切な姿勢と技能を修得する。					
授業計画			準備学習等		
1週	イントロダクション		海外の保育や教育に関わる人物について復習しておく（1時間）		
2週	保育に必要なカウンセリングマインドとは		配布資料通読（1時間）		
3週	発達障害について ASD ADHD LD		今まで学んだ発達障害の特徴についてまとめる（1時間）		
4週	動画視聴 出生から診断まで グループワーク		保育所保育指針第4章を読み子育て支援についてまとめる（1時間）		
5週	動画視聴 発達相談 発達検査 グループワーク		配布資料通読（1時間）		
6週	動画視聴 幼稚園から保育園へ グループワーク		配布資料通読（1時間）		
7週	子ども理解 発達検査 グループワーク		子どもの知能や特性を理解する方法にはどのようなものがあるか調べる（1時間）		
8週	子ども理解 きょうだい児 ヤングケアラー		配布資料通読（1時間）		
9週	子ども理解 家族 共依存 虐待		配布資料通読（1時間）		
10週	子ども理解に基づく発達援助（事例検討含む）		発達の理解を援助につなげる方法考える（1時間）		
11週	配慮を必要とする（発達障害含む） 子どもへの理解と援助（事例検討含む）		指針および教育要領から障害のある子どもへの支援に関する部分を探す（1時間）		
12週	保護者等への配慮と協力体制（事例検討含む）		保護者への配慮と情報共有の重要性について考える（1時間）		
13週	災害や虐待にあった子どもの理解と支援		配布資料通読（1時間）		
14週	カウンセリング実習 心構え 態度 理解		配布資料通読（1時間）		
15週	カウンセリング実習 技法の実際 グループワーク		配布資料通読（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）（60％） 提出物（30％） 受講態度（10％） 保育の対象への理解：保育の対象に対する知識を有しているか定期試験によって評価する。 保育の方法と技能：様々な家庭環境や、保護者への対応を含め、正しい知識をもって共感的に支援にあたることができる能力を有しているか、提出物および受講態度によって評価する。 実践力と協働性：保育の現状を把握し、省察するする力を有し、保育者としての協働性をもって実践にあたることのできるか定期試験および受講態度によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 沼山博 三浦主博編著『子どもとかかわる人の心理学』 萌文書林 ISBN 978-4-89347-340-0 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育養老 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN978-4-8054-0258-0 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ISBN978-4-57781447-5					
【参考書等】 鯨岡峻『保育の場で子どもの心をどのように育むのか』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07261-3					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもたちは一人ひとり多様な文化、家族 歴史 地域 の中で生まれ、子ども個人の中にもさまざまな特性や個性が息づいています。保育者には広い視野と深い知見、一人ひとりに寄り添った実践が求められます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育相談 (U303)	2	選択 (幼免必修)	2年 前期	講義	塩崎 正
【キーワード】 カウンセリング、受容、傾聴、共感、教育相談の必要性					
【授業内容・授業の目的】 幼児、児童、生徒の発達段階にあわせて、心理的特性や自己の理解、人間関係をよりよく深めるための基礎知識を身に付ける。 教育相談の意義と理論を学び、グループワークやカウンセリング実習などを通して実践的に学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：子どもの心身の発達に関する知識を身につけている。 実践力と協働性：自らの知識を技能に結び付け、実践力として活用することができる。 論理的思考力：獲得した知識や技能を論理的に思考し言語化することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	教育相談のニーズと今日的課題		現代社会での教育相談の必要性を考える。(3時間)		
2週	学校における教育相談の意義と課題		教育相談の意義や課題を学校現場と結び付けて考える。(4時間)		
3週	カウンセリング理論①(精神分析的)		精神分析について調べる。(4時間)		
4週	カウンセリング理論②(学習理論 認知行動理論)		学習理論・認知行動理論について調べる。(4時間)		
5週	カウンセリングのかまえ(ロジャース他)		ロジャースの業績について調べる。(4時間)		
6週	カウンセリング実習① 映像視聴		1週から5週に学んだことをまとめる。(4時間)		
7週	カウンセリング実習② 受容、傾聴、共感		受容・傾聴・共感の意味を考えまとめる。(4時間)		
8週	カウンセリング実習③ アクティブリスニング		アクティブリスニングの効果について調べる。(4時間)		
9週	カウンセリング実習④ 解決志向、ブリーフセラピー		ブリーフセラピーについて調べる。(4時間)		
10週	教育相談の進め方		教育相談を進める上での注意点と理由をまとめる。(4時間)		
11週	事例検討① 虐待		被虐待児に対する言葉かけを考える。(4時間)		
12週	事例検討② 不登校、対人恐怖		不登校児の心の動きを想像してみる。(4時間)		
13週	事例検討③ 学習障がい、ADHD		学習障がい・ADHDについて調べる。(4時間)		
14週	事例検討④ 発達障がい、自閉症		発達障がい・自閉症について調べる。(4時間)		
15週	まとめ		授業を振り返り、問題点・課題を見出す。(5時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(筆記) 60%、提出物 20%、受講態度 20% 保育の対象への理解：子どもの心身の発達に関する知識を有しているか、定期試験・提出物で評価する。 実践力と協働性：自らの知識を技能に結び付け、実践力として活用することができるか、受講態度で評価する。 論理的思考力：獲得した知識や技能を論理的に思考し言語化することができるか、定期試験で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 佐川寛子・成瀬美恵子 『保育者のためのカウンセリングマインド入門』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0106-4 小田豊・秋田貴代美編 『子どもの理解と保育・教育相談』 みらい ISBN 978-4-86015-143-0					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 他者と関わることは自分自身を見つめ直すことにもつながります。カウンセリング実習やグループワークに積極的に臨むことで、子どもの心理解につなげてほしいと思います。授業は、講義形式を基調としつつワークショップやレポート発表、ディスカッションを取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。積極的に参加するよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育実習 (P220)	5	選択 (幼児必修)	1年 後期	実習	塩崎 正
【キーワード】 幼稚園教育要領、実習ノート、観察・参加実習、振り返り（リフレクション）					
【授業内容・授業の目的】 幼稚園教育実習の内容・目標についてテキストや映像を通して理解する。観察・参加実習に向けた準備を行うことで実習に必要な心構えと技能を獲得する。これらを通して、幼稚園教諭としての実践力を身につけることを目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：具体的な幼稚園の一場面に焦点を当てて子どもの気持ちを推測することができる。 保育の方法と技能：実習ノートの記載や指導案の作成など、教育実習に必要な具体的な技能を獲得し、その技能を活用できる。 保育の本質：教育実習の目的と内容について幼稚園教諭の立場を念頭に置いて理解し、それらを踏まえて実習に臨むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	幼稚園教育実習の目的【ワークシート、映像視聴等】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.25-47を読んでおく。(1時間)			
2週	観察・参加実習の内容【ワークシート等】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.1-24を読んでおく。(1時間)			
3週	実習ノートの書き方①【時系列で書く】	『実習日誌の書き方』pp.19-24、pp.57-65を読んでおく。(1時間)			
4週	実習ノートの書き方②【考察の書き方】	『実習日誌の書き方』pp.25-46、pp.75-91を読んでおく。(1時間)			
5週	実習ノートの書き方③【映像視聴後、実際にノートを書いてみる】	『実習日誌の書き方』pp.112-124、pp.141-を読んでおく。(1時間)			
6週	指導案の書き方①【部分指導案とは何か、書き方のポイント】	自分のある1日を題材に時系列に沿って日誌を書く。(1時間)			
7週	指導案の書き方②【部分指導案の作成】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.87-99を読んでおく。(1時間)			
8週	指導案の書き方③【指導案のピア・レビュー】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.99-134を読んでおく。(1時間)			
9週	実習の振り返り①【実習報告会】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
10週	実習の振り返り②【個人面談】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
11週	実習の振り返り③【実習ノートの振り返り】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
12週	事後指導（指導・責任実習依頼）【ワークシート等】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
13週	指導実習への準備①【絵本の読み聞かせ】	模擬保育の指導案（運動遊び）を作成する(1時間)			
14週	指導実習への準備②【紙芝居の実演】	模擬保育の指導案（絵本）を作成する(1時間)			
15週	指導実習への準備③【手遊びの実施】	模擬保育の指導案（朝の会）を作成する(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 実習園の評価 50%、提出物 30%、受講態度 20% ※2年次と合算して評価 実践力と協働性：子どもの気持ちを推測することができるか、実習園の評価および受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：教育実習に必要な具体的な技術を獲得しているか、提出物によって評価する。 保育の本質：教育実習の目的と内容について理解しているか、実習園の評価および提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】太田光洋（編著）『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]』 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08481-4 相馬和子・中田カヨ子（編著）『実習日誌の書き方』 萌文書林 ISBN 978-4-893-47297-7					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-805-40258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】実習ノートの書き方など実践的な知識・技能を身につける大切な授業ですので、各回大切に臨むようにしてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教育実習 (P220)	5	選択 (幼免必修)	2年 前期	実習	塩崎 正
【キーワード】 幼稚園教育要領、実習ノート、指導案、模擬保育、指導・責任実習、振り返り（リフレクション）					
【授業内容・授業の目的】幼稚園教育実習の内容・目標についてテキストや映像を通して理解する。指導・責任実習に向けた準備を行うことで実習に必要な心構えと技能を獲得する。これらを通して、幼稚園教諭としての実践力を身につけることを目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：具体的な幼稚園の一場面に焦点を当てて子どもの気持ちを推測することができる 保育の方法と技能：実習ノートや指導案の記載など、教育実習に必要な技術を獲得している。 保育の本質：教育実習の目的と内容について幼稚園教諭の立場を念頭に置いて理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	指導・責任実習の意義と目的 【ワークシート等】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.1-24を読んでおく。(1時間)			
2週	実習ノートの書き方① 【責任実習時のノートの書き方】	『実習日誌の書き方』pp.141-147を読んでおく。(1時間)			
3週	実習ノートの書き方②【映像視聴後、実際にノートを書いてみる】	『実習日誌の書き方』pp.157-173を読んでおく。(1時間)			
4週	指導計画の立て方① 【部分実習指導案の作成】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.99-127を読んでおく。(1時間)			
5週	指導計画の立て方② 【部分実習指導案のピアレビュー】	『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』pp.128-134を読んでおく。(1時間)			
6週	オリエンテーション事前指導 【ワークシート等】	事前配布物を読み、記入しておく(1時間)			
7週	指導計画の立て方③ 【全日実習指導案の作成】	模擬保育（運動遊び）の指導案を作成する。(1時間)			
8週	指導計画の立て方④ 【全日実習指導案のピアレビュー】	模擬保育（製作）の指導案を作成する。(1時間)			
9週	実習の準備・練習① 【模擬保育：運動遊び】	前回までの模擬保育の指導案を反省し、書き直す。(1時間)			
10週	実習の準備・練習②【模擬保育：製作】	前回までの模擬保育の指導案を反省し、書き直す。(1時間)			
11週	実習の振り返り①【実習報告会】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
12週	実習の振り返り②【個人面談】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
13週	実習の振り返り③ 【実習ノートの振り返り】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
14週	事後指導 【ワークシート、グループワーク等】	実習ノートを見直し、実習レポートを作成する。(1時間)			
15週	まとめ 【ワークシート、グループワーク等】	事前配布物を読み、必要事項を記入する。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】実習園の評価50%、提出物30%、受講態度20% ※1年次と合算して評価 実践力と協働性：子どもの気持ちを推測することができるか、実習園の評価および受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：教育実習に必要な具体的な技術を獲得しているか、提出物によって評価する。 保育の本質：教育実習の目的と内容について理解しているか、実習園の評価および提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】太田光洋（編著）『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド[第3版]』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08481-4 相馬和子・中田カヨ子（編著）『実習日誌の書き方』萌文書林 ISBN 978-4-893-47297-7					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-805-40258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】実習ノートの書き方など実践的な知識・技能を身につける大切な授業ですので、各回大切に臨むようにしてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
教職実践演習 (P408)	2	選択 (幼免必修)	2年 後期	演習	塩崎 正
【キーワード】 キャリア発達、カウンセリング・マインド、プレゼンテーション、教師としての資質・能力					
【授業内容・授業の目的】 保育者としての実践力について、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係能力、幼児への理解力・学級経営、保育内容の指導力等に関する総合的な実践力の習得を目指す。また、幼稚園教諭として求められる資質・能力の基礎を作ることを目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：保育者として必要な実践力を身につけている。 論理的思考力：様々な教育課題を解決するために必要な知識や論理的思考を身につけている。 保育の本質：幼稚園教職課程科目の履修履歴（教育実習を含む）を総括し、発表内容としてまとめることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		大学のこれまでの授業で何を学んできたかを振り返る。 (4時間)		
2週	実習ノートの相互評価		実習ノートを見返し、自己評価する。(4時間)		
3週	インタラクション・デザイン		事前配布物を読む。(4時間)		
4週	教育実習ポスターの作成		ポスターの下書きを作成する。(4時間)		
5週	保育者としての使命感や責任感 (保育者の使命)		事前配布物を読み、保育者としての使命について考える。 (4時間)		
6週	保育者としての使命感や責任感 (自己理解)		事前配布物を読み、教師としての自分の資質、長所や短所について省みる。(4時間)		
7週	保育者としての対人関係能力 (カウンセリングの技法)		事前配布物を読み、カウンセリングの技法について大まかに理解する。(4時間)		
8週	保育者としての対人関係能力 (モンスターペアレンツの実態)		事前配布物を読みモンスターペアレンツが生まれてしまう社会的要因について理解する。(4時間)		
9週	保育者としての対人関係能力 (模擬面談の準備)		配布物を読み、前回の授業を復習する。(4時間)		
10週	保育者としての対人関係能力 (模擬面談の実践)		模擬面談を振り返り、改善できる点を明らかにする。(4時間)		
11週	幼稚園保育内容の指導力(プレゼンテーションの準備)		教育・保育に関する自分の問題意識を確認し、その問題意識と関係する事柄について事前調査をする。(4時間)		
12週	幼稚園保育内容の指導力(プレゼンテーションの作成)		パワーポイント・配布資料の下書きを作成する。(4時間)		
13週	幼稚園保育内容の指導力(プレゼンテーションの発表)		パワーポイントの作成をする。(4時間)		
14週	保育実践力の総合的探究(ワークシート、プレゼン等)		事前配布物を読む。(4時間)		
15週	まとめ		これまでの学習について復習する。(4時間)		
【成績評価の方法・基準】 技能 30%、定期試験(レポート) 30%、提出物 20%、受講態度 20% 実践力と協働性：保育者として必要な実践力を身につけたか、技能および受講態度によって評価する。 論理的思考力：様々な教育課題を解決するために必要な知識や論理的思考を身につけたか、定期試験および提出物によって評価する。 保育の本質：幼稚園教職課程科目の履修履歴（教育実習を含む）を総括し、発表内容としてまとめられたか、提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日 2月16日(金)					
【テキスト】 授業時に適宜プリントを配布する。					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-805-40258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は、レポート発表やディスカッションを取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。日頃から教育・保育活動に関心を持ち、授業での発言など積極的に参加するよう心掛けてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育の表現技術 (音楽1)(M109)	1	必修	1年 前期	演習	臼田 由香里・原 葉子・ 西路 優佳・永井 知可子
【キーワード】音楽、ピアノ、弾き歌い、歌唱指導、アクティブ・ラーニング					
【授業内容・授業の目的】保育現場で必要な弾き歌い、歌唱、楽典を身に付ける。4つのレベルに応じた課題を通じて、楽譜の読み解き方、演奏姿勢、運指、効果的な練習方法、幼児を想定した歌唱指導を学ぶ。アクティブ・ラーニング型の授業で、クラス全体での上達を目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導やピアノの指導ができる。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができる。 保育の対象への理解：練習方法・練習習慣を身に付け、日々コツコツと取り組みレッスンに臨むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション、入学前課題発表		入学前課題をしっかりと練習し、楽典 pp.4-5 を解いておく(1時間)		
2週	バスティン各レベル課題曲(1) 歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.6-10 を解いておく(1時間)		
3週	バスティン各レベル課題曲(2) 練習法、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.11-14 を解いておく(1時間)		
4週	バスティン各レベル課題曲(3) 表現、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.15-17 を解いておく(1時間)		
5週	バスティン各レベル課題曲(4) 歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.18-19 を解いておく(1時間)		
6週	バスティン各レベル課題曲(5)リハーサル、 アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.20-22 を解いておく(1時間)		
7週	中間発表、グループ討論、意見交換		前期課題の半分を終えられるよう練習しておく(1時間)		
8週	おはよう (p.4) 指番号、表現		おはよう (p.4) を練習しておく(1時間)		
9週	バスティン各レベル課題曲(6) 歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.23-25 を解いておく(1時間)		
10週	バスティン各レベル課題曲(7) 表現、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.26-30 を解いておく(1時間)		
11週	バスティン各レベル課題曲(8) 練習法、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.31-33 を解いておく(1時間)		
12週	バスティン各レベル課題曲(9) 表現、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.34-38 を解いておく(1時間)		
13週	バスティン各レベル課題曲(10) 歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.39-43 を解いておく(1時間)		
14週	バスティン各レベル課題曲(11)リハーサル、 アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.44-48 を解いておく(1時間)		
15週	まとめ、グループ討論、意見交換		前期課題をしっかりと復習しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(実技)50%、受講態度30%、技能20% 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導やピアノの指導ができていたか、受講態度と技能によって評価する。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができていたか、定期試験(実技)と技能によって評価する。 保育の対象への理解：練習方法・練習習慣を身に付け、日々コツコツと取り組みレッスンに臨むことができていたか、定期試験(実技)と受講態度と技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】田中常夫『こどものうた』圭文社 ISBN 978-4874460764 バスティン『バスティンピアノベーシックス レベル1、レベル2、レベル3』東音企画 ISBN 978-4903291697、978-4903291604、978-4903291666 森本琢郎、池田恭子『ジュニアクラスの楽典問題集』ドレミ楽譜出版社 ISBN 978-4285121568					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 『ブルグミュラー』『ソナチネアルバム』『ピアノ名曲集』『ディズニー曲集』『ジブリ曲集』					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】レッスンを受けるにあたって、友人同士の助け合い、教え合い、毎日の練習が欠かせません。少しでも上達できるよう一緒に頑張っていきましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育の表現技術 (音楽Ⅱ)(M212)	1	必修	1年 後期	演習	臼田 由香里・原 葉子・ 西路 優佳・永井 知可子
【キーワード】 音楽、ピアノ、弾き歌い、歌唱指導、アクティブ・ラーニング					
【授業内容・授業の目的】 保育現場で必要な弾き歌い、歌唱、楽典を身に付ける。4つのレベルに応じた課題を通じて、楽譜の読み解き方、演奏姿勢、運指、効果的な練習方法、幼児を想定した歌唱指導を学ぶ。アクティブ・ラーニング型の授業で、クラス全体での上達を目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導やピアノの指導ができる。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができる。 保育の対象への理解：練習方法・練習習慣を身に付け、日々コツコツと取り組みレッスンに臨むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	夏休み課題発表、グループ討論、意見交換		夏休みの課題を練習し、楽典 pp.49-50 を解いておく(1時間)		
2週	おべんとう (p.9) 指番号、表現		おべんとうを練習し、楽典 pp.51-52 を解いておく(1時間)		
3週	おかえりのうた (p.7) 指番号、表現		おかえりのうたを練習し、楽典 pp.53-54 を解いておく(1時間)		
4週	バスティン各レベル課題曲(1)歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.55-56 を解いておく(1時間)		
5週	バスティン各レベル課題曲(2)練習法、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.57-58 を解いておく(1時間)		
6週	バスティン各レベル課題曲(3)リハーサル、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.59-61 を解いておく(1時間)		
7週	中間発表、グループ討論、意見交換		後期課題の半分を終えられるよう練習しておく(1時間)		
8週	さよならのうた (p.224) 指番号、表現		さよならのうたを練習し、楽典 pp.1-10 を再度解く(1時間)		
9週	メリーさんの羊 (p.12, p.303) 指番号、表現		メリーさんの羊を練習し、楽典 pp.11-17 を再度解く(1時間)		
10週	バスティン各レベル課題曲(4)歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.18-25 を再度解く(1時間)		
11週	バスティン各レベル課題曲(5)表現、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.26-33 を再度解く(1時間)		
12週	バスティン各レベル課題曲(6)練習法、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.34-48 を再度解く(1時間)		
13週	バスティン各レベル課題曲(7)歌唱、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.49-55 を再度解く(1時間)		
14週	バスティン各レベル課題曲(8)リハーサル、アクティブ・ラーニング型レッスン		各レベルの課題曲を練習し、楽典 pp.56-61 を再度解く(1時間)		
15週	まとめ		前期課題をしっかりと復習しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(実技) 50%、受講態度 30%、技能 20% 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導やピアノの指導ができていたか、受講態度と技能によって評価する。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができていたか、定期試験(実技)と技能によって評価する。 保育の対象への理解：練習方法・練習習慣を身に付け、日々コツコツと取り組みレッスンに臨むことができていたか、定期試験(実技)と受講態度と技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】 田中常夫 『こどものうた』 圭文社 ISBN 978-4874460764 バスティン 『バスティンピアノベーシックス レベル1、レベル2、レベル3』 東音企画 ISBN 978-4903291697、978-4903291604、978-4903291666 森本琢郎、池田恭子 『ジュニアクラスの楽典問題集』 ドレミ楽譜出版社 ISBN 978-4285121568					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 『ブルグミュラー』『ソナチネアルバム』『ピアノ名曲集』『ディズニー曲集』『ジブリ曲集』					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 レッスンを受けるにあたって、友人同士の助け合い、教え合い、毎日の練習が欠かせません。少しでも上達できるよう一緒に頑張ってください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	赤間 公子
【キーワード】 保育技術、児童文化財、卒業制作					
【授業内容・授業の目的】 子どもたちの発達に必要な「遊び」について調べる。 実践の場で役に立つ児童文化財を制作する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：他のメンバーと協議し、児童文化財について調べ、デザインし、協働することで作品を完成させる。 保育の方法と技能：子ども一人ひとりに寄り添った保育・教育を展開するにあたって、その支援ツールを考える。 論理的思考力：プレゼンテーションをまとめるにあたって、わかりやすく論理的に説明することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		既存の児童文化財について調べる（1時間）		
2週	各年齢の子どもの発達特性について		各年齢の子どもの発達の特性について調べる（1時間）		
3週	発達年齢に合った児童文化財について		子どもはどのような児童文化財を好むか考える（1時間）		
4週	作成する児童文化財について考える		実際にどのようなものを作りたいか考える（1時間）		
5週	決定した児童文化財の作成工程を考え計画する		制作に必要なものを書き出す（1時間）		
6週	制作物のデザインを検討する		デザインしてみる（1時間）		
7週	制作準備①（工程・日程）		制作の工程をプランニングする（0.5時間）		
8週	制作準備②（材料調達など）		準備するものをそろえる（0.5時間）		
9週	中間発表		中間発表の準備をする（1時間）		
10週	制作を行う		各自作業を進める（2時間）		
11週	制作の最終確認を行う		作業を進める（1.5時間）		
12週	プレゼンテーション準備をする		発表原稿を作成する（1時間）		
13週	プレゼンテーション		修正点を考える（0.5時間）		
14週	プレゼンテーションのふりかえり		各自自分のプレゼンテーションを振り返る（1時間）		
15週	まとめ		卒業制作についてまとめる（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 提出物 60%、定期試験（実技）20%、受講態度 20% 実践力と協働性：提出物を制作する過程及び受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：制作した児童文化財のプレゼンテーションや定期試験（実技）によって評価する。 論理的思考力：プレゼンテーションの内容によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 適宜、授業時にプリントを配布する					
【参考書等】 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林 ISBN 978-4-89347-277-9 片岡輝・今井和子・佐々木由美子編『保育者のための児童文化』 大学図書出版 ISBN 978-4-903060-47-7					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 児童文化財への関心を深め、実際に制作し、プレゼンテーションする過程の中で、自分の課題を見つけてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	塩崎 正
【キーワード】教育思想、教育哲学、クリティカル・シンキング					
【授業内容・授業の目的】 教育は、教育される側を教育する側へと組織化するゆえに、少なからず強制力を伴う営みである。それゆえ、教育者・保育者を目指す者には、自らを絶対視するのではなく、常に相対的に考える姿勢が求められる。本講義では、文献講読、学生同士での議論、論文作成の指導等を積極的に取り入れることで、相対的に考える際に必要となる批判的思考・論理的思考を養成し、保育者としての実践力を身につけることを目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：異なる意見を持つ人同士の間で、互いに納得できる答えを導き出す基礎的な力を身につけている。 保育の方法と技能：自らの考えを明晰判明な言葉で伝える基礎的な力を身につけている。 論理的思考力：教育や保育を取り巻く諸課題について批判的・論理的に考える基礎的な力を身につけている。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		現代社会にどのような教育問題があるのか調べておく(1時間)		
2週	文献講読(父性原理と母性原理) 論文作成の技法(一文一義)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
3週	文献講読(孤独と孤立の違い) 論文作成の技法(語句を明確に使う)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
4週	文献講読(遊びと社会化)論文作成 の技法(パラグラフを作る)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
5週	文献講読(学校教育の課題) 論文作成の技法(参考文献の示し方)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
6週	文献講読(幼児教育の理念) 論文作成の技法(引用の仕方)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
7週	文献講読(幼児教育の方法論)論文 作成の技法(マップを使って書く)		講読した範囲のレポートを作成する(1時間)		
8週	資料収集の方法 論文作成の技法(章立ての仕方)		各自関心があるテーマについて資料を収集し、卒業論文の発表を準備する(1時間)		
9週	卒業論文のテーマと草案の発表		各自発表の準備をする(1時間)		
10週	卒業論文作成の手順とその具体化		各自発表の準備をする(1時間)		
11週	教育・保育問題についての討論 (少子化・高齢化)		事前に提示する問題対して、問題の原因や解決策などを自分なりに考えておく(1時間)		
12週	教育・保育問題についての討論 (家族の変容・虐待)		事前に提示する問題対して、問題の原因や解決策などを自分なりに考えておく(1時間)		
13週	教育・保育問題についての討論 (貧困・教育格差)		事前に提示する問題対して、問題の原因や解決策などを自分なりに考えておく(1時間)		
14週	卒業論文に関するテーマについての レポートの発表		各自発表の準備をする(1時間)		
15週	まとめ		これまでに学習したことを復習しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)30%、提出物30%、技能20%、受講態度20% 実践力と協働性：異なる意見を持つ人同士の間で、互いに納得できる答えを導き出す基礎的な力を身につけることができたか、技能および受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：自らの考えを明晰判明な言葉で伝える基礎的な力を身につけることができたか、提出物によって評価する。 論理的思考力：教育や保育を取り巻く諸課題について批判的・論理的に考える基礎的な力を身につけることができたか、定期試験および技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】授業時に適宜プリントを配布する。					
【参考書等】古茂田宏『ピンボ～な生活ゼイタクな子育て』はるか書房 ISBN 978-4-795-24072-8 佐渡島紗織・吉野亜千子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房 ISBN 978-4-894-76368-5					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は、レポート発表やディスカッションを取り入れ、学生と一緒に作る授業をめざします。自分の研究テーマの選定のため、日頃から教育・保育に関係する社会の動向に関心を持つよう心掛けましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	佐藤 幸子 (※)
【キーワード】 ボランティア、子育て支援、居場所づくり、地域連携					
【授業内容・授業の目的】 昨今、子育て支援の重要性が言われている。子どもの居場所のみならず、大人の居場所も必要なのかもしれない。具体的に“心地よい居場所”を考え、なぜこのような場所が求められるのかを考える。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：地域の中での居場所を考えて企画することができる。 保育の方法と技能：居場所を利用する人やボランティア参加する人の意識を理解できる。 論理的思考力：自ら体験したこと、他者の報告から知る情報の共有、文献や資料等から論理的に考えることができ、次につなげようと努めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	1年間のテーマ“居場所”を考える		なぜ“居場所”が必要か考えておく(1時間)		
2週	幼児の“居場所”を考える		幼児の居場所を考えておく(1時間)		
3週	小学生の“居場所”を考える		小学生の居場所を考えておく(1時間)		
4週	子育て家庭の“居場所”を考える		子育て家庭の居場所を考えておく(1時間)		
5週	幼児のための“居場所”を企画する		どういう企画にするか考えておく(1時間)		
6週	企画したものを実施する(幼児用)		企画内容を再確認しておく(1時間)		
7週	実施企画の反省と課題		企画の反省と課題をまとめておく(1時間)		
8週	長野県の“居場所”を調べる		長野県内の“居場所”を調べておく(1時間)		
9週	子育て家庭の“居場所”を企画する		どういう企画にするか考えておく(1時間)		
10週	企画したものを実施する (子育て家庭用)		企画内容を再確認しておく(1時間)		
11週	子ども・子育て家庭の居場所についての文献研究		テーマに合った文献を探しておく(1時間)		
12週	子育て家庭の居場所について調査する		調査内容をまとめておく(1時間)		
13週	調査報告会・居場所の条件を考える		わかりやすく伝える練習をしておく(1時間)		
14週	前期活動のまとめ		1週目から13週目の学びをまとめ、次に生かせることを考えておく(1時間)		
15週	秋桜祭に向けて		秋桜祭での発表について考えておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度60%、定期試験(レポート)30%、提出物10% 実践力と協働性：地域の中での居場所を考えて企画することができるか、受講態度・定期試験・提出物で評価する。 保育の方法と技能：居場所を利用する人やボランティア参加する人の意識を理解できるか、自分自身に置き換えて考えることができるか、受講態度・提出物で評価する。 論理的思考力：各自から得た情報や文献・資料等から論理的に考えまとめることができたか、定期試験で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 授業中の報告会等で実施する。					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 『「信州こどもカフェ」について』 https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/hitorioya/ibasyohome.html 『NPO ホットライン信州』 http://hotline-shinshu.jimdo.com/					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもや子育て家庭の居場所づくり、ボランティア等に興味があり意欲のある学生を望みます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	稲生 弘志
【キーワード】表現力、美の認識、造形教養の実践力					
【授業内容及び方法】 図工の指導者は表現者としても豊かな感性と技術力を身に付ける必要性を求められる観点から、様々な素材を使用し、多くの作品を制作出来る力を身に付けることをねらいとする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：表現活動の指導者として豊かな表現力を身に付けている。 保育の方法と技能：子どもの描画活動や造形活動を支援する指導者となるための技能を有している。 論理的思考力：様々な芸術作品を理解し、活発に議論することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		シラバスを読んでおく(1時間)		
2週	制作課題(絵本、オモチャ、紙芝居等)興味のあるものを決める		自分のテーマを決めるため、図書館等で絵本や美術書を見て調べる(1時間)		
3週	写生①(画用紙に下書き)		生物や風景や人物をエンピツで描いてみる(1時間)		
4週	写生②(水彩で色付け)		作品制作について資料を集めておく(1時間)		
5週	アクセサリを作ろう①		デザインを事前に考えておく(1時間)		
6週	アクセサリを作ろう②		製作工程を資料等で調べる(1時間)		
7週	作品制作のテーマを考え、決定(絵本及び立体構成)		制作に必要な材料をそろえておく(1時間)		
8週	作品制作①(絵本のストーリーを考える。立体構成の材料をそろえる)		各自の制作に必要な教員のアドバイスについて考え研究する(1時間)		
9週	作品制作②(絵本の内容・展開を考える。立体構成の基礎を作る)		絵本の内容・展開を考えておく(1時間)		
10週	作品制作③(絵本の内容を考えて、内容を深める。立体構成の基礎を作る)		絵本の内容を考えて、内容を深めておく(1時間)		
11週	作品制作④(絵本の内容とオチを考える。立体構成の基礎を作る)		絵本の内容とオチを考えておく(1時間)		
12週	作品制作⑤(絵本の内容に即す絵を描く。立体構成の制作)		絵本の内容に即す絵を考えておく(1時間)		
13週	作品制作⑥(絵本を仕上げる。立体構成を仕上げる)		絵本を仕上げられるよう準備しておく(1時間)		
14週	印象派、シュールレアリズムの絵画を鑑賞		ゴッホ・ダリ・ピカソの画集を見て理解してくる(1時間)		
15週	印象派、シュールレアリズムについて考察し、ディスカッション		ゴッホ・ダリ・ピカソ及びシュールレアリズムについて研究する(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 実践力と協働性：表現活動の指導者として豊かな表現力を身に付けているか、技能と受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：子どもの描画活動や造形活動を支援する指導者となるための技能を有しているか、定期試験(実技)と技能によって評価する。 論理的思考力：様々な芸術作品を理解し、活発に議論することができるか、技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】授業中に適宜資料を配布する					
【参考書等】授業中に適宜資料を配布する					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 自分の個性を生かした、世界でたった1つの作品を作りましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	西川 晶子
【キーワード】 保育、心理学、地域、社会、協働 ピアヘルパー					
【授業内容の目的】 ゼミ単位での活動と個人での活動がある。教員と緊密な連携をとりながら、保育者としての資質の向上を目指す。ピアヘルパーやキャリア育成の指導もふくまれる。各自の理想の自己像を明らかにして社会とのかかわりの中で実践していく。					
【授業の目標・到達目標】 実践力と協働性：周囲の人と協力して園や地域での実践を遂行することができる。 保育の方法と技能：各自のテーマに沿った技能を習得することができる。 論理的思考力：地域や外部との協働や個人の探求に論理的思考力を活かすことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		保育者としての夢を具体化しておく(1時間)		
2週	各自のテーマと成長のコースを計画する		夢実現のためのタイムスケジュールを描いておく(1時間)		
3週	学びたい心理学分野を調べる		インターネット検索しておく(1時間)		
4週	学びたい心理学分野を深める		インターネット検索しておく(1時間)		
5週	ピアヘルパーを知る		テキスト通読(1時間)		
6週	「〇と編集社」「トピチ」(学外調査・講話)		質問項目を考えておく(1時間)		
7週	地域と保育者、短大生との連携可能性について調査する		インターネット検索しておく(1時間)		
8週	地域イベント参加内容について学内ディスカッション		インターネット検索しておく(1時間)		
9週	地域イベント参加内容の学外プレゼンテーション		プレゼン内容まとめ資料作成(1時間)		
10週	ピアヘルパーの技法		テキスト通読(1時間)		
11週	地域イベント参加準備		役割の確認物品等確認(1時間)		
12週	地域イベント参加記録計画		各自で活動を計画(1時間)		
13週	地域イベント参加(学外活動)		各自で活動を計画(1時間)		
14週	ゼミ内発表		各自のテーマ発表準備(1時間)		
15週	まとめ		前期について自己分析(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験 40%、受講態度 20%、提出物 20%、技能 20% 実践力と協働性：周囲の人と協力して園や地域での実践を遂行することができたか、受講態度と技能(地域園での披露の調整・準備、遂行)で評価する 保育の方法と技能：各自のテーマに沿った技能を地域でいかすことを定期試験で評価する。 論理的思考力：地域や外部との協働や個人の探求に論理的思考力を活かすことができたか、提出物(指導案・実施記録等)で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 個人面談をする					
【テキスト】 日本カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』ISBN 978-4-8100-1343-6 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】 加藤繁美著『保育者と子どものいい関係』ひとなる書房 ISBN 978-4-93536-63-3					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ピアヘルパー資格取得と地域での活動をゼミのテーマにする予定です。積極的な参加を期待しています。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅰ (P316)	1	必修	2年 前期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】卒業研究、保育環境、保育実践、制作発表					
<p>【授業内容・授業の目的】学生の興味関心に応じた学びを通して、子どもの創造性に基づいた遊びや児童文化への理解を深め、卒業研究の基礎を培う。保育者として望ましい人的環境になるために、自身の生活・文化的な教養を磨くことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く様々な状況を理解し、子どもが育つ環境に興味をもって学ぶ。 ・既習内容や様々な経験に基づいて各自の興味・関心の幅を広げ、卒業研究のテーマへとつなげていく。 ・自分の将来を見通して自己課題を明確にし、仕事を中心とした将来をデザインする。 					
<p>【授業の到達目標（学習成果）】実践力と協働性：保育現場で活きる児童文化財について理解し、仲間と協力して作品を仕上げることができる。</p> <p>保育の方法と技能：質的研究等の研究方法について学び、研究の手法やルールについて理解する。</p> <p>論理的思考力：保育を取り巻く様々な状況に対して理解と興味を持ち、論理的に物事を捉えることができる。</p>					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション	保育環境について調べる（1時間）			
2週	物的環境構成	各自で、物的環境構成について調べる（1時間）			
3週	人的環境構成	各自で、人的環境構成についてまとめる。（1時間）			
4週	環境構成の素材	各自で素材を調べる。（1時間）			
5週	素材を使用して作製	素材を準備する。（1時間）			
6週	成果物を発表	成果物の活用方法を決める。（1時間）			
7週	春の環境構成	季節感を考えて必要な環境を決める。（1時間）			
8週	夏の環境構成	季節感を考えて必要な環境を決める。（1時間）			
9週	秋の環境構成	季節感を考えて必要な環境を決める。（1時間）			
10週	冬の環境構成	季節感を考えて必要な環境を決める。（1時間）			
11週	整理と発表の仕方（伝え方）	各自で、まとめ方や発表の仕方を決める。（1時間）			
12週	各自整理する	各自で整理する。（1時間）			
13週	各自整理したものを発表する	発表内容を書き出す。（1時間）			
14週	発表したものを振り返る	反省する。（1時間）			
15週	まとめ	各自で、環境構成が保育になぜ大切なのかまとめる。（1時間）			
<p>【成績評価の方法・基準】技能 40%、定期試験（レポート）30%、受講態度 30%</p> <p>実践力と協働性：様々な児童文化財について理解し、協働性をもって活動に取り組むことができるか、技能と受講態度によって評価する。</p> <p>保育の方法と技能：様々な研究方法やルール、論文検索などについての適切な知識や技術を持っているか、定期試験（レポート）によって評価する。</p> <p>論理的思考力：保育を取り巻く様々な環境や状況に対して理解と興味を持ち、考察する力があるか、定期試験（レポート）によって評価する。</p>					
<p>【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】試験・レポート等返還日に各学科指定場所まで返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。</p>					
【テキスト】必要に応じて資料を配付します。					
<p>【参考書等】</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0</p> <p>必要に応じて資料を配付します。</p>					
<p>【学生へのメッセージ・履修上の留意点】</p> <p>各自が課題意識をもって子どもに関わる研究を行うため、自分で研究課題（テーマ）を決めるといった積極的な姿勢を求めます。進路決定に向けた模擬試験の実施も予定しています。</p>					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	赤間 公子
【キーワード】 保育技術、児童文化財、卒業制作					
【授業内容・授業の目的】 各年齢の子どもたちのあそびの支援を目的とした、支援ツール（教材・玩具・児童文化財）を制作する。 各年齢の子どもたちの発達について理解し、遊びの支援をするにあたってどのような支援ツール（教材・玩具・児童文化財）が必要か調べ、デザインし、制作する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：支援ツール（教材・玩具・児童文化財）をデザインし、協働することで卒業制作を完成させる。 保育の方法と技能：子ども一人ひとりに寄り添った保育・教育を展開するにあたって、その支援ツール（教材・玩具・児童文化財）を制作する。 論理的思考力：プレゼンテーションやグループ討論に際し、論理的にわかりやすく説明ができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		実践演習Ⅰで作成した児童文化財の修正点を確認する（1時間）		
2週	各年齢の発達の理解と子どもの玩具や教材の工夫		既存の教材や玩具、児童文化財を調べる（1時間）		
3週	調査報告		発表レポートを書く（1時間）		
4週	卒業制作①作成する児童文化財（2つ）の選定		決めるための資料を集める（1時間）		
5週	卒業制作②1つ目の制作		教材の制作を進める（1時間）		
6週	児童文化財の中間発表		中間発表の準備をする（1時間）		
7週	卒業制作③改善点の修正		指摘された改善点を修正する（1時間）		
8週	卒業制作④二つ目の制作に向けての準備		制作する玩具・児童文化財を決める（1時間）		
9週	卒業制作⑤制作		制作を進める（1時間）		
10週	児童文化財の中間発表		中間発表の準備をする（1時間）		
11週	卒業制作⑥二つ目の児童文化財の改善点の修正		指摘された改善点を修正する（1時間）		
12週	2つの制作物のプレゼンテーションの準備		プレゼンテーションの準備（2時間）		
13週	プレゼンテーション		プレゼンテーションを振り返る（0.5時間）		
14週	グループ討論		他の学生の意見をまとめておく（0.5時間）		
15週	1年間のふりかえり		レポートをまとめる（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 提出物 60%、定期試験（レポート） 30%、実技 10% 実践力と協働性：二つの児童文化財を制作する中で、他の学生と協力し、自分の役割の担い、話し合っで完成させることで評価する。 保育の方法と技能：実際に制作したものについてプレゼンテーションを行うことで評価する。 論理的思考力：プレゼンテーションの内容や、グループ討論での発言によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 授業時、適宜配布する					
【参考書等】 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』萌文書林 ISBN 978-4-89347-277-9 片岡輝・今井和子・佐々木由美子編『保育者のための児童文化』大学図書出版 ISBN 978-4-903060					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 教材や玩具、児童文化財をどのように改善・工夫したら、子どもたちにとって有益で使いやすいものになるか、実践に役立つ保育技術の向上に役立ててほしいと思います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	塩崎 正
【キーワード】教育思想、教育哲学、クリティカル・シンキング					
【授業内容・授業の目的】自らを相対的に捉える視点は一朝一夕で身につくものではない。それゆえ、本講義では保育実践演習Ⅱに引き続き、文献講読、学生同士での議論、論文作成の指導等を積極的に取り入れることで、相対的に自省する際に必要となる批判的思考・論理的思考を養成する。また、これまでの学びの集大成としての卒業論文の作成を行う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：異なる意見を持つ人同士の間で、互いに納得できる答えを導き出すことができる。 保育の方法と技能：自らの考えを明晰判明な言葉で伝えることができる。 論理的思考力：教育や保育を取り巻く諸課題について批判的・論理的に考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		卒業論文の資料を収集し、原稿を作成する。(1時間)		
2週	秋桜祭に向けての準備 (発表内容と調査)		秋桜祭で何テーマに発表するかを考えて、まとめておく。(1時間)		
3週	秋桜祭に向けての準備 (発表の練習)		発表方法について考えて、必要なもの(ポスターやパワーポイントなど)を準備する。(1時間)		
4週	卒業論文のテーマ(決定版)の発表		自分の卒業論文について簡単なレジюмеを用意する。(1時間)		
5週	教育・保育問題についての討論 (幼児教育のあり方)		新聞や雑誌などで現在取り組まれている幼児教育の課題について調べる。(1時間)		
6週	教育・保育問題についての討論 (自然環境を活かした幼児教育の工夫)		新聞や雑誌などで自然環境を活かした幼児教育の取組みについて調べる。(1時間)		
7週	教育・保育問題についての討論(子どもの遊びを深めるおもちゃのあり方)		子どものおもちゃの歴史や種類、おもちゃの機能について調べる。(1時間)		
8週	卒業論文の第一稿の発表		卒業論文を執筆する。(1時間)		
9週	論文作成の技法(推敲・構成)		自分の論文を推敲する。(1時間)		
10週	卒業論文の作成(個別指導)		卒業論文を執筆する。(1時間)		
11週	卒業論文の作成(ピアレビュー)		論文作成の技法を復習する。(1時間)		
12週	卒業論文の第二稿の発表		卒業論文を執筆する。(1時間)		
13週	卒業論文発表のパワーポイント作り		卒業論文の要点をまとめておく。(1時間)		
14週	卒業論文の発表		発表の準備をする。(1時間)		
15週	まとめ		これまでの学習・研究を振り返る。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)30%、提出物30%、技能20%、受講態度20% 実践力と協働性：異なる意見を持つ人同士の間で、互いに納得できる答えを導き出すことができるか、技能および受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：自らの考えを明晰判明な言葉で伝えることができるか、提出物によって評価する。 論理的思考力：教育や保育を取り巻く諸課題について批判的・論理的に考えることができるか、定期試験および技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】授業時に適宜プリントを配布する。					
【参考書等】古茂田宏『ピンボーンな生活ゼイタクな子育て』はるか書房 ISBN 978-4-795-24072-8 佐渡島紗織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房 ISBN 978-4-894-76368-5					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】授業は、レポート発表やディスカッションを取り入れ、学生と一緒に授業をめざします。日頃から教育・保育に関する社会の動向に広く関心を持ち、自分の研究を深めていけるよう心掛けましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 子育て支援、居場所づくり、地域連携、卒業論文、反省と課題					
【授業内容・授業の目的】 子ども・子育て家庭の居場所づくりとして大学祭(秋桜祭)で企画実施。そのための準備から実施までの過程を振り返り、子育て支援や居場所づくりなど、何を学び課題は何かなどを卒業論文としてまとめる。					
【授業の到達目標(学習成果)】 実践力と協働性：自らの調査研究について、ゼミ生で協力して発表につなげることができる。 保育の方法と技能：子どもの状況を考え、一人ひとりに寄り添った企画を提案することができる。 論理的思考力：調査等を経験したことで見えてきた課題などを卒業論文としてまとめることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	大学祭でできる子どもの居場所を考える		大学の特性等を考えておく(1時間)		
2週	大学祭での“居場所”を企画する		子どもの居場所を考えておく(1時間)		
3週	企画内容を吟味する		企画を具体的に考えておく(1時間)		
4週	大学祭の反省と課題		大学祭での内容をまとめておく(1時間)		
5週	論文の書き方		論文の書き方を検索しておく(1時間)		
6週	卒業論文の作成について(理論と体験の整理)		4月からの体験を理論と結び付けておく(1時間)		
7週	卒業論文の内容を考える(個別指導を含む)		自身に合った論文の書き方を調べておく(1時間)		
8週	ゼミとしての活動のまとめ		ゼミとしての活動経験を今後どう生かすか、まとめておく(1時間)		
9週	卒業論文作成①(文献検索)		論文に必要な文献を探しておく(1時間)		
10週	卒業論文作成②(本論作成)		卒論の本論を書き進める(1時間)		
11週	卒業論文中間報告		中間報告に向けて資料を作成する(1時間)		
12週	卒業論文作成③(考察・課題等作成)		卒論の本論から考察や課題を見つける(1時間)		
13週	卒業論文の最終確認		論文を読み返し、必要に応じて修正する(1時間)		
14週	卒業論文発表会		発表に向けて練習等の準備をしておく(1時間)		
15週	1年間の反省とまとめ		1年間の感想・反省・課題をまとめておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)40%、受講態度40%、提出物20% 実践力と協働性：他のゼミ生と協力し大学祭に関わることができたか、受講態度と提出物で評価する。 保育の方法と技能：子どもの状況を把握した上で企画できたかについて受講態度と提出物で評価する。 論理的思考力：経験したことや課題などを論理的に言語化できているか、定期試験で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 卒論提出後の授業で各自面談を実施する。					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 『「信州こどもカフェ」について』 https://www.pref.nagano.lg.jp//jisedai/hitorioya/ibasyohome.html 『NPO ホットライン信州』 http://hotline-shinshu.jimdo.com/					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 こどもカフェ等の調査研究を卒業論文としてまとめることで、1年間のゼミ活動の集大成としてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	稲生 弘志
【キーワード】 美意識、創意工夫、感性					
【授業内容及び方法】 園工の指導者は表現者としても豊かな感性と技術力を身に付ける必要性を求められる観点から、様々な素材を使用し、多くの作品を制作出来る力を身に付けることをねらいとする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：表現活動の指導者として豊かな表現力を身に付けている。 保育の方法と技能：子どもの描画活動や造形活動を支援する指導者となるための技能を有している。 論理的思考力：様々な芸術作品を理解し、活発に議論することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		シラバスを読んでおく(1時間)		
2週	卒業制作に向けて計画し、準備する。		画集や絵本等を調べて卒業制作のテーマを考え、資料を集めておく(1時間)		
3週	作品制作① 紙及び布を使用し、パペットを制作する		パペットの紙や布を集めておく(1時間)		
4週	作品制作② 紙及び布に型紙で印をつけて、切る		パペットの制作を進めておく(1時間)		
5週	作品制作③ 紙及び布によるパペットを制作する		パペットの制作を進めておく(1時間)		
6週	作品制作④ パペットの仕上げ(色ぬり等)		パペットをぬる色を考えておく(1時間)		
7週	作品制作⑤ パペットの内容に合わせて、ペープサートを作る		ペープサートの内容を考えておく(1時間)		
8週	作品中間合評会 パペットとペープサートで即興演劇を試みる		即興演劇を練習しておく(1時間)		
9週	作品制作⑥ ドングリや木の実を利用し、マラカスを作る		ドングリや木の実を集めておく(1時間)		
10週	作品制作⑦ 松ぼっくりでクリスマスツリーを作る		松ぼっくりを集めておく(1時間)		
11週	作品制作⑧ 飛び出す仕掛け絵本を制作する		様々な飛び出す仕掛け絵本を読んでおく(1時間)		
12週	作品制作⑨ 消しゴム版画で年賀状を作る		消しゴム版画について調べておく(1時間)		
13週	作品制作⑩ 牛乳パックで動く動物を制作する		牛乳パックを準備し、その可能性を探っておく(1時間)		
14週	作品を卒業制作として全て提出		全ての作品を提出できるよう仕上げしておく(1時間)		
15週	一年間のふり取りとまとめ		授業で学んだ事をふり取り、考察しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 実践力と協働性：表現活動の指導者として豊かな表現力を身に付けているか、技能と受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：子どもの描画活動や造形活動を支援する指導者となるための技能を有しているか、定期試験(実技)と技能によって評価する。 論理的思考力：様々な芸術作品を理解し、活発に議論することができるか、技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する					
【参考書等】 授業中に適宜資料を配布する					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 難しい仕事をやり遂げた達成感を味わってみよう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	西川 晶子
【キーワード】 保育、保育実践、ピアヘルパー、カウンセリング心理学、キャリア形成、地域連携、協働					
【授業内容及び方法】 各自のテーマに沿って、保育者としてのスキル向上、保育実践と省察を繰り返す。ゼミ単位で社会とのかかわりの中で体験を深める。またカウンセリング技術習得（ピアヘルパー）を予定している。					
【授業の目標・到達目標】 実践力と協働性：地域や周囲の人々と協働しながら保育実践を深める 保育の方法と技能：各自のテーマとゼミのテーマのスキル向上を目指す。 論理的思考力：各自とゼミのテーマ遂行のために論理的思考力を養う。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		各自のテーマについて考えておく（1時間）		
2週	面談及び文献検索		各自のテーマについてメモにしておく（1時間）		
3週	情報検索オリエンテーション		今わかっている情報を整理しておく（0.5時間）		
4週	情報検索		あらかじめ自分でできる情報検索をおこなう（0.5時間）		
5週	各自テーマを確定し情報検索、スキルアップ準備		各自のテーマについて準備をしておく（1時間）		
6週	各自テーマを確定し情報検索、スキルアップ試行		各自のテーマスキルアップの方法を複数考える（1時間）		
7週	カウンセリング心理学入門（ピアヘルパー）		配布資料通読（1時間）		
8週	地域での保育実践教材選定（指導案）		子どもとの活動について調べておく（1時間）		
9週	地域での保育実践準備（指導案）		指導案の準備（1時間）		
10週	カウンセリング心理学さまざまな技法（ピアヘルパー）		配布資料通読（1時間）		
11週	カウンセリング技術を高める（ピアヘルパー）		配布資料通読（1時間）		
12週	カウンセリング事例検討（ピアヘルパー）		事例を読んで感想をまとめる（2時間）		
13週	卒業制作活動		各自の制作で足りない点を埋める（1時間）		
14週	卒業制作プレゼンテーション準備		作品や論文披露の準備（2時間）		
15週	卒業制作プレゼンテーション		作品や論文披露の準備（2時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）60%、受講態度20%、技能20% 実践力と協働性：地域や周囲の人々と協働しながらゼミ活動ができるかを受講態度と技能で評価する。 保育の方法と技能：各自のテーマとゼミのテーマのスキル向上について定期試験と技能で評価する。 論理的思考力：卒業制作において論理的思考力が発揮できているか定期試験によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 卒業制作プレゼンテーション時に学生同士及び学生と教員とで評価を行う。					
【テキスト】 日本カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』ISBN 978-4-8100-1343-6 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【参考書等】 小西貴士『子どもと森にでかけてみれば』フレーベル館 ISBN 978-4-577-81292-1					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 伊那市の地域イベントほか、授業時間外に地域で子どもと関わる活動を予定しています。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実践演習Ⅱ (P409)	1	必修	2年 後期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】 保育技術、保育実践、環境構成、卒業研究発表					
【授業内容・授業の目的】 保育者に限らず様々な職種や社会生活の場面で必要なコミュニケーション力や技術が求められる場面は少なくない。この授業では、自分自身の疑問点を出発点にして研究を進め、保育環境に必要な制作物を作成したり、発表したりする力を養う。子どもの持つ世界に関心や意識を持ち、環境構成を通して独自の視点から子どもを見つめることを目指す。 ・子どもの遊びを理解し、論理的に考察を深めようとする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：情報収集力を磨き、文献や作品から得た知見を収集・分析・活用してチームで制作ができる。 保育の方法と技能：実践的な学びと省察を通して保育の技能を高めることができる。 論理的思考力：各自の問題意識から見出した子どもに関わる諸課題について、論理的に考察を深めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		保育に必要なコミュニケーションを考える。(1時間)		
2週	コミュニケーションの活用		手あそびと歌を調べる。(1時間)		
3週	環境構成について調べる		壁面制作に必要なものを調べる。(1時間)		
4週	壁面制作を考える		壁面制作に必要なものを準備する。(1時間)		
5週	壁面制作の実際		チームで作る壁面制作を考える。(1時間)		
6週	チームで作る壁面制作を考える		制作の工程を計画する。(1時間)		
7週	チームで作る壁面制作		材料を準備する。(1時間)		
8週	制作各自分担の作業		作業分担を考える。(1時間)		
9週	チームで作る壁面制作を装飾		各自手順を考える。(1時間)		
10週	共同作業に必要なコミュニケーションを考える		壁面制作の考察を考える。(1時間)		
11週	共同作業に必要なコミュニケーションを発表する		発表内容をまとめる。(1時間)		
12週	玩具（ブロック）を活用した遊びの場面の考察		想定される遊び方や場面を予想してまとめる。(1時間)		
13週	玩具（ブロック）を活用した学級活動の場面の考察		想定される遊び方や場面を予想してまとめる。(1時間)		
14週	玩具（ブロック）の活用をふりかえる		エピソード記録としてまとめる。(1時間)		
15週	まとめ		コミュニケーションと技術についてまとめる。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）60%、技能20%、受講態度20% 実践力と協働性：体験から得た知見を収集・分析・活用して創造的で壁面制作や遊びの考察ができるか、定期試験（レポート）によって評価する。 保育の方法と技能：実践的な学びと省察を通して保育の技能を高めることができるか、技能及び受講態度によって評価する。 論理的思考力：保育活動を書籍や体験、インターネット等を用いて収集・分析し、獲得した知識や理解をもとに、論理的に思考し説明することができるようになったか、定期試験と受講態度で評価をする。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 必要に応じて資料を配付します。					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0 必要に応じて資料を配付します。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 各自が課題意識をもって子どもに関わる研究を行うため、自分で研究課題（テーマ）を決めるという積極的な姿勢を求めます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実習指導ⅠA (P221)	1	選択 (保育士必修)	1年後期 2年前期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】 実習、観察、保育技術、倫理観、エピソード記述、指導案					
【授業内容・授業の目的】 保育所の機能や役割などを学び、保育所における最初の実習に向けた学習・準備を行う。また、保育者として望ましい姿勢を身に付け、実習に臨むことができるよう学習を積む。 ・視聴覚映像等を用いて保育の現場について理解を深め、実習に向けた自己課題を明確化する。 ・自己紹介や絵本の読み聞かせ、紙芝居などの模擬保育を行い、相互評価を通して実践力を養う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容に基づいて自己の目標や課題を明確化し、実習で活用できる保育技能及び実践力を養う。 保育の対象への理解：子どもの人権や保育者の守秘義務を踏まえ、養護と教育が一体となって展開される保育について理解することができる。 保育の方法と技能：子どもの発達段階に即した保育の計画への知識を持ち、保育実習の目的及び保育所保育の責務について理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育実習ⅠAの目的と概要		実習希望保育所2か所を調べる。テキスト第1・2章を読む。(3時間)		
2週	保育所の方針や保育士の役割		テキスト第3・4章を読む。(2時間)		
3週	保育所実習の役割		テキスト第5章を読む。(1時間)		
4週	施設実習の意義と場所		テキスト第6・7章を読む。(2時間)		
5週	施設実習の内容		テキスト第8章を読む。(1時間)		
6週	実習日誌・記録の意義 小テスト		テキスト第9章を読む。(1時間)		
7週	実習日誌・記録の実際		実習日誌例を記入する。		
8週	指導案の作成		テキスト第10章を読む。(1時間)		
9週	模擬保育(自己紹介)		自己紹介の指導案を作成する(2時間)		
10週	模擬保育(手遊び・絵本・紙芝居) 小テスト		手遊びリスト、読み聞かせリストに記入をする。(2時間)		
11週	実習に向けての準備・心構え・姿勢		テキスト第11・12章を読む。実習訪問担当者連絡票に記入をする。(2時間)		
12週	実習に必要な知識・技術		テキスト第13・14章を読む。(2時間)		
13週	実習記録の取り方(エピソード記述)		エピソードを記述してくる。		
14週	実習の最終確認		オリエンテーションの内容をまとめる。(1時間)		
15週	実習のまとめと自己評価(実習後)		テキスト第15章を読む。(2時間) 実習の総括と自己評価をする。(2時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)30%、技能30%、受講態度30%、小テスト10% 実践力と協働性：保育実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について理解し、保育実習で活用できる実践力を有しているか、定期試験(レポート)及び技能によって評価する。 保育の対象への理解：保育所における子どもの人権や保育者の守秘義務を踏まえ、養護と教育が一体となって展開される保育について理解しているか、定期試験(レポート)及び小テストによって評価する。 保育の方法と技能：保育所の役割や保育実習の意義・目的を理解した上で、実習に向けた明確な課題を持って意欲的に取り組んでいるか、受講態度によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金) 後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】 谷田貝公昭 『コンパクト版保育者養成シリーズ<新版>保育実習』 一藝社 ISBN 978-4-86359-142-4					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 小テストの結果は学生にフィードバックしますので、保育所保育指針の基本について復習しておきましょう。この科目の学習状況が芳しくない場合は、実習に対して制限がかかることがあります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実習指導IB (P222)	1	選択 (保育士必修)	1年後期 2年前期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】施設実習、守秘義務、入所型施設、実習計画、自己評価					
【授業内容・授業の目的】 施設実習は宿泊を原則とする実習である。福祉施設で働く保育士の仕事内容や専門性を理解し実践するために事前学習を充実させ、実習に望む。また実習後には今後の学びへの課題や目標を明確にする。 ・実習計画書・ワークシート等の作成を通じた事前学習を実施する。 ・実習後には総括のレポートを作成、自己評価をしたうえで個別指導を行う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：事前学習で学んだことを活かし、施設の保育士の役割を観察、実践を試みることができる。 保育の対象への理解：施設利用者について、基本的態度や守秘義務等の重要性を理解することができる。 論理的思考力：事前学習や実習記録等で、自身の学びを言語化することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	施設実習の意義と位置づけ		施設実習の意義について考えておく（1時間）		
2週	施設実習の目的		施設実習の目的について考えておく（1時間）		
3週	施設実習の概要と内容		施設実習の概要について考えておく（1時間）		
4週	施設実習の課題		施設実習では何を学びたいか考えておく（1時間）		
5週	実習に際しての留意事項 (人権・守秘義務)		人権を護るという意味を考えておく（1時間）		
6週	実習先決定・実習生としての心構え		実習生の立場を考えておく（1時間）		
7週	障がい者支援施設の実習内容		障がい者支援施設の疑問点を考えておく（1時間）		
8週	乳児院・児童養護施設の実習内容・ 実習生カード作成		乳児院・児童養護施設の疑問点を考えておく （1時間）		
9週	施設実習における観察・実践と評価		実習の目標のために何をしたら良いかまとめて おく（1時間）		
10週	実践のために必要なこと・マインド マップ作成		実習を充実させるために必要なことを考えて おく（1時間）		
11週	実習計画書作成		実習施設に合わせた目標を考えておく（1時間）		
12週	実習ノートの具体的記録の書き方について・ 車椅子体験		テキストで、実習ノートの書き方を予習して おく（1時間）		
13週	実習ノート練習・車椅子体験		実習ノートの書き方を復習しておく（1時間）		
14週	ワークシート作成・車椅子体験		ワークシートを完成させる（1時間）		
15週	実習前の最終確認（実習後には個別 面談を実施、総括を行う）		持ち物や確認事項など最終確認（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 提出物 40%、技能 30%、定期試験（レポート）20%、受講態度 10% 実践力と協働性：施設の保育士の役割を観察、実践を試みることができたか、提出物・技能・定期試験で評価する。 保育の対象への理解：施設利用者について、基本的態度や守秘義務等の重要性を理解することができたか、提出物・受講態度で評価する。 論理的思考力：自身の学びを言語化することができたか、提出物と定期試験で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 実習後、各自面談を実施する。					
【テキスト】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 喜多一憲・児玉俊郎監修 『(五訂)福祉施設実習ハンドブック』 みらい ISBN 978-4-86015-481-3					
【参考書等】 必要に応じてプリントを配布する					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育士資格に、なぜ施設実習が必要であるかを考え、充実した施設実習になるよう臨んでほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実習指導Ⅱ (P410)	1	選択 (保育士選択必修)	2年 後期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】 実習、保育技術、倫理観、エピソード記述、省察					
【授業内容・授業の目的】 これまでの既習内容や保育実習ⅠAなどの学びを関連付け、保育実習の意義の理解と実習に向けた実践力を養う。実習後は実習経験を客観的に省察し、今後の保育の課題へと活かすことができるように自主的な学びや努力を積む。 ・保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について具体的な事例を通して学ぶ。 ・実習指導案を立てて模擬保育を行い、相互評価を通して保育者の資質と実践力を高める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：他教科での学びを総合的に活用し、協働的に保育を行うことができる。 保育の方法と技能：子どもの発達段階に即した保育の内容や計画への知識と技能を持ち、保育所保育の責務について理解することができる。 論理的思考力：保育者としての自己課題を明確化し、生涯にわたる自己研鑽に励む素地を養う。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育実習Ⅱの目的と概要	実習希望保育所を調べ、内諾を得ておく。(1時間)			
2週	実習の計画と自己課題	これまでの実習を振り返り実習の自己課題を考える。(1時間)			
3週	保育士の専門性と職業倫理	実習生カードに記入をする。(0.5時間)			
4週	計画と記録を踏まえた保育の改善	課題に基づいて指導案を立てる。(2時間)			
5週	模擬保育(二歳児)	模擬保育の準備をする。(二歳児)(1時間)			
6週	模擬保育(三歳児)	模擬保育の準備をする。(三歳児)(1時間)			
7週	模擬保育(四歳児)	模擬保育の準備をする。(四歳児)(1時間)			
8週	模擬保育(五歳児)	模擬保育の準備をする。(五歳児)(1時間)			
9週	実習に向けた最終確認	実習訪問担当者連絡票に記入をする。(1時間)			
10週	実習の総括と報告	実習の総括と自己評価をする。(1時間)			
11週	実習体験の共有化	テキスト②第8・9章を読む。(1時間)			
12週	保育内容の省察と改善	実習中のエピソード記述を整理する。(1時間)			
13週	保育の知識と保育実践	保育所保育の基本について既習内容を振り返る。(1.5時間)			
14週	子どもの保育と保護者支援	テキスト②第10章を読む。(0.5時間)			
15週	保育者の専門性の追求	自己評価に基づき課題を明確化させる。(0.5時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)40%、技能30%、受講態度30%、実践力と協働性：他科目での学びを総合的に活用して協働性を持って保育を展開することができるか、技能及び受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：子どもの発達段階に即した保育の計画や保育所の社会的役割への知識を持ち、保育所保育の責務について理解しているか、技能及び小テストによって評価する。 論理的思考力：自己の現状を顧み、保育者としての自己課題を明確化して改善できるか、定期試験(レポート)及び受講態度によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】(1年時に購入済み) 谷田貝公昭 『コンパクト版保育者養成シリーズ<新版>保育実習』 一藝社 ISBN 978-4-86359-142-4 ※① 太田光洋編 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド』 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-07335-1 ※②					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育者としての倫理観と使命感を持って現場に出られるよう体調管理や自己研鑽に努めてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育実習指導Ⅲ (P412)	1	選択 (保育士選択必修)	2年 後期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】施設実習、実習計画、対象者理解、実践力、自己選択					
【授業内容・授業の目的】 施設利用者の権利保障のための個別支援のあり方を理解し専門性と倫理について学ぶ授業である。また、実習後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うことで自身の課題を明確にする。 ・実習計画書・ワークシート・マインドマップ作成等、実習や実習施設に合わせた書類作成をする。 ・実習後には報告会を実施、振り返りを行うことで、客観的に自己評価を行う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：保育実習ⅠB(施設実習)で経験したことを活かし、施設での様々な事柄に対応し、実践することができる。 論理的思考：施設や利用者について、見えてくる問題や課題を論理的に考察し言語化することができる。 保育の対象への理解：施設利用者の背景や職員の対応等について理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	保育実習Ⅲとは～目的と内容		実習施設での目的を考えておく（1時間）		
2週	実習施設での目標と課題		実習での目標と課題を考えておく（1時間）		
3週	実習生カード作成		実習のテーマ・目標・課題・事前学習についてまとめておく（1時間）		
4週	実習計画書作成		有意義な実習には何が必要か考えておく（1時間）		
5週	保育実習Ⅲを充実させる記録の意味と書き方		実習ⅠBの実習ノートを読み返しておく（1時間）		
6週	ワークシート作成		実習の目標を達成させるために必要なことを具体的に考えておく（1時間）		
7週	職員倫理・守秘義務・実習に向けての最終確認		実習生に必要な態度等をまとめておく（1時間）		
8週	実習後報告書作成		実習を振り返り感想等をまとめておく（1時間）		
9週	自己評価表作成 (実習ⅠBとの比較)		実習の自己評価作成に向けて課題等をまとめておく（1時間）		
10週	施設実習での学びと支援者としての活かし方		実習での学びを今後はどう活かすか考えておく（1時間）		
11週	実習報告会に向けての準備		実習報告会で伝えたいことをまとめておく（1時間）		
12週	実習報告会① 実習報告会の意味とは		実習報告会の意味を考えておく（1時間）		
13週	実習報告会② 実習施設評価について		施設評価と自己評価の差を考えておく（1時間）		
14週	実習報告会③ 実習報告会の総括		実習報告会で学んだことや感想をまとめておく（1時間）		
15週	保育実習Ⅲの総括から見える課題の明確化		他者の報告も含めて、見えてきた課題をまとめておく（1時間）		
【成績評価の方法・基準】提出物50%、技能40%、受講態度10% 実践力と協働性：施設での実践が十分に行われたか、提出物・技能・受講態度で評価する。 論理的思考：問題や課題を言語化できたか、提出物で評価する。 保育の対象への理解：施設利用者や職員について理解することができたか、提出物・技能で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】実習終了後、各自面談を実施する。					
【テキスト】内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 喜多一憲・児玉俊郎監修 『(五訂)福祉施設実習ハンドブック』 みらい ISBN 978-4-86015-481-3					
【参考書等】必要に応じてプリントを配布する					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】進路を考えた上で実習施設を自己選択し取り組む実習である。自身が何を学びたいかについて、明確な目的意識をもって臨んでほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育の表現技術 (音楽Ⅲ)(M312)	1	選択	2年 前期	演習	臼田 由香里・原 葉子 西路 優佳・永井 知可子
【キーワード】音楽、ピアノ、弾き歌い、歌唱指導、模擬保育、アクティブ・ラーニング					
【授業内容・授業の目的】 保育現場に必要な弾き歌い、歌唱、楽典を身に付ける。4つのレベルに応じた課題を通じて、楽譜の読み解き方、演奏姿勢、運指、効果的な練習方法、子どもを想定した実践的な歌唱指導や模擬保育を学ぶ。アクティブ・ラーニング型の授業で、クラス全体での基礎力向上を目指す。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導や模擬保育を行うことができる。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができる。 保育の対象への理解：子どもの心身の発達を理解し、音楽活動を展開することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	春休み課題発表、グループ討論、意見交換		春休みの課題をしっかりと練習しておくこと(1時間)		
2週	ぶんぶんぶん(p.11)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、ぶんぶんぶん(p.11)を練習しておく(1時間)		
3週	あめふりくまのこ(p.52,p.242)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、あめふりくまのこ(p.52,p.242)を練習しておく(1時間)		
4週	かたつむり(p.60)、ピアノ自由曲、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、かたつむり(p.60)を練習しておく(1時間)		
5週	七夕さま(p.64,p.280)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、七夕さま(p.64,p.280)を練習しておく(1時間)		
6週	ハッピーバースディトゥユー(p.3,p.296)、アクティブ・ラーニング型レッスン、リハーサル		各レベル課題、ハッピーバースディトゥユー(p.3,p.296)を練習しておく(1時間)		
7週	中間発表		ピアノ曲と弾き歌い4曲を合格できるよう取り組む(1時間)		
8週	しゃぼん玉(p.88)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、しゃぼん玉(p.88)を練習しておく(1時間)		
9週	アイアイ(p.74,p.240)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、アイアイ(p.74,p.240)を練習しておく(1時間)		
10週	バスごっこ(p.50,p.292)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、バスごっこ(p.50,p.292)を練習しておく(1時間)		
11週	ミッキーマウスマーチ(p.76、別紙)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、ミッキーマウスマーチ(p.76、別紙)を練習しておく(1時間)		
12週	お化けなんてないさ(p.92,p.266)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱		各レベル課題、お化けなんてないさ(p.92,p.266)を練習しておく(1時間)		
13週	ピアノ自由曲、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱		各ピアノ自由曲を練習しておく(1時間)		
14週	ピアノ自由曲、弾き歌い曲、アクティブ・ラーニング型レッスン、リハーサル		ピアノ曲と弾き歌い4曲を合格できるよう取り組む(1時間)		
15週	まとめ、グループ討論、意見交換		前期課題をしっかりと復習しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導や模擬保育を行うことができていたか、受講態度と技能によって評価する。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができていたか、定期試験(実技)と技能と受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：子どもの心身の発達を理解し、音楽活動を展開することができていたか、定期試験(実技)と受講態度と技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】田中常夫『こどものうた』圭文社 ISBN 978-4874460764					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 『ブルグミュラー』『ソナチネアルバム』『ピアノ名曲集』『ディズニー曲集』『ジブリ曲集』					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】レッスンを受けるにあたって、友人同士の助け合い、教え合い、毎日の練習が欠かせません。少しでも上達できるよう一緒に頑張ってください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育の表現技術 (音楽Ⅳ)(M404)	1	選択	2年 後期	演習	臼田 由香里・原 葉子・ 西路 優佳
【キーワード】音楽、ピアノ、弾き歌い、歌唱指導、模擬保育、アクティブ・ラーニング					
【授業内容・授業の目的】 保育現場に必要な弾き歌い、歌唱、楽典を身に付けます。4つのレベルに応じた課題を通じて、楽譜の読み解き方、演奏姿勢、運指、効果的な練習方法、子どもを想定した実践的な歌唱指導や模擬保育を学びます。アクティブ・ラーニング型の授業で、クラス全体での基礎力向上を目指します。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導や模擬保育を行うことができる。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し、試験に臨むことができる。 保育の対象への理解：子どもの心身の発達を理解し、音楽活動を展開することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	夏休み課題発表、グループ討論、意見交換		夏休みの課題をしっかりと練習しておくこと (1時間)		
2週	まつぼっくり (p.113,p.299)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、まつぼっくり (p.113,p.299)を練習しておく(1時間)		
3週	どんぐりころころ (p.114,p.289)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、どんぐりころころ (p.114,p.289)を練習しておく(1時間)。		
4週	きのこと (p.118)、アクティブ・ラーニング型レッスン、歌唱指導		各レベル課題、きのこと (p.118)を練習しておく(1時間)		
5週	やきいもグーチーパー (p.140,p.304)、アクティブ・ラーニング型レッスン、模擬保育		各レベル課題、やきいもグーチーパー (p.140,p.304)を練習しておく(1時間)		
6週	ピアノ自由曲、アクティブ・ラーニング型レッスン、リハーサル		各レベル課題、ピアノ自由曲を練習しておく(1時間)		
7週	中間発表、グループ討論、意見交換		ピアノ曲と弾き歌い4曲を合格できるよう取り組む(1時間)		
8週	まっかな秋 (p.158,p.300)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、まっかな秋 (p.158,p.300)を練習しておく(1時間)		
9週	ジングルベル (p.178,p.274)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、ジングルベル (p.178,p.274)を練習しておく(1時間)		
10週	お正月 (p.188)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、お正月 (p.188)を練習しておく(1時間)		
11週	思い出のアルバム (p.222)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、思い出のアルバム (p.222)を練習しておく(1時間)		
12週	いぬのおまわりさん (p.210)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、いぬのおまわりさん (p.210)を練習しておく(1時間)		
13週	うたえバンバン (p.16,p.246)、アクティブ・ラーニング型レッスン、子どもに対する実践的音楽指導		各レベル課題、うたえバンバン (p.16,p.246)を練習しておく(1時間)		
14週	ピアノ自由曲、リハーサル		各レベル課題、ピアノ自由曲を練習しておく(1時間)		
15週	まとめ、グループ討論、意見交換		後期課題をしっかりと復習しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 保育の方法と技能：友人に対して、幼児を想定した歌唱指導や模擬保育を行うことができていたか、受講態度と技能によって評価する。 実践力と協働性：ピアノや弾き歌いの各レベル課題曲を全曲合格し試験に臨むことができていたか、定期試験(実技)と技能と受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：子ども心身の発達を理解し音楽活動を展開することができていたか、定期試験(実技)と受講態度と技能によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】田中常夫『こどものうた』圭文社 ISBN 978-4874460764					
【参考書等】内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0 『ブルグミュラー』『ソナチネアルバム』『ピアノ名曲集』『ディズニー曲集』『ジブリ曲集』					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】レッスンを受けるにあたって、友人同士の助け合い、教え合い、毎日の練習が欠かせません。少しでも上達できるよう一緒に頑張っていきましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育技術演習 (音楽遊び)(M110)	1	選択	1年 前期	演習	唐沢 史比古
【キーワード】・音楽の基礎力 ・音楽表現とあそび ・自発、協働学習					
【授業内容・授業の目的】音楽主要4要素や音楽活動5要素を理解し、総合的に活用しながら、音楽表現や音楽あそびをとおして、保育における音楽の力の大切さを体感、体得していく。 ・自発力を発揮し、協働して活動を進めることで、積極性、主体性、協調性を養っていく。 ・具現しやすい活動の設定や、グループワークを工夫・実践し、音楽表現や音楽あそびの修得に結びつける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：歌唱やリズム奏を中心とした音楽表現や音楽遊びを体得し、実践することができる。 実践力と協働性：自ら課題を追求し、他と協力して音楽活動や音楽遊びをすることができる。 保育の対象への理解：保育にとって要となる音楽の基本要素（主要4要素や5活動要素）の重要性を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	音楽主要4要素、5要素とは何か (ガイダンス、リズム表現)			テキストの「音楽の諸要素」部分を読む。(1時間)	
2週	個と集団との係り (グループピング、リズム表現：8ビート)			歌集「たのしいうた」の歌える歌を点検する。 (1時間)	
3週	表現6要素と音高 (拍と拍子、リズム表現：アクセント)			テキストの「音楽の諸要素」部分を復習する。 (1時間)	
4週	読譜とリズム創作① (カード使用法、エンカウンター活動)			テキストp43リズム創作の通読、復習(1時間)	
5週	読譜とリズム創作② (グループワーク：4拍子、2小節)			既習リズム遊びの復習、ダイナミクス、テンポ 復習(1時間)	
6週	読譜とリズム創作③ (グループワーク：3拍子、16分音符)			テキストp45、46の通読 リズム打ちの練習 (1時間)	
7週	読譜とリズム創作④ (グループワーク：応用2小節×2小節)			テキストp45～47の通読 リズム打ちの練習 (1時間)	
8週	打楽器奏法(様々な打楽器の基礎技法)			打楽器資料参照、技法について復習(1時間)	
9週	リズム遊び①(グループ合奏：即興表現) 歌唱			打楽器資料参照、技法について復習(1時間)	
10週	リズム遊び②(グループワークと身体表現①： 動作化) 歌唱			グループでのミーティング：動作化計画(1時間)	
11週	リズム遊び③(身体表現①：身体表現練習) 歌唱発声			グループでのミーティング：身体表現計画 (1時間)	
12週	リズム遊び④(身体表現②：身体表現発表) 歌唱合唱			テキストp104～109を読み、外遊び内容を把握 (1時間)	
13週	リズム遊び⑤(身体表現②：外遊び) 歌唱全体合唱			テキスト既習部分点検と復習(1時間)	
14週	読譜とリズム打ち(実技) リズム創作についての まとめ			テキスト既習部分点検と復習(1時間)	
15週	リズム遊び⑥(演習の点検とまとめ) 合唱表現			授業の振り返りと、後期音楽活動への展望 (1時間)	
【成績評価の方法・基準】 ①全体やグループ発表での表現活動(40%) ③リズム・歌唱技能(20%) ④提出物20% ④受講態度20% 保育の方法と技能：歌唱やリズム奏を中心とした音楽表現や音楽遊びを体得しているか、実践することができるかを、受講中の活動内容により評価する。 実践力と協働性：自ら課題を追求し、他と協力して音楽活動や音楽遊びをすることができるか、実際の表現活動や、実技演習、受講態度によって評価する。 保育の対象への理解：保育にとって要となる音楽の基本要素(主要4要素や5活動要素)の重要性を理解しているか、筆記による提出物により評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 提出されたレポート等は点検後、また遅くとも前期、後期の最後の授業には返還する。					
【テキスト】 ・唐沢史比古『音楽育への総合的アプローチ』～豊かな音楽教育のための実践書～ ・長野県音楽教育学会編『たのしいうた』ケイ・エム・ピー JASRAC 1814388-801					
【参考書等】「やさしい打楽器教本」ドレミ楽譜出版社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・授業では実践(活動体験、体感、体得)を大切にします。務めて出席するように努力してください。 ・動きやすい服装履物で参加のこと(スカート不可)。表現活動が多いため飲食は特別な場合を除いて禁止です。 ・授業や活動についての提出物(感想文等)と、個々の実技演習をすることがあります。評価の参考にします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保育の表現技術 (造形)(M313)	1	選択	2年 前期	演習	稲生 弘志
【キーワード】 幼児の絵の見方、発達障がい児の絵の見方、幼児・発達障がい児の指導方法					
【授業内容及び方法】 子どもの年齢と発達及びその個性（発達障がいも含む）に応じた造形作品制作をする。 基礎的色彩理論に基づいた平面構成や立体構成を試み、その技能を身に付ける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：色彩学の基礎知識及び平面構成や立体構成の技能を身に付け、美に対する感性を深める。 保育の対象への理解：幼児期における子どもたちの造形表現と特長について理解している。 実践力と協働性：幼児期の子どもたちの表現活動を指導する力を身に付けている。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション		テキスト全般を読んでおく(1時間)		
2週	発達障がいの子どもの造形表現の特長、実際の作品を参考に指導方法を考察		図書館等で発達障がいについて調べる(1時間)		
3週	発達障がいの子どもの造形表現の特長と指導方法を考察		授業で指示する内容について事前に調べる(1時間)		
4週	小麦粉粘土を制作(2才～3才)		小麦粉粘土の材料や性質について調べる(1時間)		
5週	紙粘土で立体を制作① (指人形の心棒を作る 3才～6才)		テーマを定め図鑑等をよく見ておく(1時間)		
6週	紙粘土で立体を制作② (心棒に肉付け 3才～6才)		教科書 p.77 を見て参考にし、理解を深めておく(1時間)		
7週	紙粘土で立体を制作③ (形成作業に入る 3才～6才)		授業で指示した内容について事前に調べる(1時間)		
8週	粘土作品に着色 (衣服を作り、仕上げる 3才～6才)		仕上げに使用する材料を考えておく(1時間)		
9週	切り紙や動く折り紙を制作(5才～6才)		教科書 p.98 を読み理解しておく(1時間)		
10週	色彩の基礎知識		教科書 pp.112～113 を読み理解しておく(1時間)		
11週	各自好みの色を選んで平面構成を検討		授業で指示する内容について事前に調べる(1時間)		
12週	色彩学の知識を応用しブンブンゴマを制作		授業で学んだ事とふり返り考察する(1時間)		
13週	立体構成①(各自制作の内容を決定する)		教科書 p.83 を見て理解しておく(1時間)		
14週	立体構成②(作品制作に入る)		教科書 p.85 を見て理解しておく(1時間)		
15週	立体構成③(作品を仕上げる)		教科書 p.86 を見て理解しておく(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(実技)50%、技能30%、受講態度20% 保育の方法と技能：色彩学の基礎知識及び平面構成や立体構成の技能を身に付け、美に対する感性を深められているか、定期試験(実技)と技能によって評価する 保育の対象への理解：幼児期における子どもたちの造形表現と特長について理解できているか、受講態度によって評価する。 実践力と協働性：幼児期の子どもたちの表現活動を指導する力を身に付けられているか、定期試験(実技)と技能及び受講態度によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 子どもの造形表現研究会 『楽しい造形表現』 圭文社 ISBN 978-4-87446-086-3					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 楽しんで作品を制作する心は子どもに通じるもの。意欲的に制作に挑んで欲しい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子ども文化研究 (M213)	1	選択	1年 後期	演習	唐沢 流美子
【キーワード】 日本のわらべうた遊び 保育現場で役立つ音楽表現力 (歌唱・器楽) 自発共同の力					
【授業内容・授業の目的】 乳幼児期での豊かな音楽文化との出会いは、その人間形成にとって重要な役割を持つ。保育者は自分自身の表現力や指導力を高め、感性を磨いて幼児と接することが大切になる。この力を身に付けるために音楽演習を通して学ぶ。 ・歌唱、器楽の基礎技能を、実技実践を通して身につけたい。 ・日本のわらべうたあそびに接し、実際に体験しながら、こども文化の大切さを体感し理解していきたい。 ・グループワークを通して、自ら創り出すことや共に表現することの大切さを学びたい。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 保育の方法と技能：伝統的なわらべうたあそびの修得や、「歌唱」「即興伴奏」などの基礎的な音楽表現力を高め、現場で活かす力をつけることができる。実践力と協働性：自ら課題を追求し、グループ表現活動をとおして他と協力して創造的表現活動ができる。 保育の対象への理解：伝統的な子どもの音楽遊びやその特徴、また保育音楽の重要性を理解している。					
授業計画 (グループ活動は常に入る)			準備学習等		
1週	本授業のガイダンス、目標等について 歌唱表現：発声・歌唱法について継続し技術を習得していく			ガイダンスを参考に、本授業の内容について復習する (1時間)	
2週	歌唱の基礎① (呼吸と発声について)			呼吸法と発声法の復習 (1時間)	
3週	歌唱の基礎② (聴く力と合わせる力について)			歌い、聴くことの復習 (1時間)	
4週	歌唱の基礎③ (正しいリズムと音程)			メロディーをつかむ練習 (1時間)	
5週	わらべうた遊び、歌唱表現① (音量と響き、合唱)			習ったわらべうた遊びの復習 (1時間)	
6週	わらべうた遊び、歌唱表現② (共鳴、グループ合唱活動)			わらべうた遊びと共鳴の復習 (1時間)	
7週	わらべうた遊び、歌唱表現③ (アンサンブル合唱活動)			わらべうた遊びと歌パート練習 (1時間)	
8週	わらべうた遊び、簡易伴奏法① (コードと鍵盤奏)			コードと鍵盤の関係確認 (1時間)	
9週	わらべうた遊び、簡易伴奏法② (様々なコードと鍵盤奏)			様々なコード確認 (1時間)	
10週	わらべうた遊び、簡易伴奏法③ (コードと和声と鍵盤奏)			楽曲を使用した練習 (1時間)	
11週	わらべうた遊び、簡易伴奏法④ (楽曲を使用した鍵盤奏)			違った楽曲を使用した練習 (1時間)	
12週	わらべうた遊び、簡易伴奏法④ (楽曲と応用鍵盤奏と発表)			任意の楽曲を使用した練習 (1時間)	
13週	わらべうた遊びの応用① (グループ創作での工夫)、合唱表現			遊びの練習計画を立てる (1時間)	
14週	わらべうた遊びの応用② (グループ創作発表)、合唱表現の工夫			遊びの発表準備、練習をする (1時間)	
15週	合唱奏表現と発表 授業の反省、まとめ、自己評価			本授業での感想をまとめてくる (1時間)	
【成績評価の方法・基準】 歌唱器楽表現力 50%、自発共同力 30%、受講態度 20% 保育の方法と技能：伝統的なわらべうたあそびの修得や、「歌唱」「即興伴奏」などの基礎的な音楽表現力を高め、現場で活かす力をつけることができるか、受講中の活動内容により評価する。 実践力と協働性：自ら課題を追求し、グループ表現活動をとおして他と協力して創造的表現活動ができるか、実際の表現活動や、実技演習、受講態度により評価する。 保育の対象への理解：伝統的な子どもの音楽遊びやその特徴、また保育音楽の重要性について理解しているか、筆記による提出物により評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 ・提出されたレポート等は点検後、また遅くとも前期、後期の最後の授業には返還する。					
【テキスト】 唐沢史比古『音楽育への総合的アプローチ』～豊かな音楽教育のための実践書～ 『こどもの歌』 圭文社 (田中常夫監修・ISBN 978-4-87446-076-4)					
【参考書等】 『たのしいうた』(信教出版) J ASRAC 1814388-801					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 鍵盤楽器や歌唱の基礎技能を習得し、よりよい保育指導法を学ぶため、授業における演習・活動での体感・体得を大切にします。 ・授業への出席を大切にし、自分からすすんで活動に参加するようにしてください。 ・基本的に、身体活動しやすい服装、履物を着用してください。 ・歌い弾く、動くといった実技が中心となるため、飲食は必要時以外禁止とします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
自然体験活動 (M111)	1	選択	1年 前期 (集中授業)	演習	森本 健一
【キーワード】 シェアリングネイチャー (自然を楽しむ、遊ぶ、学ぶ)、センス・オブ・ワンダー (五感、感受性の醸成)					
【授業内容・授業の目的】 さまざまな自然環境での体験や遊びは子どもたちの観察力や創造力を高め、豊かな心情や自ら考え、やりとげる力を育てる。ネイチャーゲームの基本理念と指導方法を学び、野外実習を通じ五感で自然を捉えることの意義を理解し、子どもたちが身のまわりの多様な自然を認識していくみちすじを、実践を通じて理解していく。 日本シェアリングネイチャーゲーム協会の協力のもとに、講義8時間、実習7時間(14プログラム)を3日間の集中授業で交互に行い、検定結果により資格認定を行うが、単位取得には他に、補講を後日、2コマの受講が必要である。					
【授業の到達目標(学習成果)】 ネイチャーゲームの基本理念と指導方法を学び、野外実習を通じ五感で自然を捉えることの意義を理解し、子供たちの豊かな感性(センスオブワンダー)を育成・発展させる自然案内人としての指導力を身につけることを目指す。 保育の方法と技能: 野外実習を通じ五感で自然を捉えることの意義を理解し、技能を習得している。 保育対象への理解: 子どもたちが身のまわりの多様な自然を認識していくみちすじを理解している。 実践力と協働性: 子どもたちの豊かな感性を育成・発展させる自然案内人としての指導力を身につけている。					
授業計画 (気象状況により変更する)			準備学習等		
1週	ネイチャーゲームの概要		ネイチャーゲーム概要を理解しておく(2時間)		
2週	ネイチャーゲームリーダーとは		授業計画に沿って内容の展開を理解する(2時間)		
3週	ネイチャーゲームの実践法		ハンドブックを熟読し、展開を把握する(2時間)		
4週	実習: 1. はじめまして 2. 私は誰でしょう 3. ノーズ		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
5週	実習: 4. 動物当てゲーム 5. カモフラージュ 6. フィールドピンゴ		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
6週	安全対策・自然への配慮		ハンドブックを読み、授業内容を理解する(1時間)		
7週	ネイチャーゲーム指導員制度		ハンドブックを読み、授業内容を理解する(1時間)		
8週	実習: 1. コウモリとガ		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
9週	実習: 2. 音いくつ 3. 木の鼓動 4. サウンドマップ		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
10週	実習: 1. 自然大好き、大事探し 2. カメラゲーム		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
11週	実習: 3. 目隠し歩き		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
12週	実習: 4. フォールドポエム		実習内容をアクティビティ報告書にまとめる(2時間)		
13週	自然体験活動の理念		ハンドブックを読み、授業内容を理解する(2時間)		
14週	補講: 子どもと自然、環境教育の理念		R・カーソン『センス・オブ・ワンダー』他を読む(2時間)		
15週	補講: 全体のふりかえりとまとめ		自然案内人の役割、感性教育を理解する(3時間)		
【成績評価の方法・基準】 1. 講義8時間、実習7時間(14プログラム)12時間、検定(筆記試験)によりネイチャーゲームリーダーの資格を認定する。2. 単位認定評価は資格認定講習および補講を受講し、アクティビティ報告書(集中授業3日分)(30%)、単位認定まとめレポート(50%)、実践活動報告書・補講レポート(20%)によって定める。 保育の方法と技能: 野外実習を通じ五感で自然を捉えることの意義を理解し技能を習得したか、報告書で評価する。 保育対象への理解: 子どもたちが身のまわりの多様な自然を認識していくみちすじを理解できたか、まとめレポートで評価する。 実践力と協働性: 子供たちの豊かな感性を育成・発展させる自然案内人としての指導力を磨くことができたか、まとめレポートで評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。 詳細は各学期、掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【参考書等】 幼稚園教育要領、保育所保育指針 日置光久『子どもと自然とネイチャーゲーム』日本ネイチャーゲーム協会 ISBN 9784906937011 R・カーソン『センス・オブ・ワンダー』新潮社 (ISBN:4105197029);『サイレント・スプリング(沈黙の春)』新潮社 (ISBN:4102074015)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ネイチャーゲームリーダーの資格は認定後、登録が必要(資格継続は会員登録後、会費が必要)。単位の認定は、補講参加および履修レポート提出が必要である。評価は授業外でのリーダーとしての実践活動を行わない場合、低評価となる。実践を大に行い、経験を重ねて実力をつけてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子どもの保健 (U107)	2	選択 (保育士必修)	1年 前期	講義	五味 なおみ
【キーワード】子どもの健康課題、子どもの発育と発達、罹りやすい疾患					
【授業内容・授業の目的】子どもの健康保持・増進を図るための基礎知識として、子どもの発育・発達や子どもが罹りやすい疾病の予防や適切な対応を習得する。また、子どもを取り巻く様々な人(家族や地域の方々等)や関係機関(専門職等)との関わりから子どもの保健活動を学ぶ。講義等を通して知識や保健活動を習得する。					
【授業の到達目標(学習成果)】 保育の対象への理解：子どもの健康増進を図る保健活動の意義と子どもの心や身体の発育・発達と疾病を理解する。 保育の本質：子どもを健康面からの視点で理解する事により、子どもを一人の人として尊重できるようにする。 保育の方法と技能：基本となる子どもの健康や疾患の知識を生かして、保育における健康課題を見つけ、解決する方法を考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	健康の概念と保健活動の意義と目的	「人間の体の仕組みや構造」を今までに学んだ「生物」「保健体育」を通して復習しておく。(4時間)			
2週	健康指標、子どもの保健に関する現状と課題	テキスト「健康の概念と健康指標」を読むこと。(4時間)			
3週	子どもの身体発育と評価、骨や筋肉の構造	「子どもの発育・発達」を読むこと。(4時間)			
4週	運動発達・神経、呼吸機能、循環機能	「運動機能の発達・呼吸機能・神経機能」を読む事。(4時間)			
5週	免疫機能、消化機能・尿排泄機能	「免疫・消化器・尿排泄機能」を読むこと。(4時間)			
6週	水分代謝、体温調節、内分泌機能、	「体温調節、内分泌」を読むこと。(4時間)			
7週	感覚機能、睡眠覚醒リズム、歯と口腔	「感覚機能、睡眠覚醒リズム、歯と口腔」を読むこと。(4時間)			
8週	基本的な生活習慣の形成、健康状態の観察、体調不調、健康診断	「発達に即した基本的な生活習慣の形成、子どもの心身の健康状態とその把握」を読むこと。(4時間)			
9週	感染症の特徴① 予防接種、保護者との連絡、連携	「感染症」を読むこと。(4時間)			
10週	感染症の特徴②	子どもが罹りやすい感染症を調べてくる。(4時間)			
11週	アレルギー性疾患、先天異常、消化器疾患	テキスト「アレルギー疾患、その他」を読むこと。(4時間)			
12週	呼吸器、循環器、血液疾患、悪性腫瘍	テキスト「呼吸器疾患、その他」を読むこと。(4時間)			
13週	神経疾患、腎、泌尿器、皮膚疾患、SIDS	テキスト「神経疾患、その他」を読むこと。(4時間)			
14週	眼疾患、耳鼻疾患、代謝内分泌疾患、その他	テキスト「眼、耳鼻疾患、その他」を読むこと。(4時間)			
15週	虐待・子どもの保健の課題	保育施設での健康課題を考えてくる。(4時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(筆記)70%、提出物(学修した事及び質問票)30% 保育の対象への理解：子どもの健康増進を図る保健活動の意義と子どもの心や身体の発育・発達と疾病を理解したか、定期試験・提出物で評価する。 保育の本質：子どもを健康面からの視点で理解する事により、子どもを一人の人として尊重できるようにされたか、定期試験・提出物で評価する。 保育の方法と技能：基本となる子どもの健康や疾患の知識を生かして、保育における健康課題を見つけ、解決する方法を考えることができたか、定期試験・提出物で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】『子どもの保健』ななみ書房 ISBN 978-4-903355-80-1					
【参考書等】配布する資料、内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-805-40258-0 『国民衛生の動向』厚生労働協会、『子どもの病気の地図帳』講談社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 正しく理解するためには、授業前に専門用語(身体の名前・疾患名)の意味を整理しておくことが基本です。不明な事は先延ばしせず、テキストや資料で早めに確認する事が大切です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子どもの健康と安全 (M214)	1	選択 (保育士必修)	1年 後期	演習	五味 なおみ
【キーワード】 保健的な保育環境、事故防止、保健的対応、母子保健制度、組織的な取り組みと連携					
【授業内容・授業の目的】 子どもが健やかに成長するための基本的な①衛生管理や保育環境、②小児疾患の適切な対応や予防策、③体調不良等への対応、④遭遇しやすい事故への安全対策・危機管理、⑤組織的な取り組み・保健計画を学ぶ。 講義・グループワーク・演習を通して知識や技能を習得する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：子どもの発達や健康状態に沿った保健的な対応を身につける。 保育の対象への理解：子どもを取り巻く保健的環境について理解する。 保育の本質：子どもの健康や安全を守る保健活動を理解する。					
授業計画			準備学習等		
1週	子どもの健康と安全の課題（環境・保健活動）		「子どもの保健」を復習しておく。（1時間）		
2週	個別対応と集団全体の安全管理		「個別対応と集団の健康・安全管理」を読む事。（1時間）		
3週	衛生管理、安全対策		「保育における健康及び安全の管理」を読むこと。（1時間）		
4週	事故防止、危機管理・災害への備え		「事故防止及び安全対策・危機管理」を読むこと。（1時間）		
5週	体調不良や傷害時の適切な対応①		「子どもの体調不良に対する適切な対応」を読む事。（1時間）		
6週	体調不良や傷害時の適切な対応② 応急処置		「子どもに起きやすい事故の応急処置」を読むこと。（1時間）		
7週	体調不良や傷害時の応急処置や救急処置		「救急処置及び蘇生法」を読むこと。（1時間）		
8週	感染症の集団発生の予防、罹患後の対応		「感染症対策」を読むこと。（1時間）		
9週	保健的対応の基本と3歳未満児への対応		「保育における保健的対応」を読むこと。（1時間）		
10週	基本となる保健的対応の手法		「保育における保健的対応」を復習する。（1時間）		
11週	個別的配慮を要する子ども、医療的ケアのある子ども		「個別な配慮を必要とする子どもへの対応」を読むこと。（1時間）		
12週	個別的配慮を要する子ども、障害のある子ども		「個別な配慮を必要とする子どもへの対応」を読むこと。（1時間）		
13週	職員間の連携・協働と自治体・家庭・専門機関との連携や協働		「健康及び安全の管理の実施体制」を読むこと。子育てに関わる人や機関とその役割を考えておく。（1時間）		
14週	保健活動の計画・評価		「保育における保健活動の計画及び評価」を読むこと。（1時間）		
15週	母子・地域保健における各種制度やサービスと連携		各種の母子保健制度・サービスと子育ての関係や役割を考えておく（1時間）。		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）60%、提出物（学修した事及び質問票）20%、受講態度（グループワーク・模擬演習）20% 保育の方法と技能：子どもの発達や健康状態に沿った保健的な対応を身につけたか、提出物・受講態度で評価する。 保育の対象への理解：子どもを取り巻く保健的環境について理解したか、定期試験・提出物・受講態度で評価する。 保育の本質：子どもの健康や安全を守る保健活動を理解したか、定期試験・提出物で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】『子どもの健康と安全』 ななみ書房 ISBN 978-4-903355-81-8					
【参考書等】 配布する資料、『子どもの保健』 ななみ書房、『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における感染症対策ガイドライン』、『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』内閣府・文部科学省・厚生労働省					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】『子どもの保健』を復習しておくこと。 より深く学習するためには、グループでの協働活動や個人での学習が大切です。能動的に取り組みましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子どもの食と栄養 (U304)	2	選択 (保育士必修)	2年 通年	演習	石原 三妃
【キーワード】子どもの健康、食生活、栄養、食育、調理					
【授業内容・授業の目的】子どもの心身の成長に重要な役割を果たしている栄養について、基本的な知識を修得し、更に各発達段階に応じた栄養、摂取方法を学びます。課題について調理実習を伴うワークを行います。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：子どもの食と栄養の基本理論と問題点について正しく理解することができる。 保育の方法と技能：子どもの食にかかわる調理を含む食育の方法を身につけている。 実践力と協調性：知識を活かして子どもの食の課題を解決する方法を考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション	教科書第1章を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
2週	子どもの健康と食生活の意義	教科書第1章を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
3週	栄養の基礎知識①(三大栄養素)	教科書第3章35-48頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
4週	栄養の基礎知識②(ビタミン・ミネラル)	教科書第3章57-61頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
5週	食事摂取基準とその活用(演習)	教科書第3章62-71頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
6週	献立作成と調理の基本①(献立作成の基本)	教科書第3章49-56頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
7週	献立作成と調理の基本②(調理の基礎)	非妊娠時の食事献立内容を理解してくる。(2時間)			
8週	献立作成と調理の基本③(非妊娠時の食事)	非妊娠時の食事の栄養価を計算考察する。(2時間)			
9週	妊娠期の食生活	教科書第4章72-88頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
10週	乳児期の心身の特徴と食生活	教科書第5章89-102頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
11週	調乳実習	調乳の方法を理解してくる。(2時間)			
12週	離乳の意義とその実践①(離乳の意義)	教科書第5章107-127頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
13週	離乳の意義とその実践②(離乳食の調理法)	離乳期の献立について理解してくる。(2時間)			
14週	離乳の意義とその実践③(離乳食の調理実習)	離乳期の献立の栄養価計算と考察をまとめること。(2時間)			
15週	幼児期の心身の発達と食生活①(幼児期の食生活)	教科書第6章130-155頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
16週	幼児期の心身の発達と食生活②(幼児食の特徴)	幼児期の献立について理解してくる。(2時間)			
17週	幼児期の心身の発達と食生活③(幼児食の調理実習)	幼児期の献立の栄養価計算と考察をまとめること。(2時間)			
18週	食品の衛生	食中毒のニュースを新聞等で調べてくる。(2時間)			
19週	食事バランスガイド(演習)	1週間の自分の食事を分類、記録してくる。(2時間)			
20週	学童期の心身の発達と食生活①(学童期の食生活)	教科書第7章156-171頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
21週	学童期の心身の発達と食生活②(学校による食育)	学童期の献立について理解してくる。(2時間)			
22週	学童期の心身の発達と食生活③(学童期・調理実習)	学童期の献立の栄養価計算、考察する。(2時間)			
23週	生涯発達	教科書第8章172-176頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
24週	食育の基本と内容	教科書第9章177-210頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
25週	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書第10章211-242頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
26週	疾病のある子どもへの対応	教科書第11章243-255頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
27週	食物アレルギー	教科書第12章256-263頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
28週	障害がある小児の食生活	教科書第13章264-276頁を読み、わからない言葉を調べてくる。(2時間)			
29週	嚥下困難食の調理①(嚥下困難食の特徴)	嚥下困難食の献立について理解してくる。(2時間)			
30週	嚥下困難食の調理②(嚥下困難食の調理実習)	嚥下困難食の献立の栄養価計算と考察をまとめること。(2時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(筆記)70%、小テスト30% 保育の対象への理解：子どもの食と栄養の基本理論と問題点について正しく理解しているか、小テストと定期試験より評価する。 保育の方法と技能：子どもの食にかかわる調理を含む食育の方法を身につけているか、小テストと定期試験より評価する。 実践力と協調性：知識を活かして子どもの食の課題を解決する方法を考えたことができ、小テストと定期試験より評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日(金) 後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】堤ちはる、土井正子編著『子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養』萌文書林 ISBN 978-4-89347-154-3					
【参考書等】『日本食品成分表 2022 八訂』医歯薬出版					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 調理実習等グループワークを含みます。積極的に課題に取り組んでください。単元ごとに小テストを行います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
障害児保育Ⅰ (U205)	1	必修	1年 前期	演習	赤間 公子
【キーワード】 障害特性の理解、個別支援、連携					
【授業内容・授業の目的】 「障害」 児保育の歴史の変遷と現状を知る。様々な障害の特性とその援助方法について学ぶ。また、保護者支援や関連機関との連携の重要性を学び、保育実践に活かすことを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：様々な障害について理解し、その支援について考える。子どもを取り巻く環境に関する確かな知識を身に付ける。 保育の本質：保育者及び支援者として適切な使命感および倫理観を持ち、他者と共感的にかかわることができる。 保育の方法と技能：社会的問題として障害児保育を理解し、支援方法を工夫し、実践に結び付けることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	「障害」 児保育の歴史の変遷について		インクルージョンについて調べる（1時間）		
2週	インクルージョンについて		健常発達について確認する（1時間）		
3週	障害児保育の基本 人権と保育の使命		関連する法律について調べておく（1時間）		
4週	知的障害児の理解とその発達援助		知能とは何か考える（1時間）		
5週	知能とは何か		視覚障害の行動特性についてまとめておく（1時間）		
6週	視覚障害児の理解と発達援助		聴覚障害の行動特性についてまとめておく（1時間）		
7週	聴覚障害児の理解と発達援助		肢体不自由児の行動特性についてまとめておく（1時間）		
8週	肢体不自由児の理解と発達援助		言語障害児の行動特性についてまとめておく（1時間）		
9週	言語障害児の理解と発達援助		発達障害児（PDD）の行動特性についてまとめておく（1時間）		
10週	発達障害（PDD）の理解とその発達援助		発達障害児（ADHD）の行動特性についてまとめておく（1時間）		
11週	発達障害（ADHD）の理解とその発達援助		発達障害児（LD）の行動特性についてまとめておく（1時間）		
12週	発達障害（LD）の理解とその発達援助		重症心身障害児の重症度の分類の視点について調べておく（1時間）		
13週	重症心身障害児・医療的ケアを必要とするこどもの理解と発達援助		指導計画について資料を読んでおく（1時間）		
14週	保育の実際と指導計画		指導計画を立てる（1時間）		
15週	家庭及び関連機関との連携		授業全体を振り返り、課題に取り組む（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、提出物 40%、受講態度 10% 保育の対象への理解：様々な障害について理解しその発達援助について考えることができたか、定期試験によって評価する。子どもを取り巻く環境に関する知識については、定期試験によって評価する。 保育の本質：提出物・受講態度によって評価する。 保育の方法と技能：障害児保育の具体的な支援方法を考え、工夫し、それについて発表する課題によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 小林徹 栗山宜夫 編 『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』 株式会社みらい ISBN 978-4-86015-389-2					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 障害のある幼児にとって、どのような発達援助が必要か考えましょう。また家庭との連携についても共感的な視点をもって、自分の身に置き換えて、考えてみてください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
障害児保育Ⅱ (M314)	1	必修	2年 前期	演習	豊永 誠(※)

【キーワード】

障害の概念、子どもの権利、障害観、障害特性の理解、保護者支援、医療的ケア

【授業内容・授業の目的】

乳幼児期の障害児保育の大切さと障害特性に配慮した個別支援のあり方を学ぶ授業とする。専門的援助の基礎知識と実践のあり方、保護者への援助の基本姿勢を学ぶ。映像教材と事例検討 (GW)、考察レポート等を通してより具体的な実践力を身に着ける授業とする。

【授業の到達目標 (学習成果)】

保育の本質：障害児保育の理念を理解し発達期の障害児保育の重要性を理解できる。
 保育対象への理解：子どもの人格を尊重し障害特性や個別の課題を理解し援助の専門知識を理解できる。
 保育の方法と技能：障害児の個性、能力、環境を配慮し意欲と生活力を育む保育のあり方を理解できる。

授業計画		準備学習等
1週	障害児保育Ⅱの学びで大切にしたいこと	テキスト P21 ~ 28 の事前学習 (1 時間)
2週	障害児保育Ⅰの学びを生かす (要点の振り返り)	障害児保育Ⅰの振り返り学習 (1 時間)
3週	気になる子どもの理解と支援	気になる子どもとは何か調べておく (1 時間)
4週	戦後の障害児保育のあゆみと現状	テキスト P49 ~ 56 の事前学習 (1 時間)
5週	インクルーシブ保育とは何か (DVD 視聴)	映像教材から学んだ内容をまとめる (1 時間)
6週	インクルーシブ保育の保育実践 (事例考察) (GW)	「事例内容」の事前学習 (1 時間)
7週	虐待を受けた子どもの理解と支援	「虐待による影響」について調べる (1 時間)
8週	障害児の基本的な生活習慣獲得の意味と意義	テキスト P189 ~ 196 の事前学習 (1 時間)
9週	基本的な生活習慣獲得に向けての援助 (DVD 視聴) GW	子どもへの援助のあり方を考える (1 時間)
10週	事例研究 ADHD の子どもへの総合的な支援の実践	配布資料の事例概要の事前学習 (1 時間)
11週	事例研究 ADHD の子ども支援と園のケース会議	事例概要と演習課題のレポート作成 (1 時間)
12週	障害児を支える地域の保健・医療と福祉の施策	乳幼児健診について調べておく (1 時間)
13週	障害のある子どもの保護者の理解・障害受容のプロセス	障害受容のプロセスを調べる (1 時間)
14週	障害のある子どもの保護者の支援目的と留意点	保護者支援の留意点をまとめる (1 時間)
15週	医療的ケアを必要とする子どもと保育	「医療的ケア」について調べておく (1 時間)

【成績評価の方法・基準】 定期試験 (レポート) 70% 提出物 30% の総合評価とする。保育の本質：障害児保育の理念と意義、保育者の役割の理解と基礎知識を試験と提出物で評価する。

保育の対象への理解：子どもの障害特性を理解した援助の基礎知識と悩みを抱える保護者への具体的な援助の理解について試験と提出物で評価する。

保育の方法と技能：障害児への個別援助の技術、保育の環境設定など保育士としての基礎知識と基本的態度について試験と提出物で評価する。

【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。

【テキスト】 野田敦史・林恵『演習・保育と障害のある子ども』 ISBN 978-86015-415-8

【参考書等】 田中康雄『わかってほしい気になる子』学習研究社

榎原洋一『図解よくわかる発達障害のこどもたち』ナツメ社

酒井幸子・中野恵子『発達障害の子どもたちと保護者をサポートする本』ナツメ社

【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育の原点を障害児保育で学びます。障害児保育は専門的知識と実際に支援できる援助技術、そして保育士の倫理、人間性の豊かさが求められます。障害児保育を担う保育士をめざして積極的に授業に参加してください。

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子ども家庭支援論 (E301)	2	選択 (保育士必修)	2年 前期	講義	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 現代社会、地域連携、専門性、基本的態度					
【授業内容・授業の目的】 子どもにとってかけがえのない家族を支援するため、保育士は理論を学び、その方法を身に付けることが求められる。多様化する家族の姿とその背景を知り、どのような支援が必要かを考える。新聞記事等を活用しながら、学びを深める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：保育士として望ましい使命感・倫理観及び共感的態度を身に付ける。 保育の対象への理解：子どもやその家族についての理解を深め、必要な支援を考えることができる。 論理的思考力：収集した情報等から知識を獲得し、さらに自身の考えを言語化することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	現代社会における家族・家庭	家族形態の変遷についてまとめておく（4時間）			
2週	親としての発達の実際	家族のライフサイクルを調べておく（4時間）			
3週	子ども家庭支援の意義と必要性	子ども家庭支援の必要性をまとめておく（4時間）			
4週	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の連携機能を調べておく（4時間）			
5週	保育所入所等児童と保護者の状況	自身が関わった保育所での子どもや保護者の様子をまとめておく（4時間）			
6週	保育の専門性を生かした子ども家庭支援	保育の専門性についてまとめておく（4時間）			
7週	保育士に求められる基本的態度	テキスト P56～P61 を読んで、保育士に必要な基本的態度をまとめておく（4時間）			
8週	地域における子育て家庭への支援	自分が住んでいる地域の子育て支援について調べておく（4時間）			
9週	特別な配慮を要する家族のストレス	家族が抱える様々なストレスを考えておく（4時間）			
10週	ひとり親家庭・外国籍家庭に対する支援	外国籍家庭の現状について調べておく（4時間）			
11週	障がいのある子どもとその家族への支援	障がい児の家族支援について調べておく（4時間）			
12週	要保護児童等及び家庭に対する支援	要保護児童について復習しておく（4時間）			
13週	子どもの育ちの喜びの共有～出生前診断から考える～	配布の新聞記事を読み、出生前診断についての自身の考えをまとめておく（4時間）			
14週	子育て家庭のワークライフバランス	ワークライフバランスの意味を調べておく（4時間）			
15週	子ども家庭支援の現状と課題	講義で学んだことをまとめ、今後の子ども家庭支援の課題をまとめておく（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、提出物 30%、受講態度 20% 保育の本質：保育士としての使命感・倫理観及び共感的態度を身に付けたか、定期試験と提出物で評価する。 保育の対象への理解：子どもやその家族の理解を深め、支援を考えることができたか、定期試験と提出物で評価する。 論理的思考力：収集した情報等から知識を獲得し、考えを言語化することができたか、定期試験と受講態度で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 橋本祐子・西本望編著『乳幼児教育・保育シリーズ 子ども家庭支援論』光生館 ISBN 978-4-332-70199-6					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子育て家庭に対して、保育士としてどのような支援ができるか、社会で起こっているさまざまな出来事を自身の問題・課題として関心を寄せてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会的養護Ⅰ (E201)	2	選択 (保育士必修)	1年 後期	講義	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 要保護児童、施設養護、家庭養護、子どもの最善の利益					
【授業内容・授業の目的】 子どもを取り巻く社会の現状を知り、社会的養護の意義と必要性を理解することで、子どもにとっての最善の利益とは何かについて考える。 ワーク等を通して、さまざまな意見や課題について考え、積極的に発表する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：主体者である子どもの利益を考え、保育者として望ましい使命感や倫理観を身に付ける。 保育の対象への理解：支援を要する子どもについて、その現状把握に努め、社会としての役割を理解する。 論理的思考力：社会の問題についての疑問や課題を考えた上で、自身の考えを他者に伝えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	社会的養護とは何か		「子ども家庭福祉」を復習しておく（4時間）		
2週	社会的養護の基本理念と原理		テキストP17～P22を読み、まとめておく（4時間）		
3週	社会的養護を利用する子どもの現状		現代社会での子どもの現状を調べておく（4時間）		
4週	社会的養護の歴史		テキストP29～P40を読み、まとめておく（4時間）		
5週	子どもの権利擁護		「子どもの権利条約」についてまとめておく（4時間）		
6週	家庭養護		家庭養護について調べておく（4時間）		
7週	里親制度		里親制度の現状を調べておく（4時間）		
8週	社会的養護に関わる法律等・社会的養護の障がい系施設		社会的養護に関わる法律を調べておく（4時間）		
9週	社会的養護の養護系施設・		社会的養護の養護系施設を調べておく（4時間）		
10週	「DVD 視聴（児童養護施設）」		児童養護施設について復習しておく（4時間）		
11週	社会的養護とソーシャルワーク		ソーシャルワークとは何かを調べておく（4時間）		
12週	社会的養護に関わる専門職、専門機関		社会的養護に関わる専門職を調べておく（4時間）		
13週	子どもにとっての良い職員像		子どもが求める職員像を考えておく（3時間）		
14週	“このとりのゆりかご”を考える		“このとりのゆりかご”について調べる（5時間）		
15週	まとめ		社会的養護の意義と必要性をまとめておく（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、提出物30%、受講態度20% 保育の本質：子どもの利益を考え保育者として望ましい使命感や倫理観を身に付けたか、定期試験・提出物で評価する。 保育の対象への理解：要保護児童の現状を把握し、社会の役割を理解できたか、小テスト・提出物で評価する。 論理的思考力：要保護児童が抱える問題や課題について、自身の考えを他者に伝えることができるか、定期試験・受講態度で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 喜多一憲監修『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ』みらい ISBN 978-4-86015-418-9					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 田尻由貴子『「赤ちゃんポスト」は、それでも必要です。』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08090-8					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもの最善の利益とは何か。現代社会の問題に目を向け、子どもが置かれている状況を把握した上で臨んでほしい					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会的養護Ⅱ (M215)	1	選択 (保育士必修)	1年 後期	演習	川瀬 勝敏 (※)
【キーワード】 人権、子ども、家族支援、里親支援、地域子育て支援					
【授業内容・授業の目的】 児童福祉分野における各施設の特徴、多くの課題を抱えた子ども・家族への理解と援助後術の習得を目指し、講義、VTRから「レポート作成」「意見発表」によるまとめ、振り返り。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業の目標はあらゆる子どもの最善の利益を考えた支援方法である。また、社会的養護のもとで暮らす子どもの発達の理解と良質な支援ができる保育士として能力の向上を目指している。 保育の方法と技能：子どもの背景や個々の特徴を理解した上で寄り添った支援を展開することができる。 実践力と協働性：準備学習から自分の考え、意見をまとめ、積極的に授業参加することができる。 論理的思考力：問題についてグループや、他機関との連携により解決策を見つけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション	児童福祉のニュースや話題集め（1時間）			
2週	児童福祉施設の歴史	教科書 PP.72～77 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
3週	児童福祉施設の現状	教科書 PP.22～44 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
4週	児童の発達保障と権利擁護	教科書 PP.45～56 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
5週	乳児院と母子生活支援施設の暮らし	教科書 PP.86～96 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
6週	児童自立支援施設と児童心理治療施設	教科書 PP.111～122 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
7週	虐待を受けた子どもの支援	教科書 PP.158～163 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
8週	子どもの問題行動への対応	教科書 PP.163～167 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
9週	親子関係構築の支援	教科書 PP.168～189 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
10週	相談援助技術の知識・技術の活用	教科書 PP.190～223 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
11週	里親制度の特徴とその実際	教科書 PP.131～138 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
12週	里親養育の特徴	教科書 PP.138～141 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
13週	施設の小規模化と地域連携	教科書 PP.226～247 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
14週	家庭支援と地域連携	教科書 PP.226～241 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
15週	支援者としての資質と倫理	教科書 PP.57～69 を読み質問等をまとめておく。（1時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、授業態度・演習課題 30%、小レポート 30% 保育の方法と技能：子どもの発達に応じた支援技術を習得し、常に寄り添う支援を考えることができるか、定期試験、授業態度・演習課題、小レポートで評価する。 実践力と協働性：グループワーク、アンケートなど積極的に自ら考え行動することができるか、定期試験、授業態度・演習課題、小レポートで評価する。 論理的思考力：各授業テーマにおける課題や背景について考える基本姿勢を身につけているか、定期試験、授業態度・演習課題、小レポートで評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 吉田真理・高橋一弘・村田紋子『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』萌文書林 ISBN 978-4-89347-325-7					
【参考書等】 演習課題ごとに資料配布					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもと家族が抱える問題を掘り下げ適切な支援に結びつけていくには、地域の子育て環境を理解したうえで、問題調整と問題解決を目指すことが大きなポイントになります。現場での実践から皆さんと一緒に考えていきます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
手話 (M315)	1	選択	2年 前期	演習	武居 みさ
<p>【キーワード】 コミュニケーション能力、全身表現、表情、手話、指文字、聴覚障害者、異文化理解、難聴者</p> <p>【授業内容・授業目的】 視覚言語としての手話を学びます。手話の基礎である日常会話を中心に演習をします。さらに言語の背景であるろう文化を知り、聴覚障害の基礎知識について、講義、DVD、実際のろう者のお話を聞くなどして理解を深めていきます。</p> <p>【授業の到達目標（学習成果）】 <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害について理解することができる。 ・指文字を習得し、手話で自己紹介ができる。 保育の対象への理解：音が聞こえない聞こえにくい世界で生きていく、ということへの理解を通して障害に関する理解を深めることができる。 保育の方法と技能：社会人として必要とされる豊かなコミュニケーション能力を獲得することができる。 実践力と協働性：社会の諸問題に関心を持ち、状況を把握しながら、仲間とともに解決策を模索することができる。</p>					
授業計画			準備学習等		
1週	手話を学ぶにあたって：挨拶・色の表現	手話を扱ったテレビ、本等、調べておく（1時間）			
2週	聞こえないということ：数・名前	挨拶・色の復習をしておく（1時間）			
3週	聞こえのしくみ；年齢・電話・体重・身長・いくら？	教科書を読み、数の復習をしておく（1時間）			
4週	聴覚障害の原因：指文字	数に関する表現の復習をしておく（1時間）			
5週	手話とは：家族・人物	指文字のトレーニングをしておく（2時間）			
6週	読話・口話：スポーツ・趣味	指文字で家族の名前を練習しておく（1時間）			
7週	筆談・コミュニケーションのまとめ：住所・出身地	家族や兄弟の表現を復習しておく（1時間）			
8週	情報保障について：誕生日・県名	趣味やスポーツの表現を復習しておく（1時間）			
9週	ろう教育の現状：仕事・将来の夢	日にちの表し方を復習しておく（1時間）			
10週	高齢ろう者の支援：時間・一日の生活	仕事の表現を復習しておく（1時間）			
11週	難聴者の生活と心理	時間の表し方の復習をしておく（1時間）			
12週	ろう重複障害について：スピーチ原稿作成	自己紹介ができるように復習しておく（1時間）			
13週	ろう者の生活と心理	指文字が読み取れるように復習しておく（1時間）			
14週	手話の資格制度：スピーチ練習	教科書によく目を通し、レポートを作成する。（1時間）			
15週	まとめ	自己紹介の練習及びレポートの作成（1時間）			
<p>【成績評価の方法・基準】・実技テスト（60%）・レポート（40%）を総合して評価します。 ・授業での小テスト、関心・意欲・態度など、積極的な他者とのコミュニケーションも評価対象です。 保育の対象への理解：聴覚障害への理解についてはレポートによって評価する。 保育の方法と技能：コミュニケーション能力については主に実技テストで評価する。 実践力と協働性：課題解決のための様々な人々との協調・協働についてはレポート及び実技テストで評価する。</p>					
<p>【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。</p>					
<p>【テキスト】 武居みさ 著 『手話のワークブック』 自主作成テキスト</p>					
<p>【参考書等】 『わたしたちの手話学習辞典』 全日本ろうあ連盟出版局 河崎 佳子 『きこえない子の心・ことば・家族』 明石出版 木村春美・市田泰弘著 『初めての手話』 日本文芸社</p>					
<p>【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・音声日本語を頭から追い出し、手話をまるごと受け止めるようにしましょう。 ・手話の実技は、積み重ねの学習です。できるだけ遅刻・欠席しないよう努力しましょう。</p>					

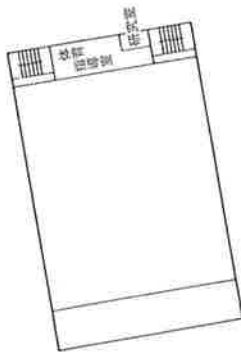
授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子ども家庭福祉 (E104)	2	選択 (保育士必修)	1年 前期	講義	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 子どもの最善の利益、虐待、貧困、障がい児、地域連携					
【授業内容・授業の目的】 現代社会では子どもを取り巻く様々な問題や課題がある。それらを通して、子どもの最善の利益とは何かを考える。 新聞記事等を活用しながら個々の問題を掘り下げる。 ワーク等で考える力・伝える力・聴く力を身に付ける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：社会のさまざまな問題に目を向け、保育者として望ましい感性を身に付ける。 保育の対象者への理解：子どもを取り巻く諸問題について、その要因や課題を理解する。 論理的思考力：子どもの現状を理解する上で必要な情報を収集し、論理的に思考し言語化できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	子どもと家庭を取り巻く現状		子どもや家庭を取り巻く問題を考えておく（4時間）		
2週	子どもの権利		子どもの権利について調べておく（4時間）		
3週	子ども家庭福祉の歴史		子どもの福祉に登場する人物を調べておく（4時間）		
4週	子ども家庭福祉の制度と法体系		子どもに関する法律や制度を調べておく（4時間）		
5週	子ども家庭福祉行財政と実施機関		子どもを守る施設や機関を調べておく（4時間）		
6週	子どもの健全育成・小テスト		1週から5週の復習をしておく（4時間）		
7週	子育て支援サービス		自分の居住地の子育てサービスを調べておく（4時間）		
8週	母子保健サービス・待機児童問題		待機児童問題を調べ、考えをまとめておく（4時間）		
9週	子ども虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）		配布資料を読み、自身の考えをまとめておく（4時間）		
10週	社会的養護		社会的養護の体系について調べておく（4時間）		
11週	ひとり親家庭への福祉		ひとり親家庭の現状から問題点を考えておく（4時間）		
12週	障がいのある子どもの福祉		障がいがあるとはどういうことか考えておく（4時間）		
13週	ヤングケアラー・少年非行問題		子どもがなぜ非行に走るのか、原因を考えておく（4時間）		
14週	子ども家庭福祉の専門職と連携		子どもやその家族の幸せのためにどのような連携が必要か考えておく（4時間）		
15週	まとめ		授業で学んだことをまとめておく（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、受講態度20%、提出物20%、小テスト10% 保育の本質：社会の問題に目を向け、保育者として望ましい感性が身に付いたか、受講態度、提出物で評価する。 保育の対象者への理解：子どもを取り巻く諸問題・要因・課題を理解したか、定期試験、小テストで評価する。 論理的思考力：子どもを理解するための情報を自分なりに整理し論理的に言語化できるか、定期試験、提出物で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 喜多一憲監修 『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉』 みらい ISBN 978-4-86015-4998					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子どもを取り巻く現状を知るため、書籍や新聞等に興味を持ってほしい。その上で保育の専門家としての捉え方や基本的理念を確認しながら、自身の問題として考えてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子育て支援 (M405)	1	選択 (保育士必修)	2年 後期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 相互理解、信頼関係、支援計画、社会資源、連携					
【授業内容・授業の目的】 保育士の行う子育て支援について、様々な場面に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。 事例を題材に、ワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを取り入れる。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の方法と技能：対象者一人ひとりにより沿った方法を理解し技能を身に付ける。 実践力と協働性：自らの知識や技能を実践の場で駆使し解決策を模索することができる。 保育の対象への理解：子どもやその家族の思いを理解し共感的態度をとることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	子どもの保育とともに行う保護者の支援		保護者が抱える問題をまとめておく（1時間）		
2週	保護者との相互理解と信頼関係の形成		信頼関係とは何かまとめておく（1時間）		
3週	保護者や家庭への支援に関する気づきや理解		子育て支援の現状をまとめておく（1時間）		
4週	子どもおよび保護者の状況把握		子どもや保護者の現状をまとめておく（1時間）		
5週	子育て支援とは？		子育て支援について考えておく（1時間）		
6週	地域での子育て支援を考える		地域の子育て家庭に何が必要か考える（1時間）		
7週	子育て支援計画の評価		プレゼンで伝えたいことをまとめておく（1時間）		
8週	保育所等における支援		保育現場での子育て支援をまとめておく（1時間）		
9週	地域の子育て家庭に対する支援		地域で必要な子育て支援をまとめておく（1時間）		
10週	障がいのある子どもとその家族に対する支援		障がい児家族への支援をまとめておく（1時間）		
11週	特別な配慮を要する子どもとその家族に対する支援		特別な配慮を要する子どもについてまとめておく（1時間）		
12週	子ども虐待の予防と対策		子ども虐待の現状をまとめておく（1時間）		
13週	要保護児童等の家庭に対する支援		要保護児童とは何かをまとめておく（1時間）		
14週	多様な支援ニーズと子育て家族の理解		さまざまな支援ニーズをまとめておく（1時間）		
15週	社会資源の活用と連携・協働と子育て支援の今後		子育て支援をまとめ、課題を考えておく（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、受講態度30%、提出物20% 保育の方法と技能：対象者により沿う方法を理解し技能を身に付けたか、定期試験と受講態度で評価する 実践力と協働性：自らの知識や技能を実践で駆使し解決策を模索することができるか、受講態度で評価する。 保育の対象への理解：対象者の思いを理解、共感的態度をとることができるか、定期試験と提出物で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 児童育成協会監修 『新基本保育シリーズ 子育て支援』 中央法規 ISBN 978-4-8058-5799-1					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-89347-227-4 大方美香・齋藤崇編著 『子育て支援～より豊かに育つ支援をめざして』 光生館 ISBN 978-4-332-70200-9					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子育て支援には何がどのように必要か、さまざまな事例に関心を寄せ、積極的にワークに参加することを望みます。					

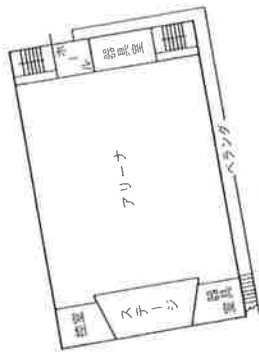
授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会福祉 (E202)	2	選択 (保育士必修)	1年 後期	講義	豊永 誠(※)
【キーワード】 少子高齢社会、生存権保障、貧困、児童虐待、家族の孤立、高齢者介護					
【授業内容・授業の目的】 現代日本は人口減少、少子化・超高齢社会、貧困と児童虐待、高齢者の介護問題など深刻な問題に直面している。子どもと家族の生活と権利を守る社会福祉の制度と現状、課題、保育士の社会的役割について学ぶ。新聞記事を活用し、現実の生活問題への理解を深める。考察レポートを通して考える力、書く力を養う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の本質：子どもと家族の生活を支える社会福祉の理念と制度、保育士の専門性と社会的役割が理解できる。保育の対象への理解：子どもの育つ家庭の貧困、児童虐待等の現状と課題、社会的背景を理解できる。 論理的思考力：現代の貧困、虐待、家族の孤立等の社会問題の理解と保育士の援助のあり方を理解できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	「福祉とは何か・福祉の仕事とは何か？」		福祉とは何か自分なりのイメージをまとめる（4時間）		
2週	保育士が社会福祉を学ぶ意義と保育士倫理綱領		保育士会倫理綱領を読み役割を考察する（4時間）		
3週	社会福祉・社会保障の概念と理念と役割		資料「生存権を確かにしたい」を読みまとめる（4時間）		
4週	人口減少と少子化・超高齢社会の現状と課題		低下する出生率の社会的背景を調べる（4時間）		
5週	超高齢社会の現状と将来推計人口・社会問題		2060年の日本社会の特徴と社会問題を考察する（4時間）		
6週	現代社会の貧困の広がり和社会福祉の役割		相対的貧困率について調べておく（4時間）		
7週	現代社会の貧困と子どもと家庭の生活問題		就学援助制度について調べておく（4時間）		
8週	生存権保障としての生活保護制度と課題		最低生活費の体系について調べておく（4時間）		
9週	児童家庭福祉の理念と子どもの権利と貧困問題		子どもの貧困の定義ともたらず不利を調べる（4時間）		
10週	児童家庭福祉の理念と子ども虐待の現状と背景		子ども虐待増加の社会的背景を考察する（4時間）		
11週	日本における社会福祉の歴史		テキストP48～54の事前学習（4時間）		
12週	社会福祉施設の概要と福祉の専門職		福祉の専門職について調べておく（4時間）		
13週	障害者福祉の理念と福祉サービスの方向性		新たな国際障害分類の考え方を調べる（4時間）		
14週	相談援助の意味と原則・支援事例から学ぶ		バイステックの7原則を調べておく（4時間）		
15週	社会保障給費の増大と国民負担、医療保険制度と年金制度		医療保険制度の概要を調べておく（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記試験）70%、提出物30%の総合評価 保育の本質：社会福祉の理念と家庭の貧困、虐待、孤立の社会問題と背景の理解を定期試験と提出物で評価する。 保育の対象への理解：子育てと介護の困難な社会的背景の理解と子どもと家族に対する援助の基礎知識を定期試験と提出物で評価する。倫理的思考力：子どもの人格と権利を尊重し、保育者として虐待や貧困、子育ての困難性を理解し、解決への気づきと関係機関との連携など支援の在り方を定期試験と提出物により評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 橋本好市・宮田徹『保育と社会福祉』みらい（第3版）ISBN 978-4-86015-459-2					
【参考書等】 山田昌弘『少子社会日本』岩波新書 下野新聞子どもの希望取材班『貧困の中の子どもたち』ポプラ社 杉山春『ルポ虐待』ちくま新書 NHKスペシャル取材班『老人漂流社会』主婦と生活社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 テキストは準備学習の教材として活用して下さい。子どもの貧困、虐待等の深刻な社会問題と向き合い、専門職の保育士として保育現場でどんな仕事をしたらよいか自分の生活と結びつけて考える授業です。新聞記事に関心を持って授業に臨んでください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
子ども家庭支援の心理学 (U402)	2	選択 (保育士必修)	2年 後期	講義	赤間 公子
【キーワード】 子育て家庭支援、家庭の多様性の理解、生涯発達の視点					
【授業内容・授業の目的】 幼児期から高齢期までのヒトの発達の道筋を理解することを通して、生涯発達という視点から心理の基礎知識を習得する。現代の社会的状況とその課題について理解し、子どもを取り巻く環境や精神的健康ということについて学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 保育の対象への理解：保育の対象となる家庭の多様性の理解と社会の変遷とその課題を学ぶ。 保育の方法と技能：乳児期から高齢期までの具体的な支援方法を理解する。 論理的思考力：乳児期からの各期の発達と心理の特徴を知り、さまざまな家庭支援の方法や課題について考察する力を身につける。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション	シラバスの通読（4時間）			
2週	乳児期の発達の特徴	乳児期からの人への愛着についてどうとらえるかまとめる（4時間）			
3週	学童期の発達の特徴	学童期の発達の諸問題についてまとめる（4時間）			
4週	青年期の発達の特徴	キャリアとはどのようなことかテキストをまとめる（4時間）			
5週	成人期・中年期・高齢期の発達の特徴	高齢期における自己向上の活動についてまとめる（4時間）			
6週	家族の構造・機能	家族とはどのようなものか考えまとめる（4時間）			
7週	子育て状況の変化	愛着の世代間伝達とはどういうことか考えまとめる（4時間）			
8週	子育て期家庭の生活	男女共同参画についての現状を調べ、まとめる（4時間）			
9週	ライフコース（ワークバランス）-多様な子育て家庭への支援-	母性神話について考え、考察する（4時間）			
10週	特別な配慮を必要とする家庭への支援	特別支援家庭について調べまとめる（4時間）			
11週	子どもを取り巻く生活環境と健康	基本的生活習慣の内容についてまとめておく（4時間）			
12週	子どもの心と健康	子どもの事故防止と危機管理についてまとめる（4時間）			
13週	障がいのある子どもの理解とその家庭への支援	様々な障がいについてまとめておく（4時間）			
14週	災害と子ども	自然災害への保育士の対応についてまとめる（4時間）			
15週	保護者をめぐる問題と課題 まとめ	授業を振り返り課題や疑問についてまとめる（4時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）50%、提出物 40%、受講態度 10% 保育の対象への理解：保育の対象となる家庭の多様性の理解と社会の変遷について定期試験と提出物によって評価する。 保育の方法と技能：乳児期から高齢期までの具体的な支援方法について提出物、受講態度で評価する。 論理的思考力：乳児期からの各期の発達と心理の特徴と家庭への支援への方法や課題について考察する力を定期試験と提出物で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日（金）					
【テキスト】 白川佳子・福丸由佳 『子ども家庭支援の心理学』 中央法規 ISBN 978-4-8058-5789-2					
【参考書等】 宮島清・山縣文治 『保育者のための子ども家庭福祉データブック 2023』 中央法規 ISBN 978-4-8058-8792-9 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 子育て環境は時代の流れと共に厳しい状況となっています。多面的な子育て支援の視点を持ち、保育者としての実践力を身につけるように積極的に学んでほしいと思います。					

学内配置図



体育館3階

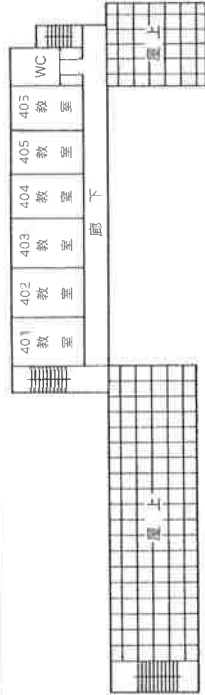


体育館2階



体育館1階

4階平面図



3階平面図

